

眞正の事ナレハ是レハ靈ニシテ凡ク立與ナル者ナリト書セリガリシノ
 信仰個條ハ千五百五十九年ヲランスノ改革教會ニテ編纂セシ者ニテ
 其政治教義ハ共ニカルクソンノ説ニ從ヘリイソングランド國教ノ三十九
 條ハ千五百六十三年女王エリザベツノ命ニ由テ先王エドワルド第六
 ノ時ニ編纂セシ四十二條ニ基キ修正セシ者ニテ其後國會ニテ之ヲ受
 ケテ又彼レ有名ナルウエストミンステルノ信仰個條ハイソングラン
 ドナルロンドンノ古修道院ニテ編纂セシ者ナリ初メ此國ノ國會議員
 等ハ其國教ナル監督教會ノ教義政治ニ満足スル能ハスナヤノ第一
 ノ時之ヲ改良セシムル爲メ教師百廿一人貴族十人平民廿八人舉ケ之
 テ委員セシカ此頃スコットランドノ長老教會ヨリモ亦其委員會ニ加入
 セリヨリ願ヒ其委員五人ヲ派出セシメシカ於此等ノ者ハ千六百四十
 三年ヨリロンドンナルウエストミンステルノ古修道院ニ於テ開會シ

タリ然ルニ此委員ハ監督長老獨立等ノ諸教會ヨリ出タル者ナレハ監
 督政治ヲ信仰スル者ハ或ヒハ暫ク出會シテ其後欠席シ或ヒハ全ク出
 會セサル者モアリタレモ其他ノ委員ハ開會後凡ク四年半ノ間ニ千百
 六十三回ノ會議ヲ開キ信仰個條及ヒ問答書等ヲ編纂シ直ニ其院名
 ヲ采リテ之ニ名シテ然ルニ此信仰個條等ノ教義及ヒ政治ハ全クカ
 ルウソンノ説ニ契合スル者ナレハ廣ク歐羅巴諸國ノ改革教會ニ用テ
 レ其勢力アルコトハイデラルベシノ信仰個條ニ亞キタリ但イソングラン
 ドナル獨立教會ノ者ハ此信仰個條ノ政治ヲ満足スル能ハス千六百五
 十八年ロンドンナルサウサニ於テ更テニ信仰個條ヲ編纂セリ蓋此信
 仰個條モ唯其政治ヲ異ナル耳ニテ其教義ハ全クウエストミンステル
 ノ信仰個條ニ從ヒリ合衆國ナル組合教會ノ中ニ能ク行ハルハ三種ノ
 信仰個條ハ政治ノミハ獨立政治ヲ用ユレモ教義ハカルクソンノ説ニ從

者... 諸教派... 改革... 當時... 性英敏... 輔翼... 因テズ... 說明... 三者... 者... 也... 實微...

張... 在世... 爲... 批評... 一「復... 爾... ノ後... ハ自... ノ「ワ... 兒童... 會... ナ受...

ミ居ルキ者ナリト稱シ其家族等ヲ加入セテ更生者ト特別ニ聖靈ノ
 感化ヲ受クシテハ普通ニ者ト同シカラスト稱シ或ヒハ幻象ヲ觀成セシ
 過度ニ熱信スルヲ抄カラス又信徒ハ皆道ヲ傳ユル權アリト稱シ神ノ
 命セシ聖職者ヲ拒ミ且此世ノ邦國ハ凡ハテ轉覆シ神ノ邦國カ威力ニ
 由テ建ラシ人類ハ皆此邦國ニ入ルナリト主張スルナリ
 抑モ此教派ノ起レル發端ヲ探スルニセルニ於テハ其源ヲ追フニ於テ
 エルナル者カ千五百三十年始メテサキソニナルウカサニ於テ其徒
 弟等ヲ囑集シ教ヲ講義ヲ爲セシカ其後騷亂ノ際此地ヲ驅逐セラ
 レタルハ此徒弟等ハ彼ノルカワルトハルゾニ潜居セシ頃ニウ
 ケテシテハ此ノニ來リ改革中心ノ地ニ於テ其説ヲ弘メ且起圖シ其頃
 又ニ世ヲ以テナルナル者ハ此主義ヲ以テ更テニ一教派ヲ建設セシ
 ト欲シ其教徒中ニ十二使徒及モ七十二徒弟ノ名稱ヲ建テシカ彼ノル

ヨテルノ朋友ニシテ改革家ナルカルスヲトモ遠ニ其説ニ誘惑セラレ
 シリシザイナルヲトモニ於テハ改革家中ノ或者等ハズウキソク
 述ヘタル會堂ニテ講義ヲ爲スルハ教會ノ古禮式ニテラストシテ説ク
 泥シ新クニ使徒時代ノ如キ教會ヲ建設セント欲シ漸々其教會ヲ離レ
 普通民會ニテ集會ヲ爲セシカ此等ノ徒ハ後年ニ至リ兒童ニ「マ
マ」ヲ施行スルコトヲ否ミ又稍ヤ感奮セシ形狀アリタレハ未ダ騷亂ニ至
 ラズシテ止ミタリホルランドニ於テハライオンノ裁縫師シヨン、ブ
ルトナル者アリ千五百三十三年頃セルマニノ西部ナルムンステルニ
 至リ基督ノ邦國ハ此處ニ於テ建設セラルヘントテ其地ノ人民等ヲ誘
 惑シ遂ニ人民等ノ推薦ニ由テ其王位ニ登リ此土地ヲ占領セシカ其後
 或者ヲ擇ヒ管事者ト爲シ之ヲ監督ト號シホルランドナルライオン及
 モアムステル等ノ地ニ派遣セリ然ルニ此ライオンニ赴ケル管事

者ハ將ニ火ヲ放チ其市街ヲ焚燒セシトモシカ未ダ事ヲ舉ゲルニ及
 ス早ク官吏等ニ檢出セラシタリ又アムステルダムニ赴ケル管事者ハ
 其地ノ復ハアテスト派ノ者カ千五百三十五年頃ハビロソ悲哉神ノ
 龍怒ト叫ビ男女共ニ赤裸ニ爲リ其市街ノ内外ヲ走り巡リ官等カ之ヲ
 制抑シテ衣服ヲ被セシメント爲シタレモ敢テ用非遂ニ殺害セラレタ
 ル者許多アリソニ由テ今者此地ニ來ルニ及ヒ爾カニ其餘類ヲ煽動シ
 騷亂ヲ起サシメ機ニ乘シ其地ヲ占領セント謀リシカ亦早ク官吏等ノ
 爲メ鎮定セラレ其謀首等ハ皆種々ノ刑罰ニ處セラシタリ且又彼ノ
 ンスラニ於テモ從前ノ監督等軍兵ヲ募リ千五百三十六年其市街ヲ
 圍ミシカハブコルド以下ノ者ハ遂ニ之ヲ防禦スル能ハス此等軍兵ノ
 爲メ鐵橋ニ入レ或高塔ノ上ヨリ吊下セシ後暗殺セラレタリ抑モ彼ノ
 ルーテルハ深ク此等カ舉動ヲ惡ミシニ由テ徧ク人民等ヲ諭シ尙特異

ナル神ノ默示ヲ受ケシ者ナラハ特別ナル證據ヲ顯ハカ、ルカラス
 雖我儕ハ神言ノ外別ニ據ルヘキ者ナシ云ヒ其加入スルコト戒メ
 シカ此教派中ニモ斯ル教狂ニ與セサル者許多アリ蓋此等教狂ノ結果
 ハ「エラステアン」政治即チ教會カ其國政府ノ干涉ヲ受ケサルヘカラス
 政府モ亦止ムヲ得ス教會ニ干涉シ其紛亂ヲ靖定セサルヘカラス形
 狀ト爲レリ
 ホランダノ或者等ハ千五百三十六年メソシ、シモンズナル者ノ勢力
 ニ依リ一教派ヲ起シ其名ヲ「メソシナイテ」派ト稱セリ抑モ此メソシ、シ
 モソスハ原ト天主教ノ教師ニシテ甚ク酒ヲ嗜ミ無學識ナル者ナリ
 シカ或時「マス」ノ禮典ヲ行フニ方リテ其麵包ハ實ニ基督ノ肉ニ變化ス
 ルヤト想起シ是レヨリ聖書ヲ讀ミ心ヲ改メ其後遂ニ福音ノ眞理ヲ講
 述セシカ後又復ハアテスト派ノ或者カ死セシ時聊カ感覺スル所アリ

始メテ「バプテスマ」ノ教義ニ就キ考案ヲ起シ新約聖書ヲ調査セシメ其書中毫モ兒童ニ之ヲ施セシ明文アラザリシカハ遂ニ自ラ兒童ニハ必ス「バプテスマ」ヲ施スヘキ者ニアラスト考定セリ然ルニ其頃此國ナレバ「復バプテスマ」派ノ教徒等ハ種々ノ迫害ニ逢ヒ甚ク困苦セシ際ナレバ今者メソノ事ヲ聞キ直ニ其許ニ至リ懇切ニ此派ノ爲メニ周旋セシメテ願望セシニメソノハ之ニ從ヒ自ラ其教師ト爲リ妻子ヲ携ヘホルラント及ヒ北セルマニ諸邦ニ至リ大約二十五年許リ其擴張ニ從事シ之カ爲メ種々ノ迫害ニ逢ヒ殆ント生命ヲ喪ハントセリ却説此人ハ天資活潑ニシテ辨舌雄爽ナル耳ナラス信仰篤ク耐忍アリ且其頃諸書ヲ涉獵シ稍ヤ學識ヲ備ヘシニ由テ其勢力教徒ヲ專制スルニ至リシカ大ニ其教義ヲ更改シ唯更生者ノニ教會ニ居ルヘキ者トスルハ敢テ從前ト異ナラカレトモ幻象ヲ觀又ハ過度ニ熱信スルコトヲ以テ更生ノ證據

ト爲スヲ拒ミ且世ノ學問ヲ以テ聖靈ノ感化ヲ妨クル者トシ聖職者亦更ナリ教徒等モ之ヲ修シテシメ又教徒ハ戰陣ニ臨ミ或ヒハ裁判所ニテ宣怒ヲ爲スルヲ禁メ千福年ノ説ヲ主張セリ此人ハ千五百六十年頃死去セシカ其著述セシ信仰個條及ヒ問答書等ハ皆ホララント語リテ其文章極メテ難雜重複セル者ナリ抑モ歐羅巴大陸ノ「復バプテスマ」派ノ者ハ大概其規律ノ同シカラサルニ由テ兩派ニ分レシカ一ハ甚ク嚴格ナル教系ヲ守リ一旦蹉跌セル者ハ設令改悔ヲ爲スル教會ニ復歸スルコトヲ許サズ「バプテスマ」ハ唯浸禮ノミヲ以テ正式ト云ヒ一ハ其教系稍ヤ寬ニシテ「バプテスマ」ノ如キモ其正式ハ固ヨリ浸禮ナレバ酒禮モ亦正式ニアラサルナシト云ヘリ蓋此等ノ派ハ從前ノ「復バプテスマ」派ヨリ稍ヤ善良ナル者ナリト云ヘリ蓋イソングランドノ「復バプテスマ」派ハ實ニ千六百十年ニ建設セリ蓋メソ

メナイト派ノ者ハ既ニ第十六世紀ノ中葉ニ此國ニ渡航セシガレハ
 シル第八及ビシリヤ女王ノ爲メ迫害ヲ受ケシ耳ナラズエドワルド第
 六及ヒユリヤベツ女王ノ爲メモ迫害ヲ受ケタリ却説此復バプテス
 ト派ノ者ハ唯自己ノ教會ノミヲ以テ真正ナル基督教會ナリトシ他ノ
 教會チ凡テ排斥スル耳ナラズ歐羅巴大陸ノ復バプテスト派トシ關
 係ホシト自稱スレモ其教義ハ「メソノナイト」派ノ説ヲ受理シ兒童ノ「バ
 プテス」ヲ受クル下チ否ニ又浸禮ノミヲ以テ「バプテス」ノ正式ト爲
 セリ然ルニ此派モ亦其後兩派ニ分レシカ其一ハ全クカルウソノ教系
 ヲ受クル者ニテ「ロンドン」ナル七個ノ教會ヲ者カ千六百四十三年以
 來凡シ四十六年間ヲ閱テ編纂セシ信仰個條ノ教義ハ全ク彼「ウエス
 ト」ミンズ「ウエス」ノ信仰個條及ヒ「ウエス」ノ信仰個條ト符合スル者ナリ又
 他ノ一ハ多ク無學ナル教師ニ「ウエス」ナル教義特ニ其預定説ト否

ニ且一性派ノ者等ト共ニ晚餐ヲ守ルコト許スナリ蓋其政治ハ兩派共
 ニ獨立政治ヲ用キ且當時ハ唯「バプテスト」派トシ稱シ合衆國ノ中ニ
 モ弘行セシナリ
 二「ピユリタン」派 イングランドノ或者等ハ「エドワルド」第六ノ頃ニ
 リ既ニ其國教ニ満足スル能ハス尙ホ之ヲ改革シ倍々福音主義ニ從ヒ
 教會ヲ建テント欲セシカ其後漸々結合シテ遂ニ一派ヲ建設シ世入
 リ「ピユリタン」即チ純潔派トシ稱號ヲ得タリ蓋是レハ其從來教會ニ存
 スル舊習チ一洗シ凡ヘテノ禮典ヲ撤除セント希望セシニ由テナリ却
 説此派ノ者等ハ甚ク聖書ノ如字的ナル意義ヲ尊ミ之ヲ墨守スル耳ナ
 ラズ之ヲ以テ教會ノ政治及ヒ拜禮式等一切ノ基礎ト定メ其他人造ノ
 禮式等ハ皆之ヲ排斥シ且祭日及ヒ會堂ノ裝飾樂器等ヲ用キルコトナク
 世ノ快樂ヲ執ラス唯聖書ニ明記セル拜禮ノミヲ守ラント欲セリ又此

派ノ者ハ神ノ國ハ無上權ニシテ其制定セシ律法トハ即チ聖書ナリ其
 稱シ小兒ニ名ヲ命スルニハ聖書中ノ人名ニ倣ヒ戰闘ノ時ハ古昔モ
 セカカナジテ滅セシ例證ヲ標準トシ安息日ハ必ス聖日トシテ守ラサ
 ルベカラヌト主張シ平生相互ニ用ケル言語ニモ多ク聖書ノ神言ヲ援
 引スルナリ
 此派ノ者ハ初メ甚ク僅少ニシテ且マリア女王ノ頃ハ歐羅巴大陸ノ中
 三遺亡セシカエリサベツカ王位ニ登ルニ及ビ再ヒ本國ニ歸レリ然ル
 ニモリサベツカ女王ハ監督教會ヲ以テ其國教ト定メ且法律ヲ設ケ國內
 諸教派ノ者ヲ皆其國教ニ合併セシメテ謀リ此派ノ者カ國教ト合併
 スルハ我良心ニ背クカ故ニ敢テ之ヲ爲ス能ハスト述ヘシレモ遂ニ其
 權力ヲ以テ之ヲ壓伏セシト爲リ茲ニロベルドプロウチナル者アリ教
 會獨立リ説ヲ主張シ千五百八十一年頃新クニ一派ヲ建設セシカ是レ

即チ後年及ビテ組合教會ト稱スル者ナリ其頃又リヤナルト云フシ
 ヲウト云ヘル者アリ千五百八十八年ニ異説ヲ主張シテ監督ノ職ハ
 天授ニシテ其權ノ重大ナル敢テ長老ノ比類ニアラス且接手禮ヲ施行
 スルコトハ監督ノ權ナレハ長老ニテ施セシモノハ決シテ效驗ヲキナリ
 ト云セシカ此人ハ後年カシテルベリノ大監督ト爲レリ其後スコットラ
 シド王ヨシムス第一カ千六百〇三年イソングランドノ王位ヲ兼テシ頃
 ニ方リ長老教會ノ者等ハ此シニムス第一ハ原トスコットラシド人ナレ
 ハ必ス監督教會トビユリヤン派リ紛紛チ中裁スヘシト想像セシニ此
 人ハ深ク王位天授説ヲ信シ且監督教會ノ此説ニ左袒スルコトヲ知リテ
 レハ敢テ其仲裁ヲ爲ササル耳チラスカレシノ教義ヲ容許スルコトヲ
 拒ミ千六百十八年「ドール」ノ議會ニ以テ代理公使ヲ派遣シテ其決議
 ヲ實施スルコトヲ承諾セカリシナリ」ビユリヤン派ノ者ハ此頃種々ノ妨

碼ニ遇ヒタルニ取テ沮撓スルコトナク倍々其勢力ヲ擴張セシガ貴族及
 七農商製造家等中等社會ノ者多ク加入シ合衆國移住人ノ中ニモ亦熾
 ノニ私術セリナヤリス第一ハ千六百二十五年其王位ニ登ルニ及ビ大
 ニ王室及ヒ監督教會ノ權力ヲ擴張セシト欲シカシテルベリシ大監督
 ウイリアム、ラウドナル者ヲシテ其事ヲ管掌セシメシカ此ウイリアム、
 ラウドハ天資聰明ニシテ學識深シ天主教ノ如キ教義ヲ信仰スルコト
 ラサレトモ優柔不剛ニシテ頗ル儀文禮式等ヲ好ミタルハ先王ニシテ
 ツノ時頒行セル國教合併ノ法律ニ從ハサル諸教派ヲ解散セシメント
 欲シ其着手ニ罹リシニ始メハ敢テ其法意ヲ枉シルコトヲガリシカモ
 後稍ヤ之ヲ違犯セシニ因テ千六百四十四年「ビュリタン」派ノ者ヨリ國
 民ノ自由ヲ盡感スルトノ訴訟ヲ受テ捕縛シ後遂ニ斬首セラレタリシ
 カ此頃總理大臣スタラッポルドモ亦暗殺セラレタリ先是國會議員等ハ

當時ノ國教ニ満足スル能ハス千六百四十三年ヨリ數年間ロンドンナ
 ルウニストミンステルノ古修道院ニ委員會ヲ開キ教會ノ政治及ヒ教
 義ヲ議決セシメ遂ニ從來ノ監督政治ヲ廢シテ「ナヤリス」第一ハ即位
 以來屢々其前言ヲ食ミ國會ノ承諾ナク租稅ヲ賦課シ且國會ノ重要ナ
 ル議員五人ヲ國事犯ノ罪アリト稱シ之ヲ其宮中ニ拘留スルコトヲ命ス
 ル等種々ノ虐政ヲ行ヒシ爲メ遂ニ國內ノ騷亂ヲ惹起シ併替等ニ生擒
 セラレシカハ「ビュリタン」派ノ者ハ之ニ乘ジ自己ノ說ニ從ハサル議員
 ナ驅逐シ「ナヤリス」第一ノ罪ヲ定メ千六百四十九年其首ヲ刎テ彼ノオ
 リウエル、コロムウエルヲ推薦シテ「プロテスタント」即チ攝政官ト爲セリ此時
 「ビュリタン」派ハ派内分歧シテ長老教會獨立教會ノ二派ト爲リ「コロム
 ウエル」ハ特ニ獨立教會ヲ贊成セリ然レモ此人ハ人民ニ天主教及ヒ監督
 教會ヲ除ク外ハ自由ニ諸教會ヲ信仰スルコトヲ許容セシカ其頃此國

ニ種々ノ教派起レリ即チ(一)第五邦國派 此派ハ千福年論者ニシテ基督カ第五ノ邦國ヲ建ルト主張セリ(二)ソヘケル派 此派ハ一種ノ玄奧論ヲ主張セリ(三)律法廢棄論者 此徒ハ舊約ノ律法ヲ廢棄シ唯基督ノ福音ノミチヲ主張セリ(四)自然神教 此徒ハ唯造物主ノ存在ヲ信スル耳ニテ默示ヲ信仰セサルナリ(五)寛容教家 此徒ハ自己ノ意ニ從ヒ種々ノ教義ヲ信シ又監督政治ヲ好メ其緊要トスル所ハ實ニ僅少ナル教義ノミナリ其他アレト派ノ學問ヲ好ム者許多アリ此等ノ中ニハ有名ナル學者モ少カラカルナリ却說此國ハ千六百六十年ニ至リテ又王政ヲ回復シチヤレス第二ニ建テ其國王ト爲セシカ此人ハ品行甚チ不正ニシテ且ビユリゲン派ニ反動ヲ起シテ監督教會ヲ再興セシ耳ナラス

大ニコトヲソド及ヒアイルランドニモ監督ヲ設置シ特ニスコットランドニシテ其國人ヲ壓伏スル爲メ憲兵ヲ派遣シ多ク之ヲ殺害セシカハスコ

トランド人モ亦之ニ抵抗セントテ盟約ヲ建テ多人數結合シケレハ世人之ヲ稱シテ結約黨ト云ヘリ却說イングランドニテハ千六百六十二年再ヒ國教合併ノ法律ヲ廢シビユリゲン派ノ者等カ之ニ服從セサルニ由テ其聖職者二千人ノ職ヲ褫フテ之ヲ放逐シ且其教派ノ說ヲ摧破セシ爲メ娛遊篇ト題スル小冊子ヲ著ハシ安息日ニ爲スヘキ娛遊ノ事ヲ記シ安息日毎ニ信徒ヲシテ之ヲ讀マシメシカハ其後二十五年許リニシテ信徒ハ之カ爲メ殆ント眞正ナル信仰ヲ喪フニ至レリシニムス

第二ハ千六百八十五年其王位ニ登リシ以來竊カニ天主教ヲ再興セント欲シ敢テ監督教會ノ者等ノ諫諍ヲ用キサリシカハ國民等遂ニ謀叛シ國王ノ女婿ナルホルランドノオランダ侯ウイリアムヲ迎ヘ之ヲ選立シケレハウイリアムハ許多ノ軍兵ヲ率キテ此國ニ來リテレハ嘗テ一戰ノ功モナシ其王位ヲ得タリ時ニ千六百八十九年ナリ却說ビユリ

派及ヒ其他ノ國教ニ從ハサル者其後國會ノ決議ニ由テ其罪ヲ
 不問ニ付スコトニ定メラレシ爲メ爾來稍ヤ安穩ヲ得タリ
 三 玄奧及ヒ「クヘケル」派 彼ノル「カ」未ダ在世セシ頃セルマニ
 ニ於テ人ノ本心ニ神ニ吸收セラレ、ナリト云フ凡神的人ノ玄奧學流行
 せシカレド「カ」固ヨリ玄奧學ヲ好ミ玄奧主義ノ書ヲ讀ミ彼ノ「セル
 マ」ニ「神學」ト題スル書ノ如キハ深ク貴重シ自ラ之ヲ出版セシ人ナレ
 ハ此學者ノ唱ヰル神ト交通スルトノ說ノミヲ信シタリ且其能ク自
 ラ罪アルヲ及ヒ人類ト神トノ關係ヲ曉知セシニ由テ敢テ之ニ傾嚮セ
 サレシガ其後此國ニテ之ヲ信仰スル者多ク起リ未ダニ教派ヲ建ルニ
 至ラカレド「カ」隆昌セシナリ
 第十七世紀ノ中葉「カ」ラ「カ」ニテ「カ」ニ「カ」云々者アリ知
 識的ノ玄奧學ニ基キ一教派ヲ起セリ却說此人ハ原「カ」製製造者ナリ

幼少ノ頃ヨリ屢々沉思ヲ爲シ又監督教會カ禮文ニ拘泥スルヲ及ヒ
 「ビ」派ノ者如字の教義等ヲ墨守スルヲ「カ」ニ満足スル能ハス
 年甫十六歳ノ時神ノ徵召ニ由テ偉業ヲ建テシテ志ヲ起シ是レ
 ヲリ世ヲ捨テ叢林ノ中ニ隱シ草衣ヲ被テ斷食及ヒ沉思ヲ爲セシガ其
 後數年ニシテ又世ニ出テ「カ」ニ至リ始メテ講義ヲ爲セリ
 時ニ歲廿三ナリ(千六百四十七年)然ルニ其常ニ大ナル音聲ヲ發シ且一
 種奇異ナル玄奧說ヲ述ヘシニ由テ聽衆等屢々沸騰シ或時ハ遠ニ此人
 ヲ捕ヘテ獄舎ニ下タシ又或田舎人ハ此人ヲ告訴セシト爲セシニ此人
 ハ自ラ其訴狀ヲ持テ「カ」ニ至リ暫シコロム「カ」ノ前ニ於テ詰
 問ヲ受ケシカ此人ハコロム「カ」ノ前ニ至リテモ其自己ノ主義ニ從ヒ
 敢テ帽子ヲ脱セサリシナリ却說世人ハ最初此人ノ講義ヲ妨碍セシト
 テ屢々之ヲ迫害シタレド後來其深切懇篤ナルヲ知ルニ及ヒ能ク之ヲ

聽聞シ遂ニ其教徒ト爲ル者許多アリ且此教徒ハ多ク諸方ニ散在スレ
 且相互ニ之ヲ指シテ朋友ト稱シ又其講義ヲ爲ス時ハ常ニ自ラ戰慄ナ
 ル聲ヲ爲ス耳ナラス世人ニモ亦神言ヲ聞ク時ハ必ス戰慄スヘシト教
 ニ故ニ世人ハ之ヲ「シヘケル」即チ戰慄ト稱スルナリ此派ハ人造ノ拜禮
 ナリテ不足ナリトシ教會ノ拜禮式及ヒ教會ニ關スル國法ヲ拒ミ甚シ
 キニ至リテハ威督發狂スル者モ亦抄カラス特ニ「シヘケル」トシテ
 者ハ自ラ義ノ無限ナル子ト稱シ世人カ聖歌ヲ謳ヒ己ヲ讚美スル
 事許シテ抑モンクハ千六百九十年ニ死去セシカ歐羅巴大陸ニテ
 ハ其說ヲ信個スル者甚ク僅少ナレドモイノグランド及ヒ合衆國ノ中ニ
 其後漸々弘衍シ教會ノ數大約五百有餘アリ且此教義ハ「ヤレ」第
 ニノ頃ヨリ稍ヤ正教ニ向キウイ「ヤレ」及ヒ「ロベ」等
 ノ貴族等之ニ加入セシカハ「ヤレ」其後漸々此派ノ諸教義ヲ蒐輯シ

一 軼ノ書籍ト爲セリ却說此派ノ教義ヲ略述スレハ人類ハ唯基督信徒
 ノミオラス一般ニ皆神ノ知識ノ火花ニシテ之ヲ燃焼スルニハ唯沉思
 ノ一法アルニシテ真理ハ其火光ノ力ニ由テ開悟スルコトを得ルモノニテ
 是レ所謂内部ノ言辭即チ我儕人類ノ身ニ存在スル基督ナリト云ヒ且
 現今ニ至リテハ聖靈ノ其身ニ宿ル「ヤレ」就キテモ專ラ内部ノ言辭ノミ
 ナ重ク必ス之ニ服從セサルヘカラスト爲シ聖書ヲ尊崇スル「ヤレ」甚ク薄
 ク聖書ハ我儕ノ内部ニ存在スル言辭ヲ指示シ且感化スル者ナリト云
 へ又聖禮典及ヒ接手續ヲ受ケ教師ト爲リ成文ノ禮典ヲ守リ聖歌ヲ
 誦フ等ノ事ヲ拒ミ此等ハ皆最初教會ニテ權リニ設定セシ者ニ過キス
 ト云ヘリ此派拜禮ノ形狀ヲ述ベレハ教徒ハ集會日毎ニ其會堂ニ集會
 スルニ會堂中ニハ聖書及ヒ講壇等ナク唯暫ク椅子ニ據リテ沉默俯視
 スルニ或時ハ感話ヲ爲ス者アルニ或時ハ全ク時默シテ會ヲ了スル

ノ如ク敬虔説ヲ信仰シ之ヲ唱道セシカ他ノ教諭等ヨリ抵抗妨碍セラレシ爲メ其同志者ト共ニハレニ至リ其地ニ於テ後年有名ナル一大學校及ヒ孤兒養育院ヲ建設セリ却説此敬虔會ノ結果ハ最初ハ甚ク善良ナリシガレ其後漸々腐敗シ妄信疎狂ノ徒種々ノ異説ヲ主張シ且會員ハ皆聖書ヲ説明スル權アリト稱シスベチル等諸方正ナル會員ヲ抑ヘ却テ教會ノ盡害ト爲リシヲ抄カラサレハスベチル等ハ深ク之ヲ慨歎シ遂ニ自ラ脱會スルニ至レリ却説或者ハ嘗テ此會ノ過失ヲ舉ケシカ凡ソ三個アリ即チ(一)信仰個條ノ真正ナル利益ヲ忽諸ニス(二)教會ノ盤ナルコソミチ重シ歴史上ノ事ニ關係セズ(三)心身ノ經驗ヲ重シ外部ノ諸事ヲ蔑視シ玄奧ニ傾嚮スル弊アリト

五「モレウイアン」派 ボヒミア及ヒモレウア州共ニアウストリアノ北部ナル四百許リノ教會ハ改革以前ユリ彼ノ有名ナルジョン、ホズ等ノ

盡力ニ由テ既ニ後來改革家ノ唱道スル如キ説ヲ信セシカ天主教徒カ之ヲ窘迫シ其教會ヲ蹂躪シ又其信徒ヲ多ク殺害スルニ及ヒ大概禍ヲ避ケ遠國ニ移住シ自ラ「モレウイアン」人ト稱シタリ抑モ此派ノ開祖キリニコ侯ツインツヘンドルフナル者ハ千七百〇〇年デレスデソニ生レ幼少ノ頃ハ敬虔家ノ教育ヲ受ケ彼ノスベチルヲ以テ「バプテスマ」保管者ノ一人ト爲シ已ニ成長スルニ及ヒハレノ大學校ニ入りアウグストス、フランケノ教授ヲ受ケ又ウイテンベルグノ大學校ニ入りシカ其後二年許リ諸國ヲ遊歴シテ諸派ノ基督信徒ト交通シ大ニ感スル所アリシカハ是レヨリ信仰個條ノ束縛ニ據ラス唯耶穌基督ノ愛ニ由テ信徒ヲ結合シ且廣ク諸國ニ傳道スヘシトノ大志ヲ起シ自ラ奮フテ其業ニ従事セリ時ニ歲凡ソ二十一ナリ然ルニ此人ハ其頃モレウイアン人ノ我領内ニ移住セシ者ニ就キ其教義ヲ聞キテ大ニ感服スル所アリ能ク此

者等ヲ保護セシニ其後移住スル者倍々増加セシガハ遂ニ此等ヲ結合
 シ一派ヲ建テ抽籤ニ由テ其名ヲ「モレウア」派ト稱セリ蓋此人ハ初メ別
 派ヲ建テス「ルーラル」教會ノ中ニ居ラント希望シタレモ其他ノ者等之
 ナ用キス途ニ茲ニ至レリ却説ツイントフハ千五百廿七年頃
 此派ノ監督ヨリ接手禮ヲ受ケ其首領ト爲リテ盡力セシカ後來教徒ノ
 倍々増加スルニ及ヒ政府ノ嫌疑ニ由テ委員ノ詰問ヲ受ケシ後其國境
 ヨリ放逐セラレシカハ諸國ヲ巡歴シホルランドデンマルツイングラ
 ンド合衆國等ノ中ニ其教派ヲ弘メ其後十年ニシテ政府ノ赦免ニ因テ
 奮願ニ歸レリ抑モ此派ハ常ニハ長老監督ヲ置キ其政治ヲ爲サシムト
 ニ出タル所ノ神言ニ從ヒテ之ヲ決スルナリ又此派ニハ種々ノ書類及
 ヒ聖歌等アリ其聖歌中ニハツイントフカ集會ニ臨ミ突然口

占シテ教徒ニ授ケシ者モ拙カラナルカ此等ハ皆聖書ノ本義ヲ究メス
 其形容詞ニ就キ直ニ如字ノ解釋ヲ下スカ故ニ猥褻ニ流ル、者少
 カチス例ヘハ三位一體ノ教義ニ子ハ父母ニ由テ生レシ者ニテ聖靈ハ
 即チ其母ナリト云ヒ又聖書ノ教會ハ基督ノ新婦ナリトノ語ニ從ヒ教
 會ハ凡ヘテ基督ノ新婦ナレト特ニ婦人ハ皆基督ヲ以テ其本夫ト定メ
 良人ハ基督ノ代理ト信スヘシト教ヘシ如キ是ナリ故ニ此派ハ始メ其
 書類等ノ爲メ自ラ傷害ヲ招キ大ニ諸教會ヨリ侮辱セラレタレモ漸々
 其教義ヲ改良シ且アウグスブルグノ信仰個條ヲ受ケ之ヲ以テ信仰ノ
 標準ト爲スニ至リ稍ヤ善良ナル者ト爲リ且此派ハ歐羅巴亞米利加兩
 大洲ニ於テ大約十八萬ノ教徒アリ決シテ盛大ナル者トハ云フヘカラ
 サレモ其外國傳道ニ熱心ナルコトニ至リテハ諸教會ノ仰キ以テ模範ト
 スル所ナリ

第四章 教義

第一節 基督學

一 本位ニ就キテノ見解

(一)「ロマ」教會 此教會ノ者ハ陽ニハカルセドノンノ大議會ニテ決議セシ基督ニ兩性一本位アリトノ教義ヲ受クレド實際ニハ基督ノ人性ハ其神性ノ爲メ吸收セラレタリト信シ隨キテ中古頃ノ畫工等ハ基督ノ肖像ヲ模寫スルニ其神威ヲ顯示スル爲メニ其頭邊ニ後光ノ圖ヲ付ケタリ又此教會ハ信徒等ニ基督ヲ以テ恰モ嚴格ナル裁判人ノ如ク中保ニ依ラサレハ之ニ接近スベカラサレ如ク教導スル故ニ信徒等ハ之ニ接近シ且祈禱ヲ捧グルニ童貞女マリヤ及ヒ其他ノ天使聖徒等ノ中保ヲ頼ム習慣アルナリ

(二)「ルーテル」此人ハ基督ニハ真正ナル人性アリ其幼稚ノ頃ニハ他ノ

兒童ト均シク遊戯ヲ爲シ其後知識能力ノ漸々發達モシテ等敢テ純然ナル人性ニ異ナラサレハ實ニ我儕人類ト兄弟ナル者ナリト云ヒ天主教ニテ教ユル如キ説ヲ厭忌セリ且此人ハ此教義ニ就キ最初ハ基督ノ神性ハ固ヨリ具備スル者ナレド是レハ唯存在スル耳ニテ敢テ作動セサル者ノ如ク論シタレド其後聖體合議説ヲ述フルニ及ヒ基督ハ神人兩性ノ一致セシ時ヨリ其人性ニ神性ノ屬性ヲ受ケタリ蓋是レハ漸次ニ賦與セラレシ者ニテ其全ク受ケシトハ昇天ノ時ナリト云ヘリ抑モ此人ハ固ヨリ基督ニハ一本位アリト信仰シタレド屢々其著書中ニ於テ人性ノ力ヲ述ヘ讀者ヲシテ恰モ兩本位アル如ク推測セシムルニ由テ其教會ノ者ハ稍ヤ之ニ蹉跌スルトアリ又此人ハ常ニ基督ノ四福音書中ニテ述ヘタル我ト云フ辭義ヲ説明スルトチ避ケタリ

(三)「ズウヰン」此人及ヒ改革教會ノ者ハ能ク基督ノ兩性ヲ區別シ

是レニハ各特別ナル屬性アリ且互ニ移属スル者ニアラサレハ一ノ本位ニ據リテ共ニ一致スルナリトシ又路加傳四章十八節ニ記載スル靈ハ基督ニ在ス及ヒ基督ノ奮テ沃カレタリトシ意ハ即チ其神性ハ靈ニ由テ變動スル者ニアラサレハ其人性ハ人類ヲ救拯スル凡ヘテノ準備ヲ整フル爲メ適當ナラシメントテ沃奮セリト説明セリ是ヲ以テズウキングリ等ノ者ハ能ク基督ノ人性ハ漸次ニ成長シ智識能力ノ發達シテ事業ヲ爲スニ充分ナル者ト爲リシ耳ナラス其人性ニハ非常ノ能力光輝アリシヲ信スレハ決シテ人性ノ神性ニ一變セシ説ヲ信セサルナリ

〔四〕諸學者

(一)メラシントン 此人ハ基督ノ本位及ヒ性質ニ就キテ思辨スルトチ好マス基督及ヒ神ニ關スル種々ノ默示ハ魁メテ一致セシムルヲ謀

ラス唯喜ヒテ之ヲ受理スルヲ以テ可ナリト爲セリ
 (二)移属説 セルマノ南部ナルスワビア州ノ神學者等ハ此教義ニ就キテ思辨ヲ爲シ基督ノ兩性ハ一致ヲ爲セシ以來神性ノ屬性カ直ニ人性ニ移属セシヲ以テ基督ハ未タ胎内ニ在ル時ヨリ既ニ全知全能等ノ屬性アリト云ヒ又或者カ基督ハ奈何ニシテ他ノ人類ノ如ク成長學習受苦ヲ爲セシヤト抵抗セシニ是レハ基督自己ノ決意ニ由テ爲セリト答ヘタリ蓋此等神學者ノ説ノ如ク倘基督ハ一切ノ事ヲ預知スル權カアリトセハ基督ハ奈何ニシテ之ヲ撤除スルヲ得シヤ
 (三)隱密説 此説ハツピンゲンノ大學校ノ神學者等ノ唱道セシ者ニテ即チ基督ハ此世ニ在ル間自ラ其神性ヲ抑制シテ之ヲ隱蔽セリト云ヘリ又或學者ノ説ニテハ馬太傳十七章ノ首ニ記載セル基督カ山上ニ於テ顯示セル奇異ナル容貌ノ如キ者ハ凡ヘテ皆其神性ノ暫ク發顯セル

者其トアリトシテ、
 (四)撤除説、此説ハ第十八世紀頃サキヨシ侯ツイソツヘン、
 立比書三章ノ六節乃至八節ノ經文ニ基キテ首唱セシモノニテ、即チ基
 督ハ博愛ニシテ、且慈惠アリ人類ト顯彰スルニ方リ凡ヘテ神性ノ屬性
 ナ撤除シ取テ普通ノ人類ト異ルコトナク特ニ最卑最賤ナル者ト爲リ苦
 ナ受ケテ死セリト云ヒ或者カ種々ノ疑問ヲ設ケテ之ヲ排駁セシニ我儕
 其此等ノ教義ニ關スルコトナリ唯廣大ナル基督ノ愛ヲ顯ミサルニカラ
 スト答ヘタリ
 (五)新撤除説、第十八世紀ノ季頃ハ此教義ニ就キ特異ナル議論起ラサ
 リシカ今世紀ノ中葉ニ至リセルニ於テ新撤除説ト稱スル種々ノ
 説起リ之ヲ信仰スル學者許多アリ其重要ナル者即チ左ノ如シ
 トマシク、此人ノ説ニハ基督ノ本位ハ唯一個ニ歸スルナラハ人ノ

屬性ヲ以テ神ノ屬性ト爲スニアラサレハ神ノ屬性ヲ以テ人ノ屬性ト
 爲サハルカ、
 真正ナル説トスヘシ故ニ我儕四福音書ヲ研究スルニ基督ノ自稱セル
 我ト云フ辭ハ唯一ノ本位ニシテ其降世以前ヨリ存在セル無限者ナレ
 ハ神ノ無限ナル子ナルヲ甚ク明晰ナリ然レバ基督ハ人類ニ顯彰スル
 爲メ本來神性ノ屬性ヲ撤除シ全ク人性ノ屬性ノミチ有セリ因テ尙神
 ノ自ラ其屬性ヲ撤除セリトノ説ヲ否ム者アラハ是レ實ニ神ノ能力ヲ
 以テ有限ナル者ト認メタリト云ハサルヘカラスト
 此ハ「ロゼス」即チ道ハ自ラ其屬性ヲ撤除シ基督ノ靈魂ト爲レ
 リ蓋其撤除ハ實ニ極度ニ達セシヲ以テ其人類ト顯彰セシ時ハ毫モ本
 來ノ性質ヲ自覺スル能ハス其生活ノ形狀ハ恰モ普通ノ人類ニ異ナラ

スト云ヘリ因テ之ヲ神變人類説ト稱セリ却説此人ハ又其説ヲ辨明シテ我説ハ彼ノアボリナリケスノ所謂神性ナル道ヲ基督ノ靈魂ト爲シテトスル説トハ決シテ同シカラスト云ヘリ

ニブラルド 此人モ亦ゲッスノ説ノ如ク道ハ基督ノ靈魂ト爲シテト云ヘリ然レニ又道ハ斯クノ如ク人類ノ状態ニ入り即チ本來ナル神性ノ屬性ハ尙ホ存在スルト雖モ基督ハ之ヲ抑留セシ故ニ敢テ其神性ニ從ヒ一切ノ事ヲ預知スル等ノコトナシ蓋基督ニシテ倚之ヲ爲サント決意セハ敢テ爲シ能ハサルコトアラカレニ基督ハ唯其父ナル神ノ意旨ノニ從ヒテ之ヲ爲セリ故ニ惡魔カ之ヲ試ミシハ即チ其神性ノ能力ヲ神ノ意旨ニ忤フテ作動セシメシカ爲メナリト云ヘリ却説此説ニ從ヒ倫スレハ基督ハ神性ノ本位ニシテ人性ヲ假冒シ真正ナル人類ノ如キ生活ヲ爲セシナリ

マルテノセン(デスマルクノ神學者) 此人ノ説ニ以上諸學者ノ説ト異リ道ハ宇宙ニ於テ凡クテノ神性ノ屬性ヲ以テ作動スレニ基督ト限ラレタルニ其屬性ヲ撤除セリ蓋是レハ基督カ人類ト顯ハレ其救ヲ成就スル爲メナリト云ヘリ

因ニ云クセルニ神學者ノ説ハ右ニ記載スル如ク種々ニ分歧スレニ要スルニ基督ニハ唯一個ノ性質アリテ或ヒハ人性ノ屬性カ神性ノ屬性ト爲リ或ヒハ神性ノ屬性カ人性ノ屬性ト爲ルト云フニ過キス蓋此等ノ思辨ハ皆誤謬ニシテ倘實ニ斯クノ如クナリトセハ基督ハ神人兩性ノ屬性アリ能ク神ノ爲ス一切ノ事ヲ行ヒ又能ク人類ノ爲ス一切ノ事ヲ行フトノ默示ニ適合セサル耳ナラス基督ハ一個ノ本位ト二個ノ井然タル性質アリトノ根本ナル教義ニ適合セズ理性上ノ論理ニリ論スルニ亦適合セサルナリ奈何トナレハ彼ノ移屬説

及ヒ隱密說ノ如ク基督ハ隱密ニ由テ變狀セリトセハ眞正ナル神性
ノ基督ニアラス又兩撤除說ノ如ク撤除ニ由テ變狀セリトセハ眞正
ナル人性ノ基督ニアラサルナリ

二 本位ニ就キテノ異說 改革以後此教義ニ就キ異說ヲ主張スル者
渺カラサレヒ就中其最モ有名ナル者ヲ舉シレハ即チ左ノ如シ

〔一〕メンノ、シモンズ 此人ハ復バアテスト派ニテ有名ナル教師ナリ(第
三章三節ヲ參觀スヘシ)却說其說ニアダム及ヒ其子孫ナル人類ハ凡
テ墮落者ナルカ故ニ「ロエス」即チ基督ハ斯クノ如キ性質ヲ受ケサレヒ
之ト類似セル性質ノ萌芽ヲ受ケタリト云ヘリ然レヒ倘果シテ然ラハ
基督ハ我儕人類ノ眞正ナル代理者ト爲ル能ハサル耳ナラス其自願セ
ル許多ノ言辭及ヒ使徒等カ默示ニ由テ述ヘタル許多ノ言辭即チ希伯
來書第二章等ノ說ト適合セサルナリ蓋此人ノ說ハ復バアテスト派ノ

外ハ之ヲ信スル者渺シ

〔二〕セルウ、トス 此人ハ第十六世紀ノ季頃スベインニ生レ成長ノ後
ウルス及ヒバリノ大學校ニ入りテ勉強セシカ天資輕佻ニシテ志操一
定セサレヒ其才智拔群ナル爲メ數級ノ學位ヲ受ケ且未ク神學ニ通達
セサレヒ廣ク群書ニ涉獵シ天文等ノ學科ニ至リテハ若年ノ頃ヨリ既
ニ其蘊奧ヲ究メ頗ル名聲ヲ博シ其後諸國ノ改革家ト交通シ互ニ文書
ヲ往復セシカハルニ寓居スル頃ハ彼ノ有名ナルニコラムペテウスト
モ暫ク交通セリ却說此人ノ說ハ其著述ナル「三位一體ニ就キテ教會ノ
誤謬」及ヒ「基督教ノ復古」ト題スル兩書ニ詳カナルカ基督ノ教義ニ就キ
テハ神ハ唯一個ノ本位アル者ナリ宇宙ハ神ノ觀念又其肖像即チ神ノ
性質ノ代表ナリ宇宙ノ根本ナル觀念ハ即チ基督ナルカ故ニ基督ハ宇
宙ノ如ク永遠ナル者ニテ神ノ永遠ナル子ナリ蓋此永遠ナル基督トハ

神其者ノ如ク必須ナル者ニアテサレハ神カ自然ニ排列セシ者ナリ神
 ノ現出スル方法ハ兩種ニシテ即チ神言ト聖靈ト由テナリト云ヒ三位
 一體ノ教義ニ就キテハ是レヲ以テ地獄ニ居ル三頭ニ身ヲ拘ナリト經
 蔑シ且其頃教會ノ腐敗セシハ凡ヘテ此教義ノ爲メナリト云ヒ基督ノ
 肉ヲ教義ニ就キテハ天使モ亦斯クノ如ク驢馬ノ體ヲ受シレハ驢馬ト
 爲ルヘシト云ヒ其他神名ヲ冒瀆スル種々ノ説ヲ述ヘシカ又奉合附會
 ノ説ヲ以テ默示録ヲ説キ其十二章六節ニ記載セル千二百六十日トハ
 コノスグシテシテ大帝以來千二百六十年ノコトニシテ即チ第十六世紀ヲ
 指セル者ナリ是ヲ以テ我ハ此教會ノ墮落ヲ挽回スル爲メ神ヨリ遣ハ
 サレタリト云ヘリ蓋此等ノ説ハ一旦許多ノ者ニ信仰ホシテ其後
 漸々表ヘ一教派ヲモ組織スル能ハサルナリ抑モ此人ノ舉動ハ其文章
 ノ或モ甚ク精核深淵ナル處アレヒ又或ヒハ卑近猥褻ナル處アルカ

如ク更ニ定メテ常操ナラズ能ク反復表裏セリ例ニ於テ或時其スウイッ
 ルヲシテ改革家ト遭遇セシ際ハ自ラ其異説ヲ述ベシト歎ク我ハ
 之ヲ棄擲スベシト約束シテ其後又之ヲ主張シ殺然トシテ敢テ更
 改スル所ナラズシテ然ルニ後年其神名ヲ冒瀆セシ書籍ヲ著述セシ
 等ノ爲メフランスノウイモンニ於テ詰問者ヨリ逮捕セラレシカハ我ハ
 斯クノ如キ書籍ヲ著述セシトアテサレハ必ス他人ノ著述ナラント云
 ヒ既ニ死刑ニ定メ獄舎ニ下サルニ及ヒ竊カニ之ヲ脱シセニウアニ潜
 伏セシカ又其地ヲ退去セントスルニ方リ或者ヨリ檢出セラレテ遂ニ焚
 殺ノ刑ニ處セラレタリ(千五百五十三年)却説此セルウイモンニ檢出セシ
 者ハ或ヒハカルウオンナルモ知ルベカラサレハ焚殺ヲ行ヒシハ實ニ政
 府ノ裁判人ニシテ教法ニ關係ナキナリ且此セルウイモンモ倚神名ヲ冒
 瀆セシコトナクシテ迫害者免レシモ亦湖ルベカラサレタリ

(三) ソサイヌス 第十六世紀頃異説ヲ主張セシ爲メ名聲ヲ博シタル彼
 シンサイヌスナル者ハ叔任兩人アリ叔任レリウスト云ヒ任テラウ
 トスト云ヘリ却説此レリウストハ原トイタリヤ人ニシテ自由自治ノ説
 ナ好シ其政府ヲ轉覆セントテ竊カニ同志ヲ囑集セシカ警察官ノ探偵
 甚ク嚴密ナル爲メイタリヤニ居ル能ハス遂ニ脱走シテ歐羅巴諸國ニ
 飄流シ此頃始メテ諸國ノ改革家ニ遭遇シ是レヨリ一派ノ教系ヲ建テ
 シトノ志ヲ起シ爾來汲々トシテ其材料ト爲ルルキ種々多クモソテ蒐輯
 シ又諸國ノ改革家等ト互ニ文書ヲ往復セシカ彼ノカルウソトハ最モ
 能ク之ヲ爲シ其後將ニ死セントスルニ臨ミ其任ヲウケテトスニ遺囑シ
 我カ稿本ヲ基キ教系ヲ組織セシメシキ其死ニ時ニ尙未ク壯年ナ
 リ却説其概略ヲ神ノ律法トハ神カ確實ナル自主力ヲ以テ其意向ニ
 從ヒ制定シ又隨意ニ之ヲ廢棄スル者ナシハ道德的又ハ正義ニ契合ス

ル者ニシテ即チ神ノ性質深言顯ス者ニアラザル故ニ人ハ神ノ派遺
 セル使者即チ基督ニ就キテ之ヲ聽聞スルニアラサレハ決シテ悟ル能
 ハサルナリ是ヲ以テ基督ハ超理的ノ作用ニ由テ處女ヨリ生シ又超理
 的ニ其律法ヲ顯彰セリ蓋基督ノ死ハ人類ノ贖罪ニ關スル者ニアラズ
 奈何ニシテハ神カ尙右ノ如ク自ラ其律法ヲ廢棄スレハ贖罪ハ必要ナ
 者ニアラサレハナリ基督ノ復活ハ神ノ恩典ニ由テ其救罪ノ能力ヲ得
 セシメシカ爲メナリ救拯ハ全ク其自ラノ正義ノ爲メ即チ基督ノ救
 守ル者ハ基督ト共ニ神ノ意向中ニ生活スルヲ得ルト雖モ其教ニ背シ
 者ハ未來ニ於テ暫ク傷害ヲ蒙リ其後遂ニ絶滅ニ歸スルナリト却説此
 派ノ或教徒ハ後年ニ至リテ派中諸學者ノ重要ナル説ヲ編纂シ此人ノ
 説ヲ其書ノ首ニ卷ニ收メシカ今其書ヲ觀ルニ此派ハ固ヨリ基督ノ神
 性ヲ否メヒ又其神ノ命令ニ由テ基督ヲ拜崇スルヲ記載セリ且此神

學ノ基礎ハ道德的ニ止ル耳。其聖書ヲ解釋スルニ一定ノ方式ヲ自由ニ之ヲ爲スカ故ニ合理論ニ傾嚮スル形狀アリ。少シクモイヌスノ未ク其教系ヲ組織セサル頃ボルランドニ起レル騷亂ハ實ニ偶然ナル其準備ト爲レリ抑モボルランドニハ改革頃セルマニ「カペリアン」及「ヒリアン」派ノ説ヲ信仰スル者等カ「カペリアン」教會ノ無容忍ナルヲ満足スル能ハス多ク逃亡シテ此國ニ來リ改革教會ノ者等ト一致セシカ初メハ共ニ能ク交通シタレドモ此者等ハ其後公然ト基督ノ神性アル教義ニ抵抗シ屢々騷擾ヲ起シ國內之カ爲メ靖寧ナル能ハサル形狀ナレドモ由テ大會ヨリ其決議ヲ以テ此者等カ其教會ヨリ退去スルコトヲ願望セラレタリ時ニ或侯伯ハ深ク此「カペリアン」派ノ説ヲ喜ビタレドモ此者等ノ爲メ千五百六十九年新クニコロイキ云々セル一邑ヲ設ケ之ニ居住セシメタリ然ルニ「カペリアン」派トス即チ少シクモイヌスモ亦

會マ此地ニ來リ教導シ許多ノ人民ヲ感化シ遂ニ一教派ヲ建ルニ至レリ然ルニ「カペリアン」派ノ者等ハ基督ノ本位ノ教義ニ就キ激烈ナル議論ヲ起シ或時此人カ疾病ニ罹リ病歿ニアリシ時此者等突然其家ニ闖入シ此人ヲ其寢室ヨリ扯出シ市街ニ引廻シ耳ヲラズ其家屋及ヒ書籍等ヲ破壊セシカハ此人ハ其後此地ヲ去リ或貴族ノ城砦ニ逃亡シ終身其中ニ居住セリ(千六百〇四年死ス)却説此派ノ教義及ヒ教徒ノ形狀ハ恰モ古昔ノ「サドカイ」派ノ者ニ類似スレドモ其後國內ノ貴紳豪族等カ之ヲ受理スルコト揚カラス其教系ハ「イングリシ」等ノ諸國ニマテ弘衍シ且ラニコロイキニテハ有名ナル學校及ヒ活版所ヲ設ケ數個ノ教會ヲ建テ殆ト六十年許リ其盛大ヲ極メシカ千六百三十八年其學校ノ書生等カ十字架ノ聖像ニ向キ石ヲ擲テ之ヲ破壊セシニ由テ政府ヨリ其學校ヲ閉鎖シ其教派ヲ解散スヘキコトヲ命セラレ其後尙ホ此地ニ居住シタリ

二十年許ヲ閱テ又政府ヨリ其地ヲ退去スルキヲ命ゼラレ且凡
 ソ三年ノ間非常ノ迫害ヲ受ケタレハ遂ニ他方ニ移住セシカ財產ヲ喪
 キ生命ヲ害セラル、者甚ク多ク爾來諸國ニ於テ此說ヲ信スル者全ク
 絶滅スルニ至ラサレハ復教會ヲ建ルコト能ハサルナリ
 イングランド及ヒ合衆國ニテハ此派ノ勢力ニ由テ一性派ノ說ヲ信ス
 ル者稍ヤ無キニアラサレハ此等ハ此派ノ者ト些ク其說ヲ異ニシ基督
 ノ本位ノ教義ニ就キテモ見解同カラス且萬民得救說ヲ信スルニ似テ

〔四〕スウイデシホルグ 此人ハ「ル」タル教會ナル或監督ノ子ニシテ千
 六百八十八年スウイデンノストホルムニ生レ其名ヲエマシニ
 ト云ヒ九十二歳ノ高齡ヲ保テロンドンニ於テ死セリ此人ハ初メウ
 サラノ大學校ニ入り卒業ノ後其頃卒業生ノ習慣ニ從ヒ歐羅巴諸國

遊歴シ許多ノ事ニ觸レ種々ノ學ヲ修メシカ歸國ノ後凡ソ三十年ノ間
 鐵山局ノ監督ト爲リシレ荷モ餘暇ヲ得レハ勉メテ種々ノ學科ヲ勉
 強シ遂ニ算術化學實體學ニ就キテノ書類ヲ著述セリ一説ニ後年彼ノ
 ラプラスカ主張セル星雲說ナル者ハ原ト此人カ首唱セル者ヲ増補改
 正セシ者ナリト却說此人ハ嘗テ實體學ヲ研究セシ際靈魂ノ玄奧ナル
 コトヲ思考セシカハ監督ノ職ヲ辭シ又三十年許リ其事ニ關スル教系ヲ
 組織セント欲シ專ラ之ニ盡力セシカ此人ハ固ヨリ靈魂ヲ以テ靈界ノ
 事ヲ曉ル者ナリトハ信仰シタレハ古來玄奧學者ノ說トハ大ニ異ナル
 所アリ又其教徒ニ向キ我ハ天啓ニ因テ之ヲ覺レリト稱シ其說ヲ以テ
 恰モ新舊約書ノ如ク信仰セシメタリ却說其基督ノ本位ニ就キテ神ノ
 本位ハ唯一個ナレハ三位即チ父子聖靈ト顯示シ且其本位ハ一ノ「エホ
 ハ」ニシテ是レハ基督ト爲リ暫ク此世ニ下リ人ノ性質ノ受ケタレハ復

神ニ吸收セラレテ之ニ還歸シタリキ基督ハ即チ父ナル神ナリト云々
 リ又其聖書ヲ説明スルニ他ノ學問ヲ以テ説明スルコトハ恰モオリゼン
 ノ如クナレド其論旨ハ全ク之ト反對シ宇宙ニハ三重ノ球皮アリ其中
 央ハ人類ノ胎肉ニ存在スル「エホバ」ニテ其第一球皮ハ愛第二球皮ハ眞
 理第三球皮ハ自然即チ官能ナルカ此三球皮ハ符合ノ法ニ由テ結集セ
 リト云ヘリ抑モ此派ノ者ハ自ラ「新エルサレム」教會ト稱シ新舊約書及
 ヒ此開祖ノ著書ヲ信仰シ歐羅巴大陸ニ居ル者ハ實ニ僅少ナレド
 グランド及ヒ合衆國內ニ居住スル者ハ稍ヤ多數ナリ蓋要スルニ何國
 ニ於テモ決シテ盛大ト云フヘカラサルナリ

第二節 救拯學

教會最初ノ者ハ實ニ能ク基督ノ祭司長タルコトヲ信シ之ヲ以テ舊約時
 代ノ祭司長ノ如ク人民ノ爲メ代求及ヒ供儀等一切ノ務ヲ爲ス者ト思

惟セシナリ

然ルニ第三世紀頃彼ノオリゼンハ此教義ヲ一變シ基督ノ祭司長タル
 コトヲ抵抗シ基督ノ贖罪ヲ爲セシ理由ハ唯罪人ヲ改心セシムル爲メ即
 チ人ヲシテ是レニ因テ神ノ大愛ヲ感シ善道ニ赴ク意思ヲ起サシムル
 ニ過キスト云ヒシカ此說ハ其後屢々勢力ヲ教會中ニ得ントスル勢ア
 リシ耳ナラス當今ニ於テモ東合衆國ノ組合教會ノ者ハ博士ナシテ
 及ヒ其他神學者ノ勢力ニ由テ之ヲ受理スルナリ蓋此說ハ實ニ基督ノ
 祭司長タルコトヲ消滅スル耳ナラス萬民得救ノ如キ論理ニ傾嚮スル
 ナリ

第四世紀頃アタチシウスハ此教義ニ就キ基督ノ贖罪ハ神ノ眞實ナル
 爲メニ必要ナル者ナリ即チ神ハ罪人ノ死スヘシト云ヒシコトハ代理者
 ナケレハ救フ能ハサルニ由テナリト云ヒシカ是レハ實ニ諸先師ニ卓

越セシ説ナリ
 第十一世紀頃カントナルベリノ大監督聖アソセルムハ贖罪ハ神ノ永遠ナル義ノ爲メ必須ナル者ナリト云ヒシカ是レハ實ニ後年改革家ノ唱ナル説ニ似タリ蓋此人ノ説ニテハ罪トハ無限ノ奸惡ナレハ無限ノ價直アル贖罪ニアラサレハ償フ能ハス奈何トナレハ神ノ義トハ其屬性ニシテ撤除スヘカラサル者ナレハナリト云ヘリ
 第十三世紀頃トマスアクワナスハ我儕ハ基督ト立與ナル一致ヲ爲スニ由テ基督ノ功德ノ爲メ義トセラル、ナリト云ヒシカ天主教徒ハ今日ニ至ルマテ此説ヲ信スルナリ蓋此説ニ據レハ人ハ大概愛ノ漸次ニ發達スルニ由テ義ト爲ラル、者ニテ全ク主觀上ノ事ニ屬スレハ此愛ナル者ハ公審判ノ日ニ至ルマテ決シテ完全スル能ハサル者ナレハ必キ其救ヲ得ルハ測ラレサルナリ

カントナル等ノ改革家ハ聖アソセルムノ説ニ基キ之ヲ開發シ尙ホ其方法ヲ論及セリ即ナルリテハ人ノ義ト爲ラル、ハ其信仰ニ由テ耶穌基督ノ義ヲ受クレハナリト云ヒ其後又神ノ人ヲ義トスル理由ニ就キ信徒信仰ノ目的ハ何ナリヤトノ疑問ヲ設ケ之ハ基督ノ本位ニアリ蓋基督ヲ信仰スレハ其能力及ヒ義等ヲ受クルヲ得レハナリト答ヘタリ但メランシト等ノ諸學者ハ信仰ノ目的ハ基督ノ受動的ノ義ナリ基督ノ終身行ヒシ義キ生命ハ其自己ノ爲メ要用ナレハ故意ニ行ヒタル受動的ノ義ハ信徒カ其功德ニ與ルヲ得ルナリト云ヘリ
 却説此メランシトノ説ハ多ク人ノ不満足スル説ナレハオシアンドル(第十六世紀ノ季頃セルマニニ出タル神學者)ハ別ニ一説ヲ建テ人ハ基督ヲ信仰スレハ其心ニ基督ノ神性ナル義カ移轉スルナリ人ハ神ノ神性ヲ得ルニ由テ義トセラル、ナリト云ヘリ或者ハ此説ヲ評シ此ハ

トマス・アキノイナスカ主張ヒシ天主教ノ主觀說ニ傾嚮セリト云ヘリ
 其後又フランドスニ於テ改革教會中ナル或神學者等カ議論ヲ起セシ等
 ノ爲メ人ノ義ト爲ラル、ハ其身ニ代理者ナル基督ノ義ヲ負荷セラレ
 、ニ由テナリトノ教義始メテ明晰ト爲リシカ又此教義ノ爲メ神ハ常
 ニ眞理ニ據リテ決斷スル者ナレハ尙人類ニ罪ナクシハ罪人ト爲スヘ
 カラス蓋アマムノ子孫ノ罪人ト認ラル、所以ハアダムノ墮落ニ由テ
 腐敗シ即チ罪ヲ負荷セシニ由テナリトノ說起リスウイッセルランヤノ
 神學者ハ此教義及ヒ義ト爲ラル、教義ヲ論理法ニ從ヒテ排列シ尙此
 說ヲ以テ眞理ト爲サハ人ハ義ト爲ラル、以前ニ於テ必ス聖ト爲ラン
 ナルヘカラスト云ヘリ蓋此說ハ決シテ聖書ノ教義ト適合セサル者ナ
 リ且此國ノ神學者ツレダシハイアケル其他ノ者ハヘルウテツクノ折衷
 定法ト題スル信仰個條ヲ編纂シ基督ノ義ヲ受クレトテ說明シ基督ノ

義ニハ作動的受動的ノ兩種アリ受動的ノ義ハ贖罪ノ爲メニシテ作動
 的ノ義ハ人ヲ天國ニ入ラシム爲メナリト云ヘリ却說此說ハ今日改革
 教會中ニテ多ク信仰スルモノナリ

「アルミニオン」派ノ說ニハ基督ノ贖罪ハ原ト救ニ必須ナル者ニアラサ
 レト神カ之ヲ以テ救ノ方法ト定メシ故ニ要用ナル者ト爲レリ蓋神カ
 他ノ方法ニ由テ救ヲ爲サント欲セハ贖罪ノ用ニ供スヘキ者必ス多種
 アラント

第三節 人間學

一 新教諸教會 福音主義ノ新教諸教會ハルイテルノ說ニ從ヒ以弗
 所書二章一節ニ記載セル如ク人ハ罪ニ死セシ者ニテ死トハ神ヨリ離
 レルコト信スルナリ蓋ルイテルハ之ニ就キ人ノ意向ハ神ニ關スルニ
 切ノ義務ヲ行フ爲メニハ喪キタル者ナリト主張スレト其他ノ改革家

多ク人ノ意向ニ罪ノ爲メニ束縛セラレクヲ云ヘリ然レモ意向ハ
 聖靈ニ由テ更生セラル、迄ハ神ニ背叛スル者ナリ神ノ恩恵ハ人類善
 事ヲ爲ス勸機トナルニアラス唯之ヲ行ハシムル能力ナリ即チ墮落者
 ノ善ヲ爲スハ神ノ恩恵ニ由ル耳ト云フニ至リテハルイテ及ヒ其他
 ノ改革家カ一般ニ信スル所ナリルイテハ人間學ニ就キテハ堅クア
 ウグステンノ説ヲ墨守シ尙他ニ種々ノ説ヲ建ル者アレハ之ヲ壓伏ス
 ル形狀アリ

二、メランクトン等、メランクトンハルイテ在世ノ時ヨリ既ニ一
 個ノ見識ヲ有シタレモ未タ之ヲ主張セサリシカ其既ニ死スルニ及ヒ
 神ノ撰擇並ニ義ト認ルコト預メ其人ノ爲サントスル信仰ヲ知レルニ
 由テナリト云ヒ又神ハ大人ヲ感化徴召シテ之ニ更生セシム爲メ自ラ
 其意向ヲ神ノ能力ト與ニ作動セシム即チ更生ノ爲メ作動スル者ハ神

信及ヒ聖靈又ハ其人ノ意向ナリト云フ説ヲ以テメランクトンカ人ハ無力
 ナル者ナリト云ヘル教義ニ換ヘテリ蓋此人カ斯クノ如ク故意ニ卑近
 ナル説ヲ以テメランクトンノ説ニ換ヘシ所以ハ其頃種々ニ分岐セル諸改
 革家ノ説ヲ拍和セシムル爲メ行ヒタルコトナレモ此説ハ諸説ヲ拍和セ
 シタル能ハサル耳ナラス却テ「ルイテル」教會中ノ紛紜ヲ惹起シ從來「半
 ビレヤアン」ノ説ヲ信セシ者等ハ多ク此人ニ從ヒテ相分ルハニ至レリ
 且セルマニナルエナ神學校ノ教諭及ヒ其他ノ者等ハ之カ爲メ第十六
 世紀ノ季頃ヨリ凡ソ數年ノ間助力單行ノ説ニ就キ爭論ヲ爲セシカメ
 ランクトンノ説ヲ奉スル者ハ助力説ヲ主張シ彼ノ後年有名ナル世紀
 史ヲ著シタルマッタイアスハ單行説ヲ述ヘタリ然ルニ此マッタイアスハ
 助力説ノ者ヨリ罪トハ人ノ負荷セシ者手將テ其本質ナリヤトノ疑問
 ニ答ヘ其本質ナリト云ヒシ故ニ大ナル侮辱ヲ蒙リ後來又其説ヲ擴張

スル能ハサルニ至レリ蓋此マダオアスノ答辭ハ固ヨリ誤謬ナリ言
チ埃サレニ尙其説ニ據ラハ罪ナル者ハ決シテ抑制シ難キモノナレハ
人類ハ之ヲ爲メ全ク滅亡ニ至ルヘキナリ

三 律法廢棄論者

ルーツアル在世ノ頃セルマニノヨリアグリコラ
ナル者律法廢棄論チ主張シ律法ハ凡ヘテ基督ノ爲メ廢棄セラレタレ
ハ教師ハ人民等ニ唯福音ノミチ講義シ律法チ講義スヘカラスト云ヘ
リ然ルニ之ニ賛同スル者モ許多アレルハ其説ノ甚ク危険ニ
傾嚮スルヲ察シ之ヲ排駁シテ律法ハ福音チ含蓄シ福音ハ律法チ含蓄
スル者ナリト云ヒシカハアグリコラハ敢テ抵抗スル能ハス遂ニ其過
チ謝シテ同志チ解散セリ然ルニ其後イングランドニ於テコロムセル
ノ頃又執拗ニ之ヲ主張スル者アリ或ヒハ人カ律法ノ權下チ離レシハ
抵抗スヘカラサル神ノ定意ニ據レリ即チ信徒ハ神ノ能力ニ由テ善チ

爲スナリ然レハ罪人ハ決シテ善チ爲ス能ハサルカ故ニ無益ナリト云
ヒ或ヒハ基督信徒ハ神ノ律法ト關係ナキ者ト爲リタルハ之ヲ叛キ罪
チ犯ス能ハサル者ナリ等ト論スル者許多アリ然ルニ此等ハ一教派チ
爲スニ至ラサレヒ今日マテ尙ホ諸方ニ散在スルナリ
因ニ云ク靈魂ノ遞傳創成ニ就キテハ改革後モ屢々之ヲ論スル者ナ
キニアラサレヒカウルウソハ古昔ノアウグステンノ如ク此説ノ是非
チ決定スルコトチ爲サス我儕ハ聖書ニ記載セシ事實チ以テ満足スヘ
キ者ナレハ斯ル贅論チ爲スハ實ニ無益ナリ夫レアダムハ神ヨリ人
類ニ賦與スル一切ノ資稟チ托セラレタレヒ其身及ヒ子孫ノモノチ
併セテ之ヲ喪キタルハ靈魂ハ既ニ其資稟チ喪フナリ何ソ遞傳創成
ニ就キ配慮スルニ暇アラナヤト云ヘリ

四 「アルミニオン」派

〔四〕發端 ホーランドノ教會ハ改革後改革教會ノ說ヲ受ケカルウツノ
 教義ニ從ヒキリテアルベルグノ問答書及ヒベルグノ信仰個條ヲ以テ
 其綱領ト爲シタルニ神ノ定憲及ヒ原罪恩惠等ノ教義ニ就キテハ最初
 ヲリ種々ノ小議論屢々發起セシカ彼ノジエムスアルミニウスカ出ル
 ニ及ビ第十七世紀ノ初頃迄ニ一大紛糾ヲ醸成セリ抑モ此アルミニウ
 スナル者ハ千五百六十年オランダノ南部ニ生レ成長ノ後ライデン
 及ヒゼーウノ學校ニ入りテ勉強シ廿六歳ノ時始メテアマステルダム
 ノ或大教會ノ牧師ト爲リシカ其後ライデンノ學校ノ或神學教諭カ死ス
 ルニ及ビ其才幹拔群ナルニ由テ千六百〇二年其後任ニ選拔セラレタ
 リ然レニ此人ハ此以前ヨリ屢々「ビレヤアン」類似ソ怪說ヲ述ベ神學ヲ
 變易セシヨアルニ由テアマステルダム中會ハ其轉會書ヲ送ルコトヲ
 欲セズ暫ク之ヲ拒ミシガ稍シテ其學校ノ教諭ニマルサスト商議

セマシ此人ハ於テ不満足ナリシハ之ヲ送ルベシト約シ大學校ノ幹事
 及ヒ大會委員等ノ前ニテ之ヲ爲シテ各教義ヲ受理シヘルヤツ
 「ビレヤアン」ノ說ヲ擯斥シテ少クシテ各教義ヲ受理シヘルヤツ
 信仰個條ニ適合セサル教義ヲ爲サストノ契約ヲ爲スニ及ヒテ遂ニ其
 轉會書ヲ送り學校ノ教諭ト爲セリ然ルニ此人ハ始メテ能ク改革教會
 ノ教義ニ從ヒテ教ヘ且其任職セシ翌歲ハカルウツノ主張セシ義ト爲
 ラルハ、及ヒ信徒ノ固執救ノ自覺等ノ教義ヲ把持スル爲メ一部ノ書
 籍ヲ著述セシ如キ形狀ナレ後年ニ至リ自ラ我ハ此等ノ教義ヲ研究
 スルニ方リ心中疑ヲ生セリト稱シ且書生ニモ之ヲ公言シ其他其異說
 ヲ傳ユル爲メ改革教會ノ教義ハ其憑証トスル聖書ヲ引照ト契合セテ
 如ク教ヘ又カルウツニシテ「ビレヤアン」等改革教會中ノ有名ナル
 諸學者ヲ輕侮シ却テ之ヲ抵抗セシ諸學者ノ說ヲ熟練ナル者ナリト稱

ノ異端家ノ著書ヲ讀ムヘシト獎勵セシカハ忽チ其卒業生等カ教會ヲ
 教義ヲ駁撃スル耳ナラス其他ノ教師等モ亦此異說ニ感動セラレ却テ
 其新教系ノ發見アリシヲ喜フ如キ結果ヲ生ゼリ却説ホルヲイフ教
 會ハ此頃各州各々大會ヲ開クノ政治ナリシカ諸大會ニテ此形勢ノ
 危險ナルヲ觀テ深ク憂慮シ委員ヲ遣ハシアルミニウスト商議セシ
 ヲトセシニアルミニウストハ委員等ニ其資格ヲ以テ商議スルヲ爲サ
 ス唯テ朋友ノ如ク之ヲ待遇シライデン教會ノ者カ此人ニ其學校同僚
 ト商議セシヲ希望シタレモ亦之ヲ謝絶セシカハ此國教會ハ一般ニ
 動搖シドド中會ハ公然之ヲ譏刺シ其後許多ノ者等ハ政府ニ此人
 ナ糾明セシヲ請願セシニ此人モ亦其糾明ヲ受ルヲ承諾シタレハ
 遂ニ約束ノ如ク其官吏ノ前ニ於テ商議ヲ開ケル此時ゴマルウスカ此
 人ニ其著書中ヨリ若干條ヲ拔萃シ是レハ基督ノ義ヲ以テ信徒ニ負荷

スルノ教義ヲ否ム者ナリト云ヒシニ此人ハ之ニ答ヘ是レハ我説ノ一
 班ニ就キテ論スル者ナリト云ヒ且双方與ニ書類ヲ以テ持説ヲ開陳セ
 シヲ請ヘリ因テ官吏ハ其請願ヲ承諾セシニゴマルウスハ其後持説
 ナ記載シ之ヲ呈出シタレモ此人ハ却テ逡巡シ暫ク遲延セシカ遂ニ病
 ニ罹リ之ヲ記載セシテ死セリ(千六百〇九年)先是此國ノ總理大臣ハ
 ルニウエルドハ深クアルミニウスノ説ヲ贊成セシカ紛紜ノ起ルニ及ビ
 國會ニ於テ斯ル教會中ノ爭論ヲ爲スハ無益ナリト決議セリ
 (二)教義 ライデンノ大學校ノ幹事ハアルミニウスカ死スルニ及ヒツ
 サニススノ説ヲ信スル或神學者ヲ以テ其後任ニ舉ケント選擇セシニ
 教會中沸騰シテ敢テ之ヲ承諾セサレハ又更ニエビスコピウスナル者
 ナ舉ケテ其後任ト爲ゼリ此人ハ其頃此學校ヲ卒業セシ者ナルカ是レ
 ヨリ「アルミニウス」派ノ首領ト爲レリ却説「アルミニウス」派ノ者ハ此歲

其派ノ意見見書五條ヲ記載シ之ヲ國會ニ呈出セシカ其概略ハ次ノ如シ
 (一)神ハ太初ヨリ修身基督ヲ信仰シテ變易セサル者ヲ預知シ之ヲ救拯
 シ又其徵召ニ從ハス修身之ヲ信仰セサル者ハ永遠ノ刑ニ放任スルコ
 ニ決定セリ(二)耶穌基督ハ其死ヲ以テ人類一般及ビ各自ノ罪ヲ贖ヘリ
 然レモ信徒ニアラサル者ハ其贖罪ノ益ヲ受クル能ハサルナリ(三)人ハ
 自己及ビ其自由ナル意向ニ由テ其心ニ信仰ヲ起ス能ハス却テ其性質
 ハ惡ニシテ善ヲ考ヘ之ヲ行フニ足ラサル者ナリ故ニ基督ノ爲メ聖靈
 ヲ以テ神ヨリ更生ヲ受クルコト必須ナリ(四)神ノ恩惠即チ人心ヲ平愈セ
 シムル能力ハ凡ヘテ善ヲ創造進歩且完全ナラシムル者ナリ故ニ人ノ
 善行ハ神及ビ其恩惠ニ歸スヘシ蓋此恩惠ハ人ノ意向ヲ抑ヘ強キテ之
 ヲ行ハシムルニアラサレモ亦其頑頸ナル意向ヲ以テ此恩惠ヲ逐
 斥スル能ハサルニアラス(五)信仰ヲ以テ基督ト一致セシ者ハ神ヨリ凡

ヘテノ惡ニ克ツ爲メ充分ナル勢力ヲ受ルナリ蓋此者等ト雖モ其恩惠
 中ヨリ墮落シテ信仰ヲ喪フヤ否ハ未タ明晰ナラサレハ必ズ誰ヲ聖書
 ヲ研究シ之ヲ了解スヘキナリトアリ却説「カルヴァン」學派ノ者ハ此意見
 書ヲ評シアルニウスノ教義ハ茲ニ公言セル五條ノ明文ニ據リテ測
 知スルコトハ容易ニアラサレハ宜シ其常ニ談話スル所ノ事及ビ其考按
 ニ就ギテ測知スヘシト云ヒシガ「ルター」教會ノ歴史家モスハイムハ
 此評語ニ就キ人心ノ裁判ハ神ニアラサレハ固ヨリ能ハサルコトナレモ
 尙人類ニシテ「アルミニオン」派ノ重要ナル信徒カ後來教導セシ教義ノ
 蘊奧ヲ測知スルヲ得ルトセハ此評語ハ實ニ適當ナル評ナラシト云ヘ
 リ然ルニ「アルミニオン」派ニテ後年著述セシ者ヲ觀ルニ實ニ此評語ノ
 如シ右五條ノ外尙各種々ノ教義アリ即チ「アダム」ノ罪ニ唯其一身ニ歸
 スル者ナリ原罪トハ「アダム」ノ子孫カ其祖先ヨリ繼續スル惡トシテ罰

スヘキ罪トハ云フヘカラス原罪ノ腐敗ハ其肉體及ヒ智力ニ歸スル者
 ナレトモ意向ニハ及ハサルナリ人カ遺傳ノ腐敗ニ由テ無能者ト爲レル
 ハ實ニ不幸ノ事ナレトモ之ヲ罪愆トハ云フヘカラス且人カ之カ爲メ神
 ノ恩恵ヲ受クサレハ善良完全者ト爲ルヘキ理由アラサルナリ然レモ
 倚神ヨリ助成ノ恩恵ヲ受クレハ善行ヲ爲スコトヲ得ヘシ神カ聖靈ヲ與
 ニルト否トハ其人ノ意向カ之ト偕ニ作動スルヤ否ヤニ由ル者ニテ其
 結果ノ有無モ其恩恵ヲ正ク使川スルト否トニ由ルナリ人類ハ凡ヘテ
 敗成ノ恩恵ヲ受ルナリ人ハ更生者ト雖モ或ヒハ墮落スルナラシメ等ナ
 リ却説アルミニオン派ノ者ハ嘗テカルウヰン派ノ者ヲ指シ彼ハ聖書ヲ
 説明スルニ方テ其胸中ニ先ツ神ノ主權ト云ヘル一公準ヲ置ケ我佛
 ハ決シテ斯クノ如キコトヲ稱セシカ是レハ實ニ其派ノ教義ニハ意
 向ノ自由ト云ヘル一公準ヲ置クコトヲ忘却セシ者ナラシメ

〔三〕紛議、ホルランドノ教會ハ千六百〇九年頃ヨリ屢々國會ノ干涉ヲ
 受クシニ由テ甚ク其自由ヲ喪フコト例ヘハ國會ハ各州ニテ大會ヲ開
 クコトヲ禁シテ教義ニ關スル議論ヲ爲サシメス其頃アルミニオン派ノ
 者カ會議ヲ開キシ時ハ之ヲ默許シタレモ教會ニテ大會ヲ開カントテ
 請願セシカハ其願書ヲ斥ケ教會ニテソサイヌスノ説ヲ主張スル或信
 徒ヲ放逐セシカハ中會ニ其人ヲ復歸セシムヘシト命セリ蓋是レハ中
 會ニテ謝絶セシナリ且國會ハ教師ヲ任スルニ其人カ唯アルミニオン
 派ノ意見書五條ヲ信スレハ之ヲ以テ満足スヘシトテ布告ヲ出シ議義
 ニ於テ此五條ノ教義ヲ駁撃スルト及ヒカルウヰンアルミニウスノ兩派
 互ニ他ノ教義ヲ排駁スルトテ禁シアムステルダムノ或商賈カアルミ
 ニオン派ノ説ヲ駁撃セシカハ之カ爲メ其商業ヲ禁止シ且或教師ノ職
 ヲ剝奪セリ又アルミニオン派ノ者ハ嘗テカルウヰンノ説ヲ信スル者ト

區別ヲ建ル爲メ別ニ其拜禮會ヲ設ケ或時ハ騷亂ヲ起サント謀リ總理大臣ハアルニコウルドモ其軍兵ヲ募集セシニ劾會ノ議員等ハ之ヲ以テ其人民ノ自由ヲ奪フ者ト抗論セリイソングランド王ジョージ第一ハ其國ニ駐紮セル此國ノ公使ニテアルニコアン派ノ有名ナル歴史家グロシウスヨリ勸奨セラレ千六百十三年此國ノ國會ニ教法上ニ關スル爭論ヲ禁スヘシトノ書簡ヲ贈リ之ヲ忠告セシカ其後自ラ我ハシロシウスノ爲メホルランドノ形勢ヲ欺カシタリト云ヘリ

〔四〕ドルトノ議會 「アルニコアン」派ノ或者ハアルニコウスノ在世頃ニリ議會ヲ開キ教義ヲ決定セリトテ大ニ願望シタレ其後深ク其結局ヲ考定スルニ及ヒ却テ之ヲ開クヲ拒シテ拒シテリ蓋教會ノ紛議ハ爾來倍々増長シ必ス議會ヲ開カサレハ國家ノ平和ヲ保ツニカラサル形狀ト爲リタレバ千六百十八年マウリスカオレシヤノ侯位ヲ履ムニ及ヒ

遂ニ之ヲ召集セリ却説此マウリスナル者ハ彼ノ有名ナルオレンジ侯ウイリアムノ子ニシテ今者其兄ノ死スルニ由テ之ニ代リ其侯位ヲ履ミ且議政官ト爲リシカ此人カカルウソノ派ニ左袒セシ所以ハ唯其頃此派ノ勢力甚ク熾ソナルニ由テ之ニ附和シ自家ノ權力ヲ張ラント欲セシ者ニテ中心ヨリ道ヲ信セシニハアラサルヘシ

却説此議會ハ千六百十八年十一月ヨリホルランドノ南部ナルドルトノ練兵所ニ於テ開キシガ各州ヨリ來レル議員ハ牧師卅一人長老廿二人神學校ノ教諭五人ナリ其他國會議員十八人顧問ノ爲メ出會セシカ是レハ此國教會ニテ許サ、ル規則ナレ止ムヲ得ス出會セシメシナリ且マウリスハ此時其國教會ノ紛議ヲ靖寧セシムル爲メ歐羅巴諸國ノ改革教會ニモ議員ノ派出ヲ願望セシニ由テセルマニスウイソルランドイソングランドヨリ總計廿八人來會シ且フランスヨリモ其議員四人

ヲ遣ハサントセシカ國王ル第十四ノ命ニ因テ中止セリ却說此議會
 ノ議長ヲヨシヨシボケルヤンハ天資英敏ニシテ甚ク決斷アル者ナレドモ
 此ニニアノ派ノ者ハ此人ヲ指シテ暴虐者ト稱セリ議會ハ諸國ハ可
 解シ易カラシメノ爲メ專ラテノ語ヲ使用シ凡ソ六月間ニテ閉會セ
 シカ其間秘密會ヲ爲セシハ實ニ僅々數回ニシテ其他ハ大概傍聴ヲ
 許セシカ傍聴ニ來ル者甚ク多シ其議案ハ神學者六人ヲ舉ケテ聖書翻
 譯委員ト爲スヲ牧師ヲ選舉スル方法兒童ニ問答書ヲ教授スルヲ及ヒ
 偶像教徒ノ兒童ニ「バプテスマ」ヲ施スヲ等種々アリタレドモ重ニ「アルミ
 ニアン」派ノ爲メ起レル事ニ屬セリ山テ此「アルミニアン」派ノ者ハ其第
 四次ノ議會ヨリ召喚セラレシカ此派ノ者ハ此議會ヲ指シ「カルウツ」派
 ナリテ包括セル者ナリト稱シ且其被告人ノ如キ待遇ヲ受ケルヲ怨ミ
 最初ハ敢テ承允セサリシカモ其後遂ニエヒスコピウスヲ答辨者總代

ト爲シ其他十二人ノ者ト借ニ出會セシメシカ此人ハ議會ヨリ其自ラ
 信スル所ノ教義ヲ辨明スヘント論サレタレドモ數日ノ間甚ク勢力アル
 說ヲ以テ唯「カルウツ」ノ教義ニ誤認アルヲ指摘シ議員等カ教會ノ
 教義ハ既ニ確定セシ者ニテ一般ニ受理スル所ナレハ又茲ニ論スル
 ナ要セス「アルミニアン」派ノ教義ハ輒今新ク起レル者ナレハ其教徒
 ナル者ハ苟モ力ノ及フ限リ聖書ヲ證據トシテ維持スヘキトニアラス
 ヤト云ヒタルモ敢テ之ヲ用キス尙ホ前說ヲ主張セシカハ議會ハ此等
 ノ者ヲ皆其會場ヨリ驅逐セリ一說ニ此者等自ラ議會ヲ退去アリトア
 リ(其後議員等ハ「アルミニアン」派ノ書ニ據リ其說ヲ聖書ノ教義ニ比較
 對照シイングランドセルマニノ議員等數人カ承諾セサルニ關ハラズ
 遂ニ投票ヲ以テ之ヲ排斥スルヲ決議セシカホルランドノ議員等ハ
 此議會ノ閉場セシ後モ尙ホ暫ク殘留シテ種々其國教會ノ事ヲ商議セ

典却此議會ニ來ルイングラランドノ或監督ハ我ニ我來ノ經驗ヲ
 由ル此議會ノ外ハ天國ニ近キモノト云ヒセルマコノ或議員ハ
 我ニ此議會ニ於テ神ノ如キ者人ノ如キ者惡魔ノ如キ者ヲ觀タリト云
 ベリ蓋是レハ此人カ彼ノ有名ナル議論家ゴマルスト議論セシ爲メホ
 ラン抑モ此議會解散後議員等宴會ヲ爲セシトニ就キ「アルミニオン」派
 ノ者ハ痛ク之ヲ詬罵スレハ議員等カ此時辭與セシ證據アラサルナリ
 「アルミニオン」派ノ教師等ハ既ニ擯斥セラレタルニ由テ其聖職ヲ喪キ
 他國ニ移住スル者擲カラス其教徒モ亦多ク異邦ニ轉居セシカ或ヒハ
 之カ爲メ窘迫ニ遇ヒシ者モ擲カラス特ニ「バルニウ」及ヒ「グロシウ
 ス」二人ハ獄舎ニ繫囚セラレグロシウスハ其後脱檻シテフランスニ奔
 リタルニ「バルニウ」ハ遂ニ斬首セラレテ却說此等迫害ニ就キテ
 ハ決シテ「カルウ」派ノ者カ壓制セシトナシトハ斷言スル能ハサルニハ

甚ク嚴刻ニ流レタルハ大概「ウリスカ」其政權ヲ以テ行ヒシ者ニテ敢
 テ教會ノ與知セサル所ナリ却說「アルミニオン」派ノ者ハ「ウリス」死
 後政府ノ赦免ヲ受ケ再ヒ本國ニ歸ルニ及ヒ教會及ヒ神學校ヲ建設シ
 特ニ其「アムステルダム」ニ建設セル學校ハ有名ナル神學者等ノ在職セ
 シ爲メ甚ク世ニ顯ハル、ニ至リタルニ其派全體ノ勢力ニ就キテハ其
 頃合理論ニ傾嚮セシ爲メニヤ赦免前ニ及フ能ハサルナリエビスコビ
 ウスハ後年ニ至リテ此派ノ教系ヲ組織セシカ是レハ大概「カルウ」ノ
 教義ヲ排駁セシ者ナリ

「アルミニウス」ノ教義ハ固ヨリ「イングラ」ノ國教ノ綱領トスル彼ノ
 三十九條ト契合スル者ニアラサレハ大ニ其國ニ流行シ教師等ハ多ク
 之ヲ信仰シ今日ニ至ルマテ尙ホ依然ナルカ如シ且彼ノ有名ナル「ウ
 ス」兄弟ハ此教義ニ由テ第十八世紀頃「メソヂスト」教會ヲ建設セリ蓋

此教會の教義は温和なる派と稱スヘキ也
 五、新學派神學 此神學ハフランスナル改革教會ノ神學者アリ
 ヲスノ中間ニ屬スル者ナリ抑モ此國ノ改革教會ハ千六百廿三年ノ大
 會ニテドルト議合ノ教典ヲ受理スルコトニ決議シタレハ其頃サウムル
 神學校ノ教諭ニコミロンナル者アリ原トスコットランドノ神學者ニシ
 テ此大會以前ヨリ稍ヤ温和ナル「カルウヰ」派ノ教義ヲ教授セシカ其死
 後ニ及ヒ其徒弟アミロ等三人ノ者カ相尋ヒテ其教諭ト爲リ(千六百
 卅三年)燦ノニ師説ヲ唱道セシニ生徒大ニ増加シ第十七世紀ノ中葉ニ
 歐羅巴ニテ甚ク有名ナル者ト爲レリ此神學ノ概畧ヲ擧グルニ救拯
 ノ教義ニ就キテハ一ノ假定説ヲ設ケ神ハ凡ヘテノ人類ヲ救ハント切
 望セシナリ但全世界中ヨリ或一部ノ人民ヲ選擇シテ之ヲ救拯スル其

恩惠ハ全世界人類ヲ救ハントスル恩惠ト同一ナル者ナリト謂フ教義
 ニ就キテ神カ罪ヲ悔改セサル者ヲ永遠ナル罰ニ定ムルハ自己ノ義ニ
 稱ヒシコト明カニ顯示セントノ目的ニ由テナリ蓋シテ證明スル爲
 メニハ罪人ノ職務及ヒ其罪ヲ顯サ、ルヘカヲナルナリ定意ノ教義ニ
 就キテ神ハ人類ヲ創造セント決定セシ時之ニ自由ナル意向ヲ與ヘ其
 墮落スルコトヲ許シ其後又全世界人類ノ犯セシ罪ノ爲メ贖ヲ以テ救テ
 爲スコトヲ決定セシ故ニ人類ハ凡ヘテ救テ得ルヘキ者ト爲レリ然レモ
 人類ハ其賦與セラレ、恩惠ヲ拒ムニ由テ神自ラ其主權ヲ以テ或者チ
 撰擇シ之ヲ救ヘ他ハ其意向ニ從ヒテ滅ニ至ルコトヲ放任セリ恩惠ノ
 教義ニ就キテ恩惠ハ常ニ神言中ニ憑レル故ニ神言ノ講義ヲ聽聞スル
 時基督ヲ信セントノ意向ヲ自由ナラシムル能力ヲ得ルナリアウグス
 テンノ如ク恩惠ハ神言ト別種ノ作動ヲ爲スナリト云ハ、恩惠チ魔術

聖書ヲ説明スル爲メ一ノ緊要ナル規則ヲ設ケ聖書ハ必ズ其前後ノ文
 意ニ照ラシテ説明スベシト云ヘリ蓋是レハ中古ノ煩瑣哲學者カ爲セ
 シ方法ニ對スル者ニテ甚ク便法ナレバ其自ラ使用スルニ方非ズハ唯
 其前後ノ文意ヲ通觀スル耳ナラス全篇凡ヘテ契約ノ意ニ基キテ説明
 スル故甚ク濫用ニ流レ基督ノ表號及ヒ預言ニアラサレ者ヲ以テ其表
 號及ヒ預言ナリト稱スルニ至リタレハ世人ノ爲メ此人ハ基督ヲ各舊
 約聖書中ニ發見スル者ナリト喚ハシタリ蓋此契約神學ハ此人ニ始ル
 ニアラス第十六世紀頃ヨリ彼ノウエルサイヌスヲ輔ケテハイデルベル
 グノ問答書ヲ編纂セル同地ノ神學者オレウアヌスナル者既ニ之ヲ首
 唱セシナリ然レハ當時ハ之ヲ受ケル者甚ク鮮カリシカ今者此人及ヒ
 此學派ノ者カ唱道スルニ及ヒ大ニ改革教會中ニ行ハレ之カ爲メ一旦
 煩瑣哲學ノ爲メ陸沉セシ聖書ヲ挽回シ真正ナル歷史上ノ者ト爲シ眞

正ナル註解及ヒ神學ヲ進歩セシメ且救拯學ノ根本ナル教義ハ基督ノ
 贖罪ニ在ルコトヲ明カニシ實ニ教會ノ爲メ善長ニ赴ク輔翼ト爲レリ
 因ニ云ク新教諸教會興隆ノ後第十七世紀頃ノセルマニナルヘレム
 ストト神學校ノ教諭等ヲ首メ其他處々ニ於テ諸教會合併ヲ起圖ス
 ル者甚カラス特ニ同神學校ノ教諭ヂヨルヤカリキストスハ甚ク其
 事ニ熱心シ自ラ歐羅巴諸國ヲ遍歴シ諸教會ノ綱領ヲ研究シ又其重
 要ナル者等ト交際シ之ヲ計畫セシニ其頃イソララノ國教ノ或者
 等ハ後世教會ノ模範トスヘキ者ハ最初ヨリ第五世紀迄ノ教會ノ形
 狀ナリト思考セシカハカリキストスハ是レヨリ其考案ニ基キ最初
 五世紀間ノ議會ニ於テ決議セル諸個條ヲ折衷シ新クニ一信仰個條
 ナヲ設定セント考ヘタリ然レハ此時改革教會及ヒ「ルイテル」教會「ロマ」
 教會「神派」或者等ハ親ク其朋友ナレバ其新クニ起草セル信仰個

第四章

條ニ諸教會ノ教義ヲ撤除スルヲ觀テ深ク疑念ヲ生シ「ロヤ」教會以者
ハ此人ヲ以テ我教會ノ教義ヲ排撃スル者ト思ヒ「ルドナル」教會以者
ハ此人ヲ以テ竊カニ改革教會ノ教義ヲ信スル者トラント疑ヒ其他
皆各疑念ヲ起サ、ル者ナケシハ其後ホルランド王カ此目的ヲ達ス
ル爲メ千六百四十五年諸教會ノ委員ヲ集メ商議ヲ爲シ「シ」能委員
等皆毫毛酌量スルコトアラサレハ遂ニ整頓スル能ハカリシナリ

第五章 合理論

総論

合理論トハ人類カ其智力ニ由テ神ノ默示セシ眞理ニ背叛セシ者ナリ
蓋思想ノ本源ハ神人二種ノ智力ニシテ人ノ智力ハ理學等ヲ起シ神ノ
智力ハ默示ヲ爲ス者ナレハ合理論者ハ唯理性及ヒ自然法ニ適スル者
トシテ以テ眞理トスルナリ例ヘハ其説ニ神ニ説話力アリテ理性アル
者ニ説話スルコトアラハ唯其人類ニテ了解セラル、者ノミチ受ケテ眞
理ト爲スヘシ人ハ神ヨリ其理性ヲ自由ナル者ト爲サレタレハ默示ニ
束縛セラル者ニアラストアリ然レハ此等ノ説ハ皆智識ヲ専ラニ信
仰テ後ニスル者ナリ

第五章

此合理論ハ基督教ニ抵抗スル者ナレハ亦其教會ニ行ハル、所以ヲ釋
スルニ是レハ専ラ教會ニテ眞正ナル信仰ヲ喪キシニ由テナリ蓋第十

七世紀頃此合理論ヲセシムニ及ヒイシクランドニ起ルニ方リ教會ト
 專ラ虛文ヲ務メ教師ヲ選任スルニ更生ノ必要ナルヲ知ラズ信仰個
 條ハ純正ナレト全ク死物ト爲リ懲戒ハ唯其綱領ニ違犯セシ者ノミニ
 加ニシテ其他平生ノ品行ニ至リテ敢テ之ヲ顧ルコトナク且此頃ニテ
 ナアン政治ノ時ナレハ政府ノ手ニテ之ヲ行ヒ安息日ハ世俗ノ休日ト
 爲リ兒童ニ教誨スルトナシタル等ノ形狀ナレハ世人ハ斯ル死物同様ノ
 正教ニ安スル能ハズ遂ニ合理論ニ傾嚮セシナリ
 歷史上ニ於テ理學カ基督教ニ競爭セシコト凡ソ四次アリ即チ(一)古昔ノ
 偶像教哲學(此ハセルヌ、ルシアン等ノ諸學者及ヒ「新アレント」派ノ者
 ナリ就中此「新アレント」派ノ者ハ基督教ト種々ノ哲學ヲ一致セシテ起
 セシ故神ノ默示セル憑據ヲ消滅セリ)(二)中古ノ煩瑣哲學(此ハ神言ヲ
 教授スルニ理學ノ方式ニ據リシ故人ヲ冥想議論ニ陷レタリ)(三)近古ノ

文學(此ハ改革時代ニ起ル者ニテ最初ハ學問ヲ獎勵シ甚ク善良ナ
 ル者ナリケレト其後遂ニ學問ヲ以テ教法ニ代用スルニ至レリ)(四)統合
 ノ合理論(此ハ理性ヲ以テ真理ノ主宰ト爲ル者ニテ第十七世紀頃
 リ歐羅巴諸國ニ起リ今日マテ連續セシカ此者ハ甚ク恐ルヘキ弊害ア
 レト最初之ヲ首唱セシ者ハ恐クハ之ヲ察セサリシナラン
 此合理論ハ精シ細別スル能ハサレト大略三種アリ即チ(一)形而上(二)形
 而下(三)批評是レナリ

第一節 形而上

此合理論ハ唯心論凡神論ノ傾嚮アル者ニテ凡ソ三種アリ即チ左ノ如
 一 玄奧 此ハ大概改革時代ニ流行セシ者ニテ主觀的客觀的ノ三種
 アリ客觀的ノ玄奧ハ彼ノ有名ナル「オオニシ」著述セル「天國

及ヒ教會以定例ニ基キ人ハ沉思ヲ力ニ由テ神ニ復歸セラザル者ト云テ
 說ニテ客觀的ノ玄奧トテ人身ハ一小世界トシテ能ク其心理ヲ反省ス
 レハ心外ノ宇宙ヲ了解スヘシト云フ說ナリ例ヘハ彼ノパーメノ說ニ
 テ我ニ能ク主觀ヲ考按セシテ客觀ノ事物ヲ了解セリ蓋主觀客觀
 ノ影ナレハナリト云フ因テ此說ヲ擴充スレハ人ハ原ト神ヨリ出タ
 ル者ナリ故ニ全ク之ニ委託スレハ再ヒ歸ルヲ得ル者ナレハ人類
 共宇宙ニ一致セザルハカラストシテ說ニ至ル事ナリ然レモ此等ノ說ハ廣
 シ世ニ行ハレザルナリ

二 理性理學者

〔一〕カールト此此人ハラシク生シ最初ニユイテ派ノ學校ニ入
 リテ其教ノ獨斷ヲ以テ満足ス能ハズ別ニ心理ヲ一派ヲ發明
 セテト欲シテ八歳ノ時ニ專ラ其業ニ從事セザルカ遂ニ之ヲ爲メ迫害

ヲ受テ暫クホラシクニ奔リ其後或者ノ招キ由テスイデンニ至
 リ居ルコ数年ニシテ死セリ時年六百五十年ナリ却說此人ノ說ニ意
 識ヲ本トスル者ニテ即チ人類ノ觀念ニ皆其真否未ダ明亮ナラザル者
 ナレハ之ヲ探究セシテ欲セハ先ニ其一切ノ觀念ヲ疑ハサルヘカラス
 奈何トナレハ真正ナル智識ニ基礎ハ凡テ疑念ヲ起ス者考按シテナリ
 存在スル者ハ考按ナリ奈何トナレハ疑念ヲ起ス者考按シテナリト
 然レモ既ニ考按アレハ考按ヲ爲ス者モ亦無カルヘカラス故ニ此人ハ
 常ニ我ハ考按ヲ爲スカ故ニ存在セリト云ヘリ且其說ニ考按他ノ有
 形物ノ如ク形質アル者ニアラザレハ其本源ナル心意ハ無形ナル者ナ
 リ思想ノ眞偽ヲ定ム方法ハ凡テ意識ノ明暗ニ屬スルカ故ニ其意
 識明暗ヲハ即チ眞ナリ我儕ハ意識ニ由テ永遠完全ニ存在者ト云ル
 ヲ不知以テ神ハ必ク存在シ且其完全ニ屬シテ亦皆有テナリ

人以此完全ナル神ノ創造ニ一切ノ真理及ヒ自然法即チ理學數學等以原理ニ據ラザルニテ却説此人タル論理ニ斯ク意識ニ由テ神ノ存在ヲ證シ神ノ存在ニ由テ意識ノ眞ナルコトヲ證スルカ故ニ世世之ニ循環論理ト稱スルナリ

〔三〕スベノサ此人ハユダヤ人種ニシテホムラシドニ生シ生涯亦貧シテ且屢々迫害ヲ蒙リシカ千六百七十七年死セリ却説此人ノ説ハダカルトノ説ニ基ク者ニテ我儕ノ心意ハ凡ヘテソ變更ヲ觀ル毎ニ必ス自然生ナル一定ノ存在者ヲ求メタルニカラス尙能ク實ニ之ヲ了解スレハ一切ノ外物モ皆存在者ノ顯示セル者ナルコトヲ曉知スヘシ即チ本質ハ唯一個ニシテ此一本質ハ決シテ他ノ本質ヲ創造スル能ハス宇宙ハ神ヨリ離レタル者ニアラス宇宙及ヒ萬有ハ皆理性ニ從テ變更スル者ナリトアリ此論理ハ實ニ凡神論及ヒ宿命論ニ歸スルナリ

〔三〕ライプニツ此人ハ天資聰明ニシテベルリンノ學校ニ聘セラレ其總長ト爲リ千七百十六年死セシカ生前著述セシ所ノ書ハ皆短簡ナリ者ナリ却説此人ハダカルトノ説ニ從ヒスベシゾ誤謬ヲ矯正セシト謀リシカ其説ニスベシゾガ主張セシ唯一存在論ハ固ヨリ謬説ニアラサレト此唯一ナル存在者ハ全知至善ニシテ且自由ナル意向ヲ有スルヲ以テ其能ク創造スヘキ種々ノ宇宙中ヨリ最モ善良ナル者ヲ擇ミ今日ノ如キ宇宙ヲ創造セリ蓋此宇宙間ニ惡ノ存在スル所以ハ必ス其須要ナルニ由テナリトアリ却説此説ハ所謂樂天説ニシテ萬有ハ皆善良ニシテ且存在セサルニカラスサルトノ主義ナレハ固ヨリ聖書ノ神カ其榮光ヲ顯ハス爲メニ萬物ヲ創造セリトノ教義ニ適ハサル耳ナラズ神ノ自由ナル意向アルコトモ否ト者ナリ奈何トナレハ神ノ行フ所ニ必ス善良ナルニカラストスレバナリ蓋此人ハ或時斯クノ如ク論スレ

又或書類ニハ屢々宇宙ハ元子ノ組成ニ由テ生セシ永遠物ニシテ其間ニ心意及ヒ物質ノ兩種アリ此兩種ハ實ニ勢力アリ且各其自己ニ規則ニ從ヒテ運轉スレモ又互ニ相和合セリ例ヘハ心意ノ運轉ハ敢テ物質ヲ動ス能力ナケレモ物質ハ自己ノ規則ヲ守ル耳其ラス心意ニ從ヒテ運轉スル等ノ如シト記載セリ故ニ此説ハスベシザノ如キ凡神論ニハアラサレモ到底造物主ノ存在スルコト否ムナリ

〔四〕カント 此人ハセルマニノコニグスベルグニ生レ同地學校ニ教諭ト爲リ八十歳ノ高齢ヲ保テ千八百〇四年死セシカ一説ニ此人ハ終身其郷里ニリ十里以外ニ旅行セシコトナシトアリ却説此人ノ未ダ出テサル以前ニイソングランドニホブスヲモシ、ロシト云ヘル三人ノ哲學者アリホブスハ基督教ニ抵抗シ我儕ノ智識トハ凡ヘテ五官ニ由テ物ノ眞偽ヲ定ムルコトニテ想像力トハ凡ヘテ五官ニ由ラスニテ知ルコトナリ然

ルニ教法ハ凡ヘテ人類ノ想像力ニ由テ成立セシ者ナレハ邦國ヲ治ムル爲メニハ緊要ナレモ到底恐赫主義ノ者ナレバ恰モ雙親カ其子ヲ恐赫スルト髣髴セリ且基督教徒カ救拯ヲ求ル等ハ皆其利己心ヨリ起ル者ナリト稱シ、ロシハ我儕ノ智識ハ五官及ヒ反省力ニ基ク者ニシテ五官トハ受動的智識ノ本ニシテ反省力ハ原動的智識ノ本ナリト云ヒシカ此二人ノ説ハ實ニカントノ爲メニ學問ノ啓導者ト爲リカントハ其著述ナル「單純理性ノ批評」ト題スル書ニ於テ人カ有形ナル物質ヲ了解スルハ五官ノ力ナレモ無形ナル形質ヲ了解スルハ唯悟性ノ作動ニシテ主觀上ノ事ナリ故ニ宇宙及ヒ神ノ存在等ハ皆不可識物ニシテ決シテ證據ヲ示スヘカラサル者ナリト記載セシカ是レ實ニ後年不可識論ノ起ル發端ナリ然レモ此人ハ幼年ノ頃其母ニ從ヒ基督教ノ教育ヲ受ケシニ由テ自ラ其論理ノ甚々危険ニ傾嚮スルコトヲ悟リ又人ニハ實

際ノ理性アルカ故ニ倫理法及ヒ未來ノ審判並ニ此等ヲ主張スル存在者アルヲ信スト云ヘリ然レモ是レハ實ニ不通ノ論ニシテ尙單純理性カ果シテ實說ナラハ實際理性ナル者ノアルコトハ決シテ承認スヘカラス奈何トナレハ此者尙悟性内ニアリトモハ證據ヲ示スヘカラス又悟性外ニアリトモハ無形ノ物質ナレハ得テ知ルヘカラサレハナリ蓋カソトハ終身此論理ノ斯クノ如ク矛盾スルヲ悟ラサリシカモ其徒弟等ニ至リテハ能ク之ヲ了解セリ

〔五〕フイグテ此人ハセルマニ人ニテ第十八世紀頃ベルリンニ於テ書生ヲ教導セシカ千八百十四年死セリ却說此人ノ說ハ唯心論ニシテ即チ我儕ノ智識ハ意識ニ由テ生スル主觀上ノ者ナレハ物質ノ有無ハ決シテ明亮ナラスカソトカ此存在ヲ論セシハ假定說ニ過キサルナリ宇宙及ヒ神等ノ如キ客觀上ノ者ハ皆人ノ心意ヨリ起ル者ナリ觀念ハ漸々

心意ノ發達スルニ從ヒ共ニ發達スル者ナリ人類ハ永遠ナル心意ヲ顯出スル者ナリト云ヘリ却說此說ノ如ク一切ノ物ハ唯心意ヲ以テソミ知ル者トモハ唯物質ノミナラス心意モ亦知ルヘカラサル論理ニ至レバ此人ハ遂ニ之ヲ了解セサリシナリ

〔六〕シエリリング此人ハフイグテノ高弟ニシテベルリン其他二三學校ノ教諭ト爲リシカ千八百五十四年死セリ却說此人ノ說ハ凡神論ニシテ即チ我儕ハ直覺力ヲ以テ絶對者ヲ知ルナリ萬物ハ絶對者ノ發達ヒシ者ニテ始メハ意識ナキ者ナレハ自然ニ意識アル者即チ心意ト爲レリ故ニ人ハ絶對者ノ最モ善良ニ發達セル者ナリ絶對者ハ入ト爲レル後始メテ意識ヲ具備シタレハ人類ハ即チ神ノ顯出セル者ナリト云ヒシカ此說ハ能クセルマニ中ニ行ハレタリ

〔七〕ヘゲル此人ハセルマニ人ニテ神學校ニ在ル頃ヨリ暫クシエニ

ソグト交リ其後與ニ連合シテ勉學セシカ其説ヲ異ニスルニ及ヒ獨諸
 方ニ遊ヒ生徒ヲ教授シ後又ベルリンニ於テ其一家ノ教系ヲ教授セシ
 カ千八百三十一年死セリ却説此人ノ説ハ實ニ曖昧ナル者ナレトモ大概
 古昔ノ萬有神教ト類似セシカ其要略ハ即チ萬物ハ凡ヘテ觀念ノ規則
 ニ從ヒテ發達スル者ナリ心意及ヒ觀念ハ同一物ニシテ相離ル、能ハ
 ス是レ即チ神ナリ神ハ觀念ノ發達スルニ從ヒ自ラ曉知シ又人類意識
 ノ發達スルニ由テ自ラ認許スルナリト云ヘリ蓋此觀念ニ就キテハ其
 著述セシ或書中ニハ人類ノ觀念ノ如ク記載スレハ恐クハ萬有ノ成立
 ナリテ主觀上ノ者ノ如ク信セシナラシ又此人ハ論理ノ眞理所在ヲ探
 究スル緊要物ナルト及ヒ信仰ノ緊要ナルト三位一體ノ説等ヲ説キタ
 レ其信仰ノ目的トハ唯論理ニ由テ知ル所ノ理論ニシテ三位一體ヲ
 哲學上ノ連續ナリト述ヘタリ但此人ハ其説ヲ斯クノ如クナルニ關シ

ラス基督教ヲ輔翼スル志アリ終身「ル」教會ノ中心ニ屬シ且之カ爲
 ヲ屢々盡力セシハ實ニ奇ト云フヘシ抑モ此人ノ教系ハ一時殆シトセ
 ルマニ全國ヲ壓倒スル勢力アリタレトモ其死後ニ至リ勢力俄カニ衰へ
 派中三黨ニ分レタリ然ニ其左黨ハ有神論ニシテ人心ニハ皆教法的ノ
 情操アリテ哲學ヲ管轄スルナリト云ヒ中央黨ハ哲學ヲ以テ神學ト同
 一ナリト稱シ右黨ハ無神論ニシテ哲學ハ無上權ナリ人ハ皆觀念ノ規
 則ニ從ハサルヘカラスト稱スレトモ各自皆其説ヲ以テヘゲルノ正統ト
 稱スルナリ蓋此人ノ著述カ原ト曖昧ナル者ナレトモ後來斯クノ如キ説
 ノ起ルハ決シテ怪ムニ足ラサルナリ

因ニ云ク神學及ヒ教會カ此合理論ノ爲メ受テタル傷害ハ實ニ枚舉
 スルニ勝ヘカレトモ簡短ニ之ヲ評スレハ教會ヲ古昔ノ偶像教ニ挽回
 セントスル者ナリト評スルモ敢テ不可ナキナリ抑モ此合理論ハ神

ソ本位アルヲ排斥シ基督ハ人類一般ノ肉ヲ執リテ成者ニシテ教會
 ハ成立セル有機體ナリト云ヒ又人ノ本位アルヲ排斥シ人類並神
 ニ盡スヘキ義務ヲ否ミ且神人間ノ中保及贖罪ノ必要ナルヲ否
 ミ哲學ヲ貴ミ聖書ヲ賤メ教會ヲ根本ヨリ轉覆セントスル者ナリ蓋
 此凡神主義ノ合理論ハ古昔萬有神教ト云ヘル玄奧學ニ及カサル
 者ニテ彼ノ玄奧學ハ道義上ノ情操ヲ感化スル力アリ此合理論ハ
 毫モ其力ナク實ニ或説ノ如ク此ハ萬有神教ノ影ニシテ不熱不果
 者ナリニシテ靈魂ノ需用ニ應スル價直ナキナリ

第三節 形而下

此合理論ハ大概唯理有神唯物等ノ諸論ニシテ即チ左ノ如ク

一 準備

〔二〕「ロルト」「ベークソン」此人ハイタラシトノ貴族ニシテ第十七世紀初

頃彼ノ有名ナル「新方法」ヲ著述シ彼ノ中古ニ起ル煩瑣哲
 學ニ相對シ凡ソ理學ヲ探究スル方法ハ古昔ノアリストテ及ヒ中古
 其後分解法ヲ以テ其真理ヲ求ルニ及リト云ヘリ蓋此人ハ固ヨリ基督
 信徒ナレハ唯此法ニ據リテ形而下ノ事物ヲ稽查セシト起圖セシ耳
 ナ敢テ後世ノ駁教家ノ如ク之ヲ以テ基督教ヲ排撃スル志ハ毫モア
 ナリシニ後世狡猾ナル駁教家ハ此方法ニ據リテ基督教其他ノ教法ヲ
 排撃スルナリ

〔三〕「ハルト」此ハイングラント國醫者ニシテ第十八世紀ノ中葉
 「ベークソン」ノ方法ニ從ヒ且許多ノ經驗ニ由テ感覺ハ心經ノ動搖ニ
 シテ屢々連續シ且屢々同一ナル動搖ヲ爲ス者ナリ故ニ感覺ノ再三起
 ルニ從ヒ觀念モ亦屢々同一ニシテ生ズル者ナリト主張セリ蓋此人モ

終身基督教之真理を以て承諾せしむるは、其の第一義として、
 一、唯理論論 唯理論論は、一、其の第一義として、
 二、(一)「ピリタ」下リ此人は、亦平生醫業を爲せり、唯其の唯理論の原理を基礎として、
 蓋して其の極處に及べり、即ち人々を種々之觀念アルハ、唯其の感覺を變更
 せんナレハ、離體ノ心意ハ存在スヘキ處ナシ、又其存在スル證據アラサ
 ルナリ、蓋宇宙は、唯理論的ノ心意を以て存在セリ、云々、
 (二)「ホリ」等 此ハ、ホリ等、人々有神ノ原理を基礎として、
 以上諸大家の説を折衷し、世に全能ノ神を以て宇宙を創造し、且其
 一定不變の自然法を設け、又別ニ默示奇蹟等以て、人々を導き、
 靈魂ハ有體ニシテ肉體に共ニ消滅スル者ナリ、云々、
 此原理は、原キ宇宙に心意アルコトを否シ、唯物論者ハ、彼ノ有名ナルコトを
 以て、コトトシテ、其の他許多ヲ却て、此コトを以て、實驗理學者は、

人の知ルべき者ハ、唯有體ノニ過キ、神ノ存在ハ、我情ヲ確知スル能
 ハサレ者ナシ、決シテ有ルハ、カラスト云ヘリ、又彼等、
 存在ヲ承認スルハ、其の心意アルコトを否シ、似テ、
 三、有神論 此論ハ主張スル者ハ、時紀ヲ三期に分テ、第一ハ、技術時代
 第二ハ、教法時代、第三ハ、理性時代ニシテ、當今ハ、即ち理性時代ナリ、云
 々、
 (一)「ロルト」ハ、ヘルト 此人ハ、有神論ノ開祖ニシテ、且其有神論者中ニ
 テ、古今ニ卓絶セル者ナリ、却て此人ハ、自然神教ヲ完全ナル教法と認め、
 且當時諸國ニ弘布スル諸教法ヲ研究シ、更ニ一般ノ理法ニ適スル教
 法ヲ建テ、一冊子ヲ著シ、其旨趣ヲ述ベシ、カ、此冊子ハ、最高
 ノ神、敬神ノ義務、德行ノ義務、悔改ニ由テノ赦罪、未來ノ應報ト云々、五
 原則ヲ建テ、且世に於テ一定ノ自然法アルコトヲ默示等アルカ、
 第五章

下論セリ然ルニ其後イソクランク及ヒ其他ノ有神論者等ハ此人ノ説ニ基キ理性ヲ以テ完全ナル者ト爲シ或ヒ之ニ據リテ聖書ノ奇蹟預言歴史ヲ排駁シ或ヒ其基督教ヲ轉覆セント欲シ或ヒ其新教系ヲ建テ基督教ニ代用セント欲シ或ヒ公然ト基督教ニ抵抗スル者アリ其他又或ヒハ陽ニ基督教ヲ尊崇スレモ陰ニ之ヲ排駁スル如キ狡猾者流ニ妙カラリシナリ

四 無神論 此ハ即チデモスロク及ヒ監督ベルグリ等カ首唱セシ者ニテ後世ニ無神論者ハ大概皆之ヲ神ハ人シ考按ニ出テ以テ存在スル下ノ説及ヒベルグリ凡ハテ物ノ存在ハ唯觀念ニ過キテ我儕ノ形質外ニ於テ之ヲ知ル方法ナシトシテ説ニ基クナリ

(一) デモストロキ等 無神論ハヒユムニ至リテ其發達ヲ極メシカ此人ハ我儕ハ唯五官ニ觸ル者ノミヲ知り得ルニ心意ニ至リテ知ル能ク

サレ者ナリハ神ノ存在スル證據ヲ知ラズ云ヒ且其頃流行セシ意匠論ニ對シ我ハ時計ヲ製造スル者ヲ觀テ能ク離勞能ク此世家創造セシ者ヲ觀テ云ヒ又因果論ニ對シ我ハ觀念ヲ種々相續テ起ルヲ知シ能ク其相續キテ起ル所以ヲ知ラズト云ヒ又奇蹟ニ就キ三個ノ説ヲ述ベテ即チ(一)奇蹟ハ證據ハ人ノ說話ニ止ル者ナリ(二)人類ヲ建ル證據ハ甚ク變更シ易クシテ自然法ノ一定不變ナルカ如キ者ニアラサレハ實ニ疑フ可キナリ(三)基督教徒ノ建ル證據ハ脆弱ニシテ偶像教徒ノ所謂奇蹟ヲ殆ト異ナラサルナリ(四)基督教徒奇蹟ハ假令真正ニシテ且其理由ヲ解釋アリモ實ニ疑フ可キナリ(五)其奇蹟ノ有無ハ未ダ證據ヲラサレナリ云云

其他又彼ノスモノセル等ノ勢力存在説ハ最モ晩近ニ起リ且最モ勢力アリテ説ナリカ此説ニテ所謂勢力ナル者ニ意識審知意向ナリシテ常

ニ運行シ往々人ヲ爲メ神正稱セラルナリ蓋此者外世火ヲ神ト認
 へキ者ナリト云ヘリ
 因ニ云ク第十八世紀頃イノグランドニ於テ此合理論ニ對スル種々
 ノ辨明書ヲ著述セシカ就中有名ナル者ハ即チ(一)「異邦人ノ内庭」此
 書ハゲールノ著述ニシテ自然神教ノ價值ヲ説ク皆聖書ヨリ出
 ル證據ヲ述ヘタリ(二)「宇宙智力ノ組成」此書ハクドゥオルトノ著述
 ニシテ有神論者ハ古昔哲學者ノ謬説ヲ承傳セル證據ヲ述ヘタリ(三)
 「教法ト自然法ノ對比」此書ハ監督ブトレルノ著述ニシテ設令有神
 論者ノ述フル如キ神ノ存在、自然法ノ一定、人智ノ有限ト云フ公準ニ
 從ヒ、論究スルニ默示ノ爲メニ起レル困難ハ自然法ノ爲メニ起ル困
 難ヨリ了解シ難キ者ニアラサレハ此兩種ハ同一手ヨリ出タル者ナ
 ラント述ヘタリ(四)「有神論辨明ノ捷徑」此書ハレズリノ著述ニシテ

有神論者カ誤謬ノ一源ハ智識ヲ以テ信仰ニ代用シ之カ爲メ信仰ノ
 作動スヘキ所ヲ撤除セリト述ヘタリ却説此等辨明書ハ原ト有神論
 者ニ對シテ著述セシ者ナレハ無神論者ニ對シテモ甚ク勢力アル者
 ナレハ之カ爲メ從來ノ合理論ハ大ニ勢力ヲ喪キ殆ント地ニ拂フニ
 至リ輒今ニ至リテ又彼ノスペンセル等ノ不可議論處々ニ起ラレ
 且蓋是レハ格別影響ヲ教會ニ與ニル能ハサルナリ

第三節 批評

此合理論ハ哲學者ノ冥想及ヒ理學者ノ論說ト擧揚セル者ナリ第十八
 世紀ノ季頃セルマニナル大學校ノ教諭中ニ痛ク聖書ノ批評ヲ爲サ
 ン欲スル者許多起レリ
 一 最初ノ批評、彼ノレニテハ聖書ヲ批評スルニハ聖靈ノ感導ニ
 由テ靈妙ナル信仰ヲ得ルコト緊要ナルヲ主張シ聖書ノ教典ヲ定メ

方例、雅各書發行ニ由テ義トセラレ、辭ヲ爲テ之ヲ撤除ス
 等如キ種、誤譯ヲ爲シ、レニ第十八世紀ノ初頃、
 神學者、
 且此人ハ深ク聖書ヲ畏敬シ、
 天主教徒カ「
 教會ニテ、
 種々ノ古寫本ヲ參考シ、
 カラス云、
 二 高等批評(名新道學) 此等神學者等ハ、
 於テ教授ヲ爲セ、
 批評ナレハ、
 普通書類ノ如キ批評ヲ下サント欲セシカ、

言辭文章及ヒ其進歩ノ形狀ニ由テ事實時代記者及ヒ其眞偽ヲ知ル
 得ルナリト云ヘリ
 (一)ナルフ 此人ハ有名ナル數學大家ニシテ、
 千七百五十四年死セリ、
 證據ヲ建テ難キ者ハ皆道トスルニ足ラスト、
 式ニ從ヒ理性ヲ以テ定ムヘシト云ヒシカ、
 理學ニ關係ナキ虚飾物ノ如ク認ムルニ至レリ
 (二)ゼムレル等 此人ハ千七百九十一年ニ死セシカ、
 シルトテ、
 カラスト云ヘリ、
 及ヒ直覺力ヲ指スニ過キス、
 道義ノ師範ナレトモ其教ヲ諸民ニ弘布スル爲メ、
 第五章
 二百八十一

惡魔及ヒ天使奇蹟復活等ノ説ヲ任從シテ敢テ矯正セザリシナリ舊約
 聖書ハ固ヨリ我儕カ靈妙ナリ信仰ニ由テ知ラザルヘカヲサル書ナリ
 其歴史傳記等ハ多シ小説又ハ口碑ニ屬スル虚飾物ニシテ眞理ノ存
 在スル者ハ實ニ僅少ナリ此等ノ者ヲ受ルヘカヲスト稱シ遂ニ創世
 紀及ヒ列王紀畧等ノ書ヲ捨テ然ルニ世人ハ恰モ水ノ一時ニ繩門ヲ
 出ルカ如ク四方皆滔々トシテ之ニ風靡スル形状ト爲リシカハ此人ハ
 又其底止スル所ナカラノト憂ヒ之ヲ制止スル爲メニ重テテ二書ヲ
 著ハセリ然レモ遂ニ其效驗アラザリシナリ例ヘハアイクホルンバダ
 カルドノ説ニ從ヒ聖書ヲ稽查スルニハ先ツ其各章ヲ疑ハサルヘカラ
 ス蓋是レハ恰モエジプトパピロソノ古傳説ヲ稽查スル如クナレハナ
 リト云ヒエルチステハ聖書ヲ稽查スルニハ胸中ニ公準ヲ置カス自由
 ニ觀察セサルヘカヲスト云ヘリ蓋此等學者ノ根本トスル所ハ力ノ及

フ限リ自然ノ理ニ從ヒテ説明スル者ニテ例ヘハモーセカイエラエル
 人ヲ帥キテ紅海ヲ渡ルニ方リテ海水ノ開ケタルハ風勢ノ爲メニシテ
 其律法ヲシナイ山ニ受ケシ時ノ奇蹟ハ雷雨ノ起リシニ過キス又彼地
 カ口ヲ張リテメタンアピラムチ吞ミシトハ地震ノ爲メニアラスンハ
 モーセカ預メ鑿タル者ナラント云フカ如キ是レナリ

(三) レッセング等 セルマニ地方ハ第十八世紀ノ中葉彼ノレッセングノ爲
 メ大ニ震動セラレタリ却説此レッセングナル者ハエルトステノ高弟ニ
 シテ千七百八十一年死セリ此人ノ説ニ基督敎ハ使徒等カ其師基督ノ
 生涯素志ヲ達スル能ハサリシヲ知リ後年密カニ計略ヲ以テ之ヲ建テ
 シ者ニテ其歴史預言奇蹟復活等ハ皆信スルニ足ラサル妄談ナリ四福
 音書ハ矛盾ノト多シ新約聖書全體ニ就キテ批評スレハ其敎ユル所ハ
 大概ギリシヤ學者ノ説ヲ假借セシ者ニテ新發明ニアラス舊約聖書ニ

就キテ批評スレハユダヤ人カ神ニ就キテノ考接ハ凡テ偶像教徒ノ考接ヲ借リシト明カナリト云フニ至ラサルハ實ニ失敗セシナリトノ批評アリ又或者ハ人々ニ己人ハ此頃世ニ基督教ハ未タ嘗テ一國モ其人民ノ利己心ヲ抑ヘ善道ヲ導クニ至ラサルハ實ニ失敗セシナリトノ批評アリ又或者ハ人々ニ己人ハ有限ナル者ナレハ人類全體ハ無限ナル者ニテ往々顯出スル英雄豪傑ノ力ニ由テ自然ニ進化スルナリト云ヒシカバルトト云ヘル學者ハ此主義ニ基キ古昔ノ孔子モトセソクテステスイエスルヲレセムレ及ヒ我ハ神ノ攝理ニ由テ人類ヲ進化セシムル爲メ來レリト云ヘリ然ルニセルマニノ教會ハ此等ノ諸説ノ爲メ甚タ衰頹シ學校ニテ聖書ヲ教ユル者ナリ且教法ニ關係ナキ教育ヲ希望スル者多ク又其頃著作セル尊嚴歌ヲ以テ從來ノ聖歌ニ代用スル等ノ事起レリ

〔四〕スタラオス 右ノ諸批評ハツピンゲン學校ノ教論スタラオスニ至

リテ全ク開發セリ却説此人ノ著述セル基督一代記ヲ觀ルニ今日存在スル基督教ノ起レル理由ヲ釋スレハ是レハ他ノ諸教法ト同シク古傳説ニ基キテ起レル者ニテ基督ハ其信徒等ノ爲メ其實價ニ應セサル功名ヲ與ヘラシメタリト記載セリ且此人ハ其第一板ヲ出版セシ時ニハ耶穌ノ存在セシト迄否ミタレバパウールノ攻撃ヲ受ケシ爲メ其後第二板ヲ出版スルニ至リテハ耶穌ノ存在ヲ認識セリ然レハ此人ハ又其書ニ使徒及ヒ其他ノ徒弟等ハ舊約聖書ニ記載セル「メッサヤ」ノ預言ヲ以テ皆基督ニ應ヘシメントノ考接アリシカ此考接ハ其後漸々發達シ第二三世紀頃新約全書ヲ編輯スル時ニ至リテ全ク成就セリト記載シタレハ必ス基督ヲ以テ彼ノヘゲルノ所謂最後觀念ノ説ノ如ク一般人類ノ觀念ニ過キサル者ト考接セシナルヘシ且此人モ亦他ノ高等批評家ノ如ク奇蹟ヲ以テ自然ノ理ニ由テ顯出セシ如ク云ヘリ

(五) シナシ 此人ハ フランスマン ノ有名ナル東方學者ナリシカ基督一代記
 著述スル爲メ久シク スリヤ パレスチナ 遊ヒ其材料ヲ集メテ却
 説其説ニ基督ハ虚想家ニシテ天性甚ク造化ノ奇工ヲ感服シ遂ニ神ト
 交通スルコトヲ起想シ又嘗テユダヤ人ノ醜行ヲ矯正セント謀リ稍ヤ其
 功ヲ達セシカハ尙ホ神ノ徵召ニ由テ「メツシヤ」ト爲ラシト志ヲ起シ
 遂ニ舊約ノ預言ニ應スル爲メ自ラ驢馬ニ乘リエルサレムニ入ル等種
 々ノ行ヲ爲セリ蓋其十字架ニ釘ラレシヨハ基督自身ト雖モ必ス驚異
 然シナラント又基督ハ固ヨリ特異ナル善人ナレモ其奇蹟復活等ノ事
 實至リテハ全ク當時ノ口碑ニ過キカルテ後世信徒等カ新約聖書ヲ編
 輯スルニ方リテ之ヲ編入セシナリト稱シ順叙ニ聖書ヲ引キテ其証據
 ヲ舉ゲ若シ抑モ此基督ニ代記ハ基督教ヲ轉覆スル如キ書ナレバ廣ク
 フランス全國ニ流布セズ耳ナラス 歐羅巴 諸國ニテ翻譯ヲ爲シ特ニ天

主教隆盛シ地ニ流布セシカ フランス 教會ニテ有名ナル教諭 フランソワ
 セハ此理由ニ就キ天主教徒ニ從來基督ノ事跡ヲ詳ニセザリシニ此書
 其經歷ヲ知ルニ便益ナル者ナレハナリト云ヘリ
 三 輓今ノ批評 此ハ大概舊約聖書ニ關スル者ニテ凡ク三種アリ
 (一) 粉本 此ハ第十八世紀ノ中葉 パリ ノ醫者 アスト ノ著ナル者ガ首唱
 セシ説ニテ此人ハモトモカ創世紀ヲ編輯スル時ハ古昔ヨリ傳ハレル
 二種ノ書ヲ以テ其粉本ト爲セシカ其一番ニハ神ノ「エロヒム」ト云
 ヒ一書ニハ「エホバ」ト書ケリト云ヒシカ其後彼ノ有名ナル アイクホル
 シ及ヒ ウトル 等ノ諸學者輩出シ右ノ外尙ホ一種或ハ二三種ノ粉
 本アリト論セリ蓋此教系ハ暫クニシテ消滅セリ
 (二) 增訂 此教系ヲ公クニ唱道セシ者ハ ツピンゲン 學校ノ教諭 ニウアル
 トナル者ナリ(千八百七十五年死ス)其説ニユダヤ人ニ古昔ヨリ一書

アリシカ其教法上ノ經驗發達スルニ從ヒ漸々之ヲ増訂シ遂ニ今日ノ如キ者ト爲セリ蓋其原本ノ形狀ハ今者諸書中ニ分在スルニ尙ホ粲然トシテ之ヲ窺知スルヲ得ルナリ且其増訂者ニ就キテハ或ヒハ二三人或ヒハ數人ナリト云ヘリ蓋此批評モ尙舊約聖書ヲ真正ナル者トシ基督ノ批准セシメテ承諾スルナラハ敢テ不可ナクシテ此說ニ從フ者ハ多ク之ヲ否ムナリ

〔三〕進化 此說ニテハ聖書ハ唯ヘブルノ文學ニ由テ著述シユダヤ人ノ思想ヲ寫出セル者ナリ元來ユダヤ人ハ平民預言者祭司ナル三種ノ相容ノナル者アリ平民ハ拜物教ニシテ牛ヲ以テ「エホバ」ト尊ヒ預言者ハ思想家ニシテ祭司長ヒルキヤ或ヒハエストラ頃マテニ著述セシ歴史及ヒモ「エホバ」ノ律法ヲ所有セズ祭司ハ其職務ヲ整フ爲メ其書ヲ著述セシナリト稱シ遂ニ律法歴史ハ更ナリモ「エホバ」其人マテモ古代ノ小説想像

ナリト定メシカ或者ハ此說ニ從ヒ舊約聖書ノ註解ヲ著述セリ蓋此教系ハ要スルニ増訂說ヨリ出テシ者ナリ

第四節 合理論ノ盛衰

一 猖獗 セルマニ聯邦ハ大概右ニ記載セシ如キ合理論ニ傾嚮シ「モレウ」アン派ヲ除クノ外ハ真正ナル信仰ヲ喪ヒ神學校ノ課目ヲ「思辨哲學」ヲ以テ聖書ニ代用スルニ至リシカスウイッララシドモ亦之ニ同クハ「レ」ニ居住スル儘カノ信徒ヲ除クノ外ハ大概合理論ニ迷ヒ真正ナル信仰ヲ喪フタリホルラシドニ於テハ教會ノ騷擾セシ爲メ此論遂ニ其國內ニ滋蔓セシカ此頃其牧師「ゲルナル」者ハ天資物性學ヲ好ミシカセムレルノ教系ヲ國內ニ輸入セシ爲メ中合ノ擯斥ヲ受ケタリ然レド此人ハ政府ノ保庇ニ由テ其擯斥ヲ救ヒ且其後相嗣キテ其俸給ヲ與ラレタリ且此國ニハ合理論ノ翻譯書大ニ流行シ安息日ヲ守ル者ナク

且合理的ノ歌謡ヲ以テ福音主義ノ聖歌ニ代用スル上ノ法律ヲ設ケ遂ニ文學ヲ以テ基督教ニ代用スルニ至リ大學校ノ者ハ凡ヘテソノ教法ヲ以テ皆善其ナル者ト稱シ且基督ハ固ヨリ孔子ゾアステルニ超越セル者ナレトモ聖書及ヒ其教法ハ比竟進化ノ一種ナルヲ免レヌト云ヒ又贖罪ノ教義ヲ否ミ大概人類ハ悉皆救ハル、者ノ如ク信シタリトシグランドニ於テモ亦セルマニフ合理論風トニ渡航シホルランドノ如ク盛ニ流行スルニ至ラザレトモ能キ培養地ヲ得テ頗ル滋蔓セリ且此國ノ國教中ノ一支派ナル寛濶派ナル者ハ聖書ノ言辭ハ皆默示ニ由テ定メラルトナリテ否メモ眞正ナル信徒ハ新教舊教ニ關ラス神ノ默示ニ由テ恰モ使徒等ノ如ク眞理ヲ悟リ得ルノ權アリト云ヒ又或者ハ教義ヲ研究及ヒ批評スルニハ毫モ拘泥スルコトナク自由ニ考按スヘシト云ヒ又或者ハ社會ハ萬物ト同ク漸ク發達シ幼稚成童大人ノ差別アル者ニ

テ今者即チ大人時代ナリ故ニ幼稚時代ハ默示ヲ以テ緊要トスレトモ今者理性ヲ以テ適當トスルナリト云ヘリ又教師ハテソノ説ニハ各教派ハハベルノ如ク錯雜シ諸派各自ニ正統ナリト主張スレハ尙此錯雜ヲ避レ寧靜ナラント欲セバ自己ニ具有スル理性ニ由ルニアラザレバ別ニ方法ナシト云ヘリ其他教會ノ重要ナル者ニテ聖書ヲ攻撃スル者許多アリ因テ大監督等ハ之ヲ糾彈セント欲セシニ却テ國會ノ爲メ幼稚セラレタリフリンズハ天主教ノ國ナルニ由テ格別聖書ヲ用キザリシ故ニ批評合理論ハ甚ダ行ハレザリシカニ形而下ノ合理論盛ニ流行シ大改革頃ニ至リテハ其極点ニ達シバリノ府中ニテ嘗テ一娼妓ヲ崇メ理性ノ女神ト爲セシヲアリ

夫レ教會ハ恰モ家屋ノ蠹害ニ遇フテ腐朽スル如ク合理論ノ猖獗セシ爲メ甚ダ衰ヘタリ蓋合理論ノ斯クノ如ク滋蔓セシ所以ハ歐羅巴諸國

ノ教會カ大概其政府ノ管理ヲ受ケ自ラ其教會ヲ洗滌スル力ナキニ由
テナラシ故ニ合衆國ノ教會ハ其制度ノ獨立ナルカ爲メ深ク合理論ノ
害ヲ受ケサリシナリ

二 福音主義ノ挽回 此頃セルマニニ於テ始メテ福音主義ノ挽回ニ

起想セシハ敬虔派ノ者ニシテ特ニ其高等批評ヲ排斥セズ彼ノシラ
イエルマケルヲ以テ嚆矢トス抑モ此人ハ始メ「モレウアン」派ノ教育ヲ
受ケシカ其後自ラノ經驗ニ由テ信仰ハ智力ニアラスンテ心意ニアル
トキ悟リ久シク「バル」及ヒ「ベルリン」ノ學校ノ教諭ト爲リ千八百三十四
年死セリ却説此人カ生涯教導セシ説ハ實ニ善良ナル者ナレバ唯其聖
書中ニハ緊要ナル真理モ存在スレバ其歴史ニハ虚飾ニ屬スル者多シ
ト云ヒシハ實ニ此人ノ過失ト云ハサルニカラス又其徒弟「アンデル
ナル者」ハ原上或行商ヲ營ムニダヤ人ノ子ナリシカ此人ニ從ヒ「ブレト」

派ノ哲學ヲ研究シ遠ニ基督教ノ學ヲサレバカラサレバ悟リ漸次ニ
之ヲ學ビ大學者ト爲リシカ彼ノ有名ナル教會歴史等數書ヲ著述シ千
八百五十年死セリ却説此「アンデル」ノ聖書中ノ奇蹟ヲ説明スルニ自
然法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトモナキニアラサレバ大概福音主義ニ從ヒテ
之ヲ爲セシカ遂ニセルマニ人ヲシテ歴史ノ緊要ナル證據ヲ知り適當
ノ地ニ回復セシメタリ其他此國及ヒスウイッルランドノ大學校ニハ
トルク「ヘンク」ステン「ベルグ」ドルチル等有名ナル神學者輩出シテ福音
主義ノ教義ヲ主張セシカ此等ノ學者モ尙ホ未タ理性ノ輔佐ヲ借リテ
聖書ノ真理ヲ説キ特ニ默示ニ就キテハ曖昧ナル説ヲ爲スモノ多ク大
概萬民得救説ノ如クナレハセルマニノ神學ハ到底今日ニ至ルマテ未
タ純正ナラサルナリホルランドニ於テ合理論ヲ矯正セント起圖セシ
者許多アリ彼ノ新約聖書神學ヲ著述セシ「ウ」ン「オ」ステ「セ」ノ如キモ即

其一人ナリ又凡ソ八萬人許リシ信徒ハ福音主義ノ信仰ヲ保シテ爲
 シ千八百三十四年其國教ヨリ分離シ其迫害ノ甚ク殘刻ナル爲多シ
 合衆國ニ移住セリイングリランドニ於テモ亦合理論ニ抵抗シテ種々
 辨明書等ヲ著述セシ者許多アリシカ就中彼ノ後年「ナリシ」大監督
 ト爲レルウヰヰ「ナリシ」ナリシオソ帝傳記ノ疑点「ト題スル著書ハ合理
 論者ノ論法ニ倣ヒナリシオソ大帝ノ有無不明ナル事ヲ論セシ者ニテ
 實ニ珍奇諧謔ノ書ナリシ」
 合衆國ナル「ナリシ」ノ神學博士「ナリシ」著述モ「ナリシ」ノ就今
 ノ批評特ニ進化説ニ對スル反駁書ニシテ最モ明詳ナルカ其重要ナル
 説ハ即チ「(一)舊約聖書中ノ歴史及ヒ傳記等ハ例ヘハ山河市街等ノ井然
 變更スヘカラザルカ如ク整々々々連續アリ(二)後代ノ舊約記者ハ前代
 ノ舊約記者ノ説ヲ引用スルニ能ク世上ニ公布セシ者ノ如ク記載セリ

(三)律法ヲ唯人民ノ守ルベキ者ニシテ祭司等モ亦守ラザルベカラ
 ザル者ナリ特ニ其規諫ヲ至リテ祭司等ヲ爲シ著述シテ者ナリ(四)基
 督ハ此書ヲ以テ神ノ默示ナリト批准セリト又此人ハ我儕ノ記憶スベ
 キ一ノ緊要ナル説ヲ述ヘ批評家ハ各自互ニ種々ノ説ヲ述フニモ皆符
 合スル能ハサルナリト云ヘリト

教師ノ義務

教會ノ教師タル者ハ合理論者ノ猖獗ヲ防シ爲シ種々ノ事實ヲ知リ
 細カニ之ヲ主張スルハ最モ緊要ナルコトニテ即チ左ノ如シ
 一 辨明ヲ用キル其法ハ基督カ其徒弟等ニ命セシ委任ハ教會ヲ維持
 ニアラヌシテ福音ヲ萬國人民ニ宣布シ之ヲ歸セシムルコト(太廿八ノ
 十九廿)ナレトモ或時ハ信仰ノ爲メ戰ハサルヘカラザルコトアリ(猶ノ三
 節)但是レハ猛進シテ爲サハルヘカラス抑モ福音ハ固ヨリ神力ニ由

才鞏固ナル者ホレハ智力ヲ特ニ辨明ヲ以テ基督教ヲ支撐セシメ
 ルハ實ニ柱ヲ以テ天ヲ支ユルカ如キコトナレド能ク之ヲ利用シテ
 敵ノ弱点及ヒ諷説ヲ發顯スル耳ナラス默示ヲ眞理ト自然ノ眞理ト
 符合スルコト及ヒ默示ハ敢テ眞正ナル理性ト背反セサルコトヲ發明シ
 各種々ノ裨益アリ
 二聖書ノ範圍及ヒ精神ニ此ヲ明細ニ推測シテ敬重スルコト最モ緊
 要ナルコトナリ蓋シ基督教ハ例ヘハ宏壯ナル宮殿ノ建築法ヲ觀ルニ先
 ヲ其建築術ノ概括及ヒ形象ヲ知ラサレハ設令其材料ヲ奈何ニ精査
 スルモ決シテ了解スル能ハサル如ク其教法ノ範圍及ヒ精神ヲ知ラ
 ザレバ之ヲ窺フコト能ハサルナリ茲ニ一ツ配應スヘキコトアリ即チ教
 法ハ聖書ニ合著スル者ナレド教法ト聖書ト自ラ別體ナルカ故ニ教
 令聖書ヲ研究スルモ信仰ノ其心ニ起ラザル間ハ決シテ了解スル能

ハサルナリ基督教中ノ緊要ナル特質ニシテ之ヲ能ク結合セシム所
 者ハ即チ(一)完全ナル神ニ此神ヲ尊貴スルコト能ク人ヲ承認スル所
 ナルカ異教徒中ニテギリシヤ人ハ最モ能ク之ヲ考按シテ不可議ナ
 ル存在者ト云ヘリ蓋シ「エホバ」ハ自ラ人ニ悟ラシムル者ナリ(二)「メシ
 ヤ」古昔ノ駁教家ハ多ク基督ノ存在セシトチ否メトモ「今ニ至リテ
 ハ奈何ナル者ト雖モ之ヲ否ム者アラス且基督ニ特異ナル現象アル
 コトハ最モ熱心ナル合理論者ト雖モ多ク之ヲ承認セリ例ヘハ「カント
 ハ基督ヲ以テ完全ナル觀念ノ表號ト云ヒヘゲルハ基督ヲ以テ神人
 一致ノ表號ト云ヒスベシ」ガハ基督ヲ以テ神ノ智識ト云ヒフシテハ
 斯ノ如キ現象ノ前ニ孰カ拜服スル覺性ヲキ者アラフヤト云ヘリ又
 舊約聖書ニ「メツシヤ」ノ來ルコト及ヒ其奇異ナル特質アルコトヲ記載
 シ且ユダヤ人カ基督ノ降世ヲ羨ナシト明白ナリ其他新約聖書ニハ

基督ノ傳記ヲ掲ケタリ特ニ教會ハ其影ヲ映射セシ者ナリ(三)無ニナル道義ノ教系ニ此ハ人類ノ神ニ對スル職務ニ基ク者ナレトモ神ト人ニ對スル一切ノ義務モ亦之ニ含蓄シ且是レハ人類外部ノ事ナラズ基督ノ教ニシテ如ク其心理ニマテ關係スルコトハ合理論者ト云ヘト承認スル所ナリ(四)神ノ父タルコト神ハ其子孫ナル凡ヘテソノ人類カ罪ノ爲メ墮落セシニ由テ基督教ヲ以テ之ヲ挽回聖潔シ又其父ナル神ノ形容ニ復シ之ヲ子トスルノ目的アリ(五)人ノ兄弟タルコト此ハ人類一系ノ主義ニ基ク者ニテ古昔神ハアブラハムニ向キテ凡ヘテノ者ハ此人ニ由テ祝セラル、ト契約セシ耳ナラス多クノ預言者モ人類ハ後年平和ニ赴キ基督ニ由テ一致スルコトヲ預記セリ(六)人ノ末路ハ此ハ義ヲ爲ラル者ハ永遠ナル生命ヲ得ルコトナリ(七)三聖書ニ含有スル教法ヲ自證ニ神ヲ默示ニ就キテハ聖書外別ニ正

確ナル證據アラザレトモ聖書ニ記載セル神及ヒ基督ノ事ハ實ニ人心ニ貫徹スルニ他ノ論究勸誘ノ力ニ超シ且基督信徒ノ希望ハ聖書ノ預言ニ在リ如ク其目的ノ特異ナルコト之ヲ否ム者アラサルヘシ(一)四靈妙ナル信仰ノ必要ニ此ハルコトカ教義ノ根本トシテ詳細ニ主張セシコトナレトモ輒今合理論ノ猖獗セシ爲メ教會中ニ陸沉シテレハ又之ヲ適當ノ地位ニ挽回セサルヘカラス蓋之ヲ挽回スレハ理性モ亦從ヒテ其地位ヲ得ルヘシ抑モ合理論者ハ聖書ヲ抗擊シ教法ヲ傷害スル者ナレトモ倘其真正ナル福音主義ノ批評ナラハ却テ教法ノ爲メ聖書ヲ支持スルナリ(二)五超性的ノ特質ハ人類ハ實ニ超性的ナル聖靈ノ力ニ由ラサレハ教ヲ信スル能ハサルニ由テ神ニ依頼シ祈禱ヲ捧クルノ必要ナルコトハ甚ク明白ナリ(三)

第六章 「ロマ」及「ギリシヤ」教會

第一節 「ロマ」教會

「ロマ」教會ハ改革後大ニ奮起シ其教會ヲ擴張セントテ教應ヲシテ之ヲ總括セシメシカ其新教ニ對セシ作動ニテ最モ緊要ナル者ハ即チ(一)アレソントノ議會ニテ教會正式ノ教義ヲ確定セシ(二)新教ヲ攻撃セシ(三)即チ三十年間ノ大戰等(三)「ユニオン」派ノ組織(四)偶像敬諸國ニ傳道セシ(五)蓋此傳道ニ從事セシヨハ固ヨリ嘉賞スヘキコトナレドモ一ハ之ヲ以テ「歐羅巴」諸國ニテ受ケタル損害ヲ償ハント欲セシナリ

一 アレソントノ議會 許多ノ天主教徒ハ久シク其教會ノ規律廢弛セシヲ觀テ新教ノ興起セシモ亦之ニ職由スル者ノ如ク思惟シタレハ一ハ此規律ヲ更張スル爲メ一ハ新教ノ主義及ヒ教義ヲ擯斥シテ其紛雜ヲ靖定セシ爲メ議會ヲ開カンコトヲ願望シタレドモ教王ハ却テ恐怖ノ念

深ク之ヲ開クヲ欲セサレハ種々ノ口實ヲ設テ久シク延期セシカ遂ニ教王ハウロ第三ノ時ニ至リ議會ヲアウストリアノ南部ナレソントニ召集セリ時ニ千五百四十五年十二月十三日ナリ却說此議會ノ議員ハ「ロマ」ヨリ來レル大使三人及ヒ諸教派ノ管長五人、大監督四人、監督廿八人ニシテ甚ク僅少ナレドモ「歐羅巴」諸國ノ特命大使及ヒ許多ノ聖職者等陪席シ甚ク嚴格ナリ其日數ハ十八年間繼續セシカ其間閉場或ヒハ轉移セシコトアリ又其決議ハ新教ニ對スルコト等種々アレドモ先ツ其神學ニ就キテハ陽ニハアウグスタソノ說ニ從ヘドモ實ハ「半ビレチアン」ノ說ヲ用キ神ニ義ト爲ラル、教義ニ就キテハアダムハ義ヲ以テ其衣服ノ如ク原性ノ上ニ加ヘラレ初メハ之ニ由テ其肉體ヲ整ヘ正シキ生活ヲ爲シタレドモ背叛後ハ全ク其義ヲ喪キテ唯其原性ノ殘リタレハ罪カ之ニ歸スルコトアラサレドモ自ラ罪ニ傾嚮スル者ヲ爲レリ却說此教義ニ就

キ新教ニテハルトナルカ定メシ如ク全ク信仰ニ由ル者トスル天主
 教ニテハ信仰上行状ニ由リ且義ト爲ナルニハ長クノ歲月ヲ閱ル者
 トスルカ故ニ其正確ニ救拯ヲ得ルコトハ公審判ノ日ニ至ルマテ明白ガ
 ナサレナリ又其神聖ノ教義ニ就キテハ全ク職務上ニ属スル者ニテ教
 王ハ設令姦惡無道ノ者ナリト其職務ノ爲メニ之ヲ神聖ト稱スルナリ
 神ノ恩惠ナル教義ニ就キテハ之ヲ或ヒハ聖職者ノ行ヒタカ聖禮
 典ニ由テ得ルセリ其他決議セシメ「ウチカケト」ノ聖書(セロムノ翻譯)
 夫以テ原文ト同ク教會ノ憲據ト爲スコト及ヒ練獄ノ教義諸聖人ノ旨
 像遺物等ヲ貴重スルコト祭典斷食拜禮用書類等ノコトナリ
 三 三十年間ノ大戦百天主教徒ハ本卷第二章ニ記載セシ如ク改革後
 廢テ新教ヲ撲滅セント謀リ切カ其後遂ニ「ラニシユイト」派ノ者ノ爲メ
 セルマニ於テ千六百十八年ヨリ全四十八年マテ凡ソ三十年ノ間慘

慘ナル大騷亂ヲ惹起セリ却說其理由ヲ釋スルニ初メ「ラニシユイト」派
 「ラニシユイト」派ノ者ハセルマニ帝「ラニシユイト」派ノ弟ニシテ「ラニシユイト」派
 ノ教育ヲ受ケ甚ク新教徒ヲ憎惡セシカ千六百十七年此國ノ王位ニ選
 立セラレ「ラニシユイト」派ニ其國內ノ新教徒ニ向テ迫害ヲ起セリ因テ
 「ラニシユイト」派人ハ其後此人カ其兄「ラニシユイト」派ノ死ニ由テセルマニ
 帝位ヲ襲ヒ(千六百十九年)ニ及ビ其權下ニ服スルコトヲ肩負ヒセルマニ
 「ラニシユイト」派王「ラニシユイト」派第二ノ女婿ナル「ラニシユイト」派侯「ラニシユイト」派第
 五ヲ迎ヘテ「ラニシユイト」派ニ於テ其國ノ王冕ヲ戴カシメシニ「ラニシユイト」派帝
 ハ之ヲ聞キ大ニ激怒シ軍兵ヲ起シ「ラニシユイト」派ヲ逐ヒ人民等ノ財產ヲ
 沒收シ新教ノ會堂ヲ毀シ且其書籍等ヲ焚燒セシメ「ラニシユイト」派或歴史家ノ說
 ニ「ラニシユイト」派ハ其頃三百萬許ノ人口ヲ有シニ此騷亂後ハ僅カ八十萬
 以內ニ爲レリト云ヘリ然レニセルマニ「ラニシユイト」派聯邦ノ新教ヲ奉スル諸侯伯ハ

今者ボヒロニア人ノ迫害ヲ受ケルコトヲ觀テ甚ク危懼ス生ク莫クシテ
 ヨルンク王ト盟約ヲ爲シ其自由ヲ鞏固ニシメント謀リシニハ帝ハ之ヲ聞
 キ怒ヲ布告ヲ出シ新教徒カ改革後漸々占有セシメ教會所屬品ヲ舊教徒
 ニ返還セシメ且舊教ノ侯伯等ニ威力ヲ以テ新教徒ヲ抑壓スルコトヲ許
 シ又アリ及ヒソレンスタインノ兩將ヲシテ新教ノ諸侯伯ヲ討伐セシ
 メテリ却說此アリナル者ハ殘忍狂暴ノ者ニシテ此頃戰勝ノ勢ニ乘シ
 到處其暴威ヲ逞セシメカハ之カ爲メ其名大ニ顯ハレシガ特ニ其マクテ
 ベルクヲ攻陷セシ時ハ士卒ヲ放テ亂暴セシメ老若男女二萬餘人ヲ殺
 シ小兒ハ鉞ニ貫キ空中ニ飛ハシメテ之ヲ殺シ道路ハ死骸ノ累々タル爲
 メ往來ヲ絶シニ至リ或官吏カ之ヲ禁止セシコトヲ請ヒシレハ兵卒等久
 シク強實ヲ得テソハ尙ホ一時間之ヲ許スヘシト答ヘテテ蓋是レハ其
 頃兵卒ニ俸給ヲ與フルコトヲ許シ掠奪ヲ以テ其生活ヲ爲サシメテ之ニ因テ

ナリ抑モ今者ハ戰爭ニ新舊兩教共ニ國內ノ壯者ヲ募リ大學校ノ書
 生ニ至ルニテ皆兵隊ニ編入シ且多ク諸國ノ兵ヲ雇ヒシカ其戰ハ遠
 スウイデゾ及ヒテアラシメスエイン等マテ波及シセルマコフテソノ
 國境ナルライン河邊ハ實ニ之カ爲メ蕭索荒漠タル者ト爲ヘシテ
 ハ四百十七個ノ邑落滅亡シキニハ殆シト百萬許リノ人民死
 シハラテテハ人民ハ減少セシ耳ナラス其頃狼ノ數俄カニ増加シ狼
 ハ農民等ヨリ多數ナリト云フニ至リテハ人口ヲ増殖スル爲メ其
 ニトレンベルクニ於テ新キ法律ヲ設ケ人民ニ兩妻ヲ娶ルコトヲ許ス
 耳ナラス聖職者ヲ結婚ヲ許セリ且或歴史家ハ此時セルニ人民ハ死
 亡ヲ免レシ者ハ僅カ五分ノニニ過キヌト云ヘリ
 却說新教徒久シク舊教徒ノ狼藉ヲ遠ヒタレハ全ク絶望スルニ至リ
 シニ彼ノスウイデゾ王ハ突クウメナリシヲ改メテ同教徒ノ好敵ヲ

思ヒ八千ノ兵ヲ帥キテ來援セリ此人ハ當時無双ノ良將ニシテ信仰モ亦薄カラズ能ク兵卒ヲ訓練シ衣服糧食等ヲ給與セシ故兵勢甚ク強カ
 四ノカ此頃イノグランドモ亦「ブルド」ハ「ミルトン」カ其國及ヒスコッ
 ドラノドソ兵數聯隊ヲ帥キ來援セシガ共ニ力ヲ協セ三次ノ大戰ニ
 テセルマニ帝ノ權勢ヲ推キ特ニ第三次ノ戰ニテハ彼ノ力ヲ敗リ之
 ナ傷ケ遂ニ死シ至ラソノ第三次即チ千六百卅二年ノ戰ニハ諸軍皆ル
 一ナルノ聖歌ヲ詠ヒ進行シグスマウス、ア、ル、ス、ス、此戰ノ初ニ於
 テ爾死シタレニ遂ニ大勝ヲ得テセルマニ聯邦ヲ蘇息セシメタリ蓋此
 國ハ其後尙ホフランススウイヰント戰爭セシカハ是レハ重ニ政治上
 ノ爭亂ナリシカ千六百四十八年ニ至リ全ク和議ヲ結ビフランスナンド
 帝ハ先ニ發セシ新敎財產返還ノ布告ヲ廢セテ却說此回ノ和議ハ敎王
 ナ除ク外ハ歐羅巴諸國ノ君長ニテ皆之ヲ満足スル者アテナレドモ

ルニ君長等數十年ノ騷亂ヲ爲タ國力大ニ衰ヘ非常ニ人口亦衰
 キ工業等凡クテ廢絶スル形狀ニ至ル故頗ル之ヲ希望セリ千六百
 三三「シエニエイト」派 其國蓋シテ「シエニエイト」派

〔聖イザベラ〕傳記

此ハハスベイゾノ貴族ニシテ千四百
 九十二年此國トフランスノ國境ニ生シ少年ノ頃ユリ其國ノ習慣ニテ
 フルデナゾドイゾベラ夫婦ノ近習ト爲リ智力ヲ教育ヲ受クル能ハサ
 リト云ヘ能ク王家ノ典故事實等ニ通曉シ又幼年ノ時ヨリ神名ヲ
 讀スヨク厭ヒ聖職者ヲ尊敬シ且巧ミ且中裁ヲ爲セシ故ニ之カ爲メ稍
 ヤ其名ヲ知ラレタリ却說此人ハ三十歳ノ頃スベイトフランスノ戰
 爭起ルニ及ヒ此國ヲ爲タハムアロナチ守リ其足ヲ傷ケ遂ニ敵ノ俘虜
 上爲リシカ敵人等其齋膳ナルヲ感賞シ之ヲ放テテ家ニ歸ラシメタレ
 ハ或外科醫ニ就キテ其創痕ヲ治療セシニ其技術甚ク拙劣ナレハ實ニ

疼痛に耐え、自ら軍火を燃やして之を忍ぶ。其後、カラスト
 思ひ敢て之を言辭に毒を置き、又醫師が誤りて毒藥を與へ、能く之
 を飲下せしむ。看護人等、爲すに抑止せられ、稍之を棄てり。此人、病
 ノ危篤ナリ。及ヒ既ニ最期ノ禮典ヲ受ケシカ、或夜聖メテロカ俄然ト
 シテ其臥榻ノ傍ニ顯ハシ、之ヲ療スト見シ以來、其病漸々回復セリ。此ハ
 ハ其頃病褥ノ中ニ在リ、刻苦シテ基督ノ一代記及ヒ諸聖人等ノ小説ヲ
 讀ミシカ、能ク通讀スル能ハサレ、其行爲ノ卓越ナルヲ觀テ、大志ヲ
 感シ、遂ニ其遺跡ヲ追ハント欲スルノ志起リ、且其病ノ平愈スルニ及ヒ
 世間種種々々誘惑ヲ悟リ、ルイテ、ルカ如ク、真心ノ責ニ由テ、神ノ寵惠ヲ悟
 リ、斷食等ノコトヲ以テ、其墮落セル性質ヲ抑ヘント謀リ、又歩行シテ、エ
 ルカ、行賽スル誓約ヲ建テシ、其夜、又童貞女マリアカ子ヲ懷キ、光
 明赫燦トシテ、其前ニ顯ハレ、是レヨリ、全ク世ノ誘惑ヲ棄テ、其後病已

平愈スルニ及ヒ、乗物ニテ、モントモ、其志ヲ遂ゲ、シテ、派ノ會堂ニ
 至リ、其鐘ヲ以テ、童貞女マリアカノ像前ニ掛ケ、一身ヲ奉供スルノ誓約ヲ
 建テ、其時、千五百廿二年四月十七日、此日、恰モ、ルイテ、ルカ、ウオル
 ムスノ會議ニ出テ、時ニ相當スルノ實ニ奇異ト云フヘシ、却說此人ハ
 是レヨリ、直チニ粗糲ナル長袍ヲ被テ、行脚杖ヲ執リ、赤靴ニシテ、乞巧ヲ
 爲シ、行步蹇々トシテ、モルカ、サレ、ムニ、赴キ、道路ニテ、人ニ逢フ、毎ニ神ノ寵
 惠アリ、其コトヲ論シ、已ニ其地ニ達スルニ及ヒ、モルカ、サレ、ムナル西教會ノ監
 督ニ、就キ、此地ノ回々教徒ヲ改心セシメン爲メ、留留セシコトヲ請ヒ、監
 督カ、取テ、之ヲ承諾セサレ、ハ止ムを得ス、又歐羅巴ニ歸シ、却說此人ハ、
 其後學問ヲ修メ、シテ起圖シ、レ、此時、歲已ニ三十ヲ過キ、其進歩甚ク
 遅鈍ナレ、痛々刻苦シ、大學豫備ノ教諭ニシテ、己ヲ教授スルコト、恰モ小兒
 ノ如ク、尙記憶セサレ、シテ、其後倍々苦學勉勵

幸フシテ同所ノ大學校ヲ卒業シ遂ニパリノ大學校ニ入りテ此頃
 ヲリ始メテ一教派ヲ起シテ起點也
 (二)組織及ビ作動 却説イグチシウスガ此教派ヲ組織スル目的ハ敢テ
 彼ノベテデクトシテラシシス等ノ如クニ身ノ救拯ヲ求ムル爲メナラス
 専ラ教會ノ光榮ヲ顯ハス爲メナレハ唯世務ヲ放任シ教會ノモニ盡力
 スル者ヲ募集セシカ其最初ニ同盟セル彼ノ高名ナルフランシス、ヤウ
 エル及ビヤエムスライナト等六人ノ者ハ唯門地才略ノ人ニ超ヘシ耳
 ナラス甚ク富饒ナル者モナキニアラス然ルニイグチシウスハ此六人
 ノ者ト共ニ千五百卅四年パリナルモントマルテレノ會堂ニ至リ「マス」
 以禮典ヲ受テ消貧週世及ビ無制限ナル服従ヲ爲ストリ誓約ヲ爲シ是
 ヲヨリ又乞丐シテイタリヤニ赴キ其途中ニ於テ或ビ病入テ訪問シ
 或ビハ街頭講義ヲ爲シ又ハ侮教家ヲ規諫スル等ノヨチ爲セシカレシ

イグチシウスハ巴ニイナリヤニ達セシ時ニロマノ郭門ノ前ニ於テ耶穌ノ
 贖贖トシテ立テタルヲ觀シテ因テ千五百四十年教王パウロ第三ノ許可
 ヲ受テ一教派ヲ建ルニ及ビ其派名ヲ「シエニエイト」派即チ耶穌派ト稱
 シ後其教派ノ者ト共ニバレンスタンニ至リ傳道ヲ爲セシカトルキヲ
 亂ニ由テ其希望ヲ達スル能ハサリシナリ
 イグチシウスノ制定セシ此教派建設ノ理由書及ビ建立根法ノ概畧ヲ
 舉シテハ即チ教派中ニ一人ノ無限專制ナル管長ヲ置キ教徒ハ皆其指
 揮ニ從ラリ恰モ杖ノ手ニ從ラカ如ク敢テ自ラノ意向ヲ用キ又其良心
 ニ由テ善惡ヲ識別スヘカラズ管長ハ常ニロマニ居住シ荷モ事アル時
 ハ參事員ヲ集メ之ヲ商議スヘシ等ナリ又此派中ニハ四個ノ階級アリ
 即チ(一)新入生(二)徒弟 此ハ此派ノ學校ニ入り消貧等三條ノ誓約ヲ守
 リ未ク試練中ノ者ナリ(三)補助者 此ハ巴ニ試練ヲ了リテ未ク其

蘊奧ヲ究メ且未タ教王ト傳道ノ誓約ヲ爲サズル者ナリ(四)公認者其
 此ハ凡ヘテノ階級ヲ踏ミ其蘊奧ヲ究メタル者ナリ其他又附屬員ナル
 者アリ蓋是レハ唯其派中ニ稱スル耳ニテ世ニ公稱スル者ニアラサル
 カ皆平人ニシテ多クハ侯伯等勢力アル者ナリ此派ニテ新入生ヲ入レ
 シトスル時ハ靈妙ナル操練トテ先ツ四週間餘リ閑室ノ中ニ入レ遙カ
 ニ拜禮式ノ聲ヲ聞キ又ハ數次來訪ノ訓誨師ニ接見スルノ外ハ決シテ
 事故ニ干ルコトナシ最初ノ一週間ハ罪ニ關スル諸事即チ罪ノ種類及ヒ
 其宏大酷烈ナルコト心ニ起ル些少ノ迷誤罪ノ爲メ受クル艱辛並ニ其形
 狀、地獄審判ノ日及ヒ其宏大ナルコト第二週間ハ此世ノ蠢愚ナルコト第三
 週間ハ基督及ヒ其受苦、死去、復活ノコト第四週間ハ天及ヒ其威光ヲ考ヘ
 シムルカ是レハ新入生ノ奈何ナル特質智力徳義アルコトヲ觀且其將來
 何等ノ業ヲ成就スルヤヲ察スル爲メ甚ク有益ナル者ナリト云ヘリ其

他又新入生ノ將來能ク柔順嚙黙シテ服従スルヤ否ヲ試ル爲メ甚ク嚴
 酷ナル待遇ヲ爲シ其能ク耐忍スルヲ知ルニ及ヒテ之ヲ受理スルコト
 リ其方法ハ例ヘハ此者ヲ以テ使丁ト爲シ無益ノ勞役ニ服セシメ又ハ
 惡性ナル疫病人ノ所ニ遣ハシ或ヒハ街頭ニ於テ地獄地獄ト連呼セシ
 メ或ヒハ修夜睡眠ヲサシメス或ヒハ侮辱又ハ毆打足蹴等ノコトヲ爲メ
 ナリイグチシウスハ其教派ニハ唯高才卓識ニシテ身體健康ナル者ノ
 ミヲ募集セント欲セシカ豪族名家ノ人ニテ之ニ加入セント請フ者甚
 カラス例ヘハフランスノ伯爵ウイリアム、ポステルノ如キ是レナリ蓋
 此人ハ天性英敏ニシテ始「世ノ驚異」ト副稱セラレシ人ナレハ其志願
 スルニ及ヒイグチシウスモ歡ヒテ之ヲ迎ヘダレヒ其後試煉中遂ニ發
 狂シ我ハ「シユニユイト」派ノ者ナリト自稱シ或ヒハ派中ノ密事ヲ記載
 セシ書籍ヲ出版スル等種々ノ行ヲ爲シ教徒等之ガ爲メ甚ク焦慮セリ

却說此教派ニテ最初ニ建設セル學校ハ其完全ナルコト歐羅巴第一等ニ位スル者ニテ且其衛生ヲ教授スルニ後來四方ニ傳道シテ其貴族等ト交接スルニ方リ敢テ不足ナカラシムル爲メ充分ニ注意セリ又此派ハ他ノ諸教派ノ如ク諸事ヲ勉ムルニ時間ノ規則ナク其衣服ハ交際ニ便ニセシ爲メ法服平服ヲ使用スルコトヲ許セリ

イグチシウスハ教徒ノ選舉ニ由テ其管長ト爲リシ以來倍々之ヲ擴張シスベインボルチガルラノス等ノ諸國ニ許多ノ學校勸孤院ヲ建設シ又直接間接ニ許多ノ義捐金ヲ受ケシカ千五百五十六年ニ死セリ却說其死去ノ形狀ニ就キ教徒等ノ記載セシ書ヲ觀ルニ我儕ノ父ナルイグチシウスハ固ヨリ聖人ナレトモ其已ニ死セントスルニ至リ我ハ「ロマ」教會ノ爲メ許多ノ善行ヲ積ミ我教派ノ繁榮及ヒ學校宮院等ヲ觀タルニ此等ハ今皆我ヲ捨テ退去セリ今ヨリ何等ノ事ヲ爲スヘキヤ我ハ之

ヲ知ラスト云ヒ全身戰慄シ遂ニ最期ノ禮典ヲ受ケヌシテ死セリトアリ抑モ此教派ハイグチシウスノ未ク在世セシ間ハ歐羅巴全洲ニ於テ僅カ百餘軒ノ精舍千餘人ノ教徒ニ過キナリシカ其後漸々弘衍シ第十六世紀ノ季頃ニ及ヒテハ「ドミニカン」「フランシスカン」等ノ諸派ヲ壓倒スルニ至リ此派ハ其教徒ヲ歐羅巴諸國ニ遣シ其王家ノ聽悔師兼顧問官ト爲シ又亞米利加及ヒ印度地方ニモ派出シ共ニ其國內ノ密事ヲ探偵シ之ヲローマナル管長ノ許ニ報知セシメシカフランスニテハ其頃此「ユニオイト」派ノ者カ其國王ヘンリ第四ヲ殺害セント爲リトテ一且國境ヨリ驅逐セラシシカ其後又許可ヲ得テ國內ニ入り第十七世紀ノ中葉ニハ再ヒ勢力ヲ得テリ此教派ノ者ハ又嘗テ許多ノ探偵者ヲ學校教諭或ヒハ聽悔師等種々ノ形狀ニ打扮セシメ新教諸國ニ遣ハシ天主教徒ノ中ニ潜伏シテ其形勢ヲ觀察セシメシカ後年倍々增長スルニ

及ヒ諸王侯等ハ皆安堵スルヲ能ハス第十八世紀頃スルニイシボルチガ
 ルチ除クノ外ハ皆其國境ヨリ驅逐シタリ此教派ハ千七百七十三年教
 王ケレンメント第四ノ布告ニ由テ解散セラレ其後千八百十四年再ヒ之
 チ興隆シタレトモ屢々姦計ヲ謀ルニ由テ數次イソングランド及ヒセルマ
 ニフ랑스等ノ國々ヨリ驅逐セラレ解散前ノ形狀ニ回復スル能ハサ
 ルナリ蓋天主教中ニ在リテハ頗ル勢力ヲ占メ千八百七十年ウァテカシ
 ノ議會ニテハ其勢力ニ由テ教王ハ議會ヨリ越タル權力アリ及ヒ教王
 ハ過失ナキ者ト決議セシメタリ
 此教徒カ新教ニ向キテ用キル策略ハ種々アリ例ヘハ新教徒ノ如キ打
 拵ヲ爲シ其教徒中ニ交ラシメ又ハ新教ノ教師ト爲リテ竊カニ其教徒
 チ導キ天主教ニ轉教セシメ或ヒハ學校教諭ト爲リ漸々歐羅巴諸國ノ
 學校ヲ總括セント謀リシカ此教徒等ハ無給料ニテ教授セシ故ニ容易

ニ之ヲ成就セリ又此教徒ハ新教ヲ駁スルニ特異ナル論法ヲ用キタリ
 例ヘハ新教ニ鞏固ナラサル点アレハ許多ノ著述家相競フテ唯其一点
 ノミチ攻撃シ又其教義ヲ駁スルニ甚タ極端ニ走リテ論スルトアリ即
 チ自由ニ聖書ヲ解釋スルトノ說ヲ駁スルニ率合附合未タ新教ニテ許
 サル所マテ論及スル如キ是ナリ故ニ其勢力ハ非常ニ熾シナリ
 第十七世紀ノ中葉バリノ或學校ノ教諭ナル理學士パスカルハ天主教
 ノ者ナレトモ此教派ヲ抵抗セシカ嘗テ此教派ノ書中ヨリ奇異ナル異說
 チ發見セリ即チ(一)設令邪惡ナル行爲ト云ヘトモ多少ノ理由アレハ之ヲ
 許ス(二)憤怒ニ由テ爲セシ罪ハ之ヲ恕ス(三)結果ノ善ナル者ハ惡法ト云
 ヘトモ之ヲ善トス(四)誓約ノ際竊カニ違背ノ志ヲ有スルハ罪ニアラス(五)
 毫モ心中ニ神ヲ實畏スレハ救拯ヲ得ルナリト又其建立根法中ニ管長
 ノ命令ニハ設令罪惡ナルコト云ヘトモ必ス服従セサルヘカラス教會ニ

ア公然主張スル説ニ設令黑白轉倒スルコト雖モ必ス之ヲ守ラザルヘ
 カラスト故ニ今ニ至ルマテ倚斯クノ如キ狡猾偏僻ナル論ヲ主張スル
 者アレハ之ヲ「シニシユイト」主義ト稱スルナリ
 四「シヤンセンイスト」派 此派ノ開祖コルニリウス、シヤンセンナル
 者ハ初メホルランドノ北部ニ生レ教ケ所ノ學校ニ入り「マニシユイト」
 派ノ學校ニモ入りシカ深クアウグステンノ説ヲ喜ヒ凡ソ十回許リ其
 書ヲ研究シ特ニ其ビレヂウスニ對スル説ハ殆ソト三十回許リ勉強シ
 千六百卅六年ニアルノ監督ト爲リタレ其後三年ニシテ疫病ニ罹リ
 テ死セリ却説此人ノ著述ニ「アウグステン」ナル書ハアウグステ
 ソノ説ヲ墨守スルコト及ヒホルザカルナルニウラ學校ノ教諭ニテ「マ
 シニシユイト」派ノ教徒ナルモリナソ著書ハ「半ビレヂウス」ノ説ヲ含有セシ
 コトヲ記載セリ然ルニ後年或者カ此書ヲ出版セシニ「マニシユイト」派ノ

者ハ深ク之ヲ憎ミ其書中ヨリ(一)神ノ命令ニハ善者ノ爲サント欲マテ
 爲ス能ハサル者アリ(二)神ノ人ヲ救フ恩惠ハ抵抗スヘカラスナル者ナリ
 (三)他ノ強迫ニ由ラサル惡事ハ奈何ナル必要ノ理由アリト雖モ必ス犯
 罪ナリ(四)半ビレヂウスノ所謂意向ハ恩惠ニ抵抗又ハ服従スル自由ア
 リトハ正教ニアラス(五)基督ノ一般人類ノ爲メ贖罪セリト云フハ謬説
 ナリト云ヘル五條ヲ拔萃シ之ヲ教王インノセント第十ニ呈シ擯斥ヲ
 加ヘシコトヲ希望セシニ教王ハ此派及ヒ「シニシユイト」派ノ者ヲ喚ヒ其
 説ヲ聞キ後遂ニ擯斥セリ因テ此派ノ者ハ其擯斥ヲ避ケントテ教王
 ハ實ニ此五條ヲ擯斥シタレ是レハ「アウグステン」中ニアリト云
 ハスト主張セシニ「シニシユイト」派ノ者ハ又教王アレキサンデル第七
 ニ請願シ重テテ明白ニ其「アウグステン」中ニ在ルコトヲ布告セシメ
 且「シニシユイト」第十四ヲシテ聖職者等カ此布告ニ承諾スル爲メ其

紙尾ニ署名スルヲ命セシメシニ此派ノ者ハ尙ホ之ヲ承諾セズ教王
 ハ實際上過失ナキ能ハスト主張セリ因テ「マエシニイト」派ノ者ハ又教
 王ハ必ス過失ナキ者ナリト云ヒ遂ニ迫害ヲ起シ政府ヲシテ或ヒハ此
 派ノ者ノ財産ヲ沒收セシメ又ハ獄舎ニ下サシメ四年許リ教會ノ動搖
 ト爲リシカ其頃或貴族ノ周旋ニ由テ實ニ此布告ニ承諾スル能ハサル
 聖職者ハ其理由ヲ布告ノ紙尾ニ記載スヘシト定メラレシカ爲メ暫シ
 平和ヲ得タレトモ其後十年許リニシテ迫害又起リ教師ケテハ新約聖
 書考説ヲ出版セシ爲メニ此派ノ重要ナル者ナラント疑ハレ遂ニ國王
 ルキ第十四ヨリフランスヲ放逐セラレ其他聖職者モ亦必ス布告ニ署
 名シ之ヲ承諾セサルヘカラサルコト爲リ此派ハ遂ニ全ク滅タリ蓋ホ
 ルランドニテハ其後アントチアルナウルドナル者アリユテレンコト及
 ヒ其近傍ニ於テ又之ヲ再興シ凡ソ六千人許リノ教徒起リシカ是レハ

今日ニテ連續セテ抑モ此派ノ教義ハ福音主義ニ契合スル者ヲ尙
 未ダ自由由來得ルニ至ラザルナリ例ヘテ八ハ神ヲ恩惠ニ據リテ善
 爲ス力アリト信スレモ過テテ制慾主義ニ流シ普通信徒カ其國語ヲ翻
 譯セシ聖書ヲ研究スルコト許シ天主教ノ誤謬ヲ受テ其書籍ヲ講究ス
 ルコト否決能斷食等種々ノ事ヲ行ハシムルコトヲ許シテ其後
 ホルト、ロヤル(ラ)ラニス(地名)ナルシステルシアン派ノ修道院及女子
 子修道院ハ古昔ヨリ甚ク有名ナル者ナレトモ中古以來紀綱紊亂シ法度
 廢頓セシテ第十八世紀頃聖シランナル者カ之ヲ改革スルニ及ヒバ
 ノ貴族等多ク茲ニ來リ著述或ヒハ教育ニ從事セリ然ルニ國王ルキ第
 十四ハ此院内ニ居住スル歴史家テヘモン及ヒアルナウルド(後年)ソルホ
 シ「學校ノ教諭ト爲レリ」バスガル等カ此「マエシニイト」派ト同主義
 ナリ唱ヘシ爲メ此兩院ヲ指シテ異端ヲ巢窟ト稱シ千七百十年遂ニ之ヲ

廣城ノ女子ノ修道者ハ、バウロニ送リ、男子ノ修道者ハ之ヲ解散セリ。改革後天主教中ニテ或ハ三三人或ハ數人ノ者カ共ニ結合シテ修正ヲ起圖スル者許多アリシガ就中聖ウジセント、マバウロノ如キハ其最モ有名ナル者ナリ却説此人ハ初メフランスニ生レシカ嘗テトルキ人ノ中ニ繫囚セラレシ頃能クトルキ人ヲ勸メテ改心ヲ爲サシメ其後フランスニ歸ルニ及ビ此頃ノ艱辛ヲ回顧シ世ノ貧寒艱辛ナル者ヲ救ハントテ傳道會社及ヒ婦人樂善會ヲ設ケ婦人ハ病人兒童ノ看護扶育等ヲ爲シ傳道者ハ獄舎、カレ、船、貧院及ヒ疫病流行地又ハ戰地ニ至リ非常ナル傳道ヲ爲サシメシガ後年マテ此業ヲ嗣ク者許多アリ且此ハ其後又世ノ捨兒ヲ養育セントテ諸方ニ奔走シ雄辯ヲ奮フテ其資本ヲ募集セシメ聞者多ク感激シテ金錢及ヒ裝飾具等ヲ贈リシカハ之ヲ以テ許多ノ捨兒ヲ養ヘリ却説此人ハ千六百六十年ニ死セシガ新舊教徒

ニ關ラズ大概之ヲ聞キテ哀惜セリ。五 寂靜家 此ハ第十七世紀ニ起リ記載スヘキ價值アル者ナリ却説此ノ開祖モリノスナル者ハスペイン人ニシテ千六百八十一年ニ靈ナル生活ノ案内ト題スル一書ヲ著述シ其教義ハ古昔ノ萬有神教ノ如ク人類ハ復神ニ吸收セラル、者ナリトハ主張セサレトモ冥想ヲ以テ根本トシ人ハ之ニ由テ神ヲ知り又神ト交通スル者ナリト述ヘシニ其書ハ大ニ流行シ獨スペインノミナラスフランスイタリヤ等ノ諸國マテ之ヲ翻譯シ教王イノセント第十一モ最初ハ暫ク此説ヲ贊成シ又彼ノフランスナルギボン家ノ夫人ハ其廿歳ノ頃ヨリ祈禱及ヒ修學ノ爲メ一身ヲ神ニ奉供シ又頗ル文章ニ巧ミナリシカ此説ヲ信仰シ之ヲ擴張スル爲メ流麗ナル文章ヲ以テ書ヲ著述シ此徒中ニテ鋒々ナル者ト爲レリ然ルニ此徒モ亦彼ノ「マニニ」派ノ抵抗ヲ受ケモリノスル教

法詰問ノ後終身禁獄ノ刑ニ處セラレシギボシ夫人ハ誹謗迫害禁獄流竄
 等ヲ受ケ七歳ニ及テ死シ又彼ノババノ聖職者ニシテ雄辨家ナル者
 ニシテ其朋友ナル太子侍講水ノカカ酷シ此徒者ヲ迫害スルヲ觀
 テ心ニ屑トセス遂ニ之ト絶交セシカ亦シテ聖ノ派ノ爲メ其後教
 王ヨリ痛カニ擯斥セラレシ此徒ハ第十八世紀ノ初頃ニ至リテ全ク絶滅
 セリ抑モ「ニエニイト」派ノ者カ斯ク如ク此等玄奧主義者ヲ憎嫉
 スル所以ハ此徒等カ古昔ノ「ダイオニエウス」説ソ如ク教主管轄ヲ重
 重ナル耳ヲ云テ之カ爲メ教會ノ儀式ヲ廢諸スルニ至ラシ教會ノ衰頹
 ナルヲ自派ノ生活ヲ喪ハシメテ恐懼セシ爲メ也

六、古義公同教會「セルマニナルムニク」ノ大學校ヲ教諭ヤリシナル
 及ヒ西洋人等者等ハ此頃「ニエニイト」派ノ專横ヲ及ビ教王ハ
 或布告特ニ千八百七十年「ウテカ」ノ議會ニ於テ決議セシ教王ハ過失

ナキ者トノ説ニ満足スル能ハス始メテ反論ヲ首唱セシニ諸國ノ大學
 校ニテモ亦相尋キテ之ヲ唱和スル者アリ遂ニ是歲ノ八月セルマニス
 「ウイツル」ラノ「アウストリア」ノ神學者等相集リテ會議ヲ開キ「ウテカ」
 ノ議會ノ決議特ニ教王ハ過失ナキ者トノ説ヲ效力ナキ者ト決定セリ
 蓋此等ノ者ハ此頃マテ未ダ嘗テ天主教ヲ分離スル志ハアラサリシニ
 其後許多ノ平人等之ニ加入スルニ及ヒ勢ヒ其主義ノ教會ヲ設立セサ
 ルヘカヲサレト爲リ且當時教會ノ風俗ヲ一變シ最初教會ノ形狀ニ
 回復セントノ意ヲ發表スル爲メ自ラ古義公同教會ト稱セリ却說此派
 ノ者ハ其教會ノ準備ヲ整フニ當リ虔信禮及ヒ按手禮ハ監督ヨリ受ク
 ヘキ者ト定メテレ其派中ニハ嘗テ一人ノ監督モアラサレハ大ニ之
 ニ苦ミシカ此頃彼ノ「ニエニイト」ノ「ウテカ」ノ「ウツ」ノ中ニハ
 「ニエニイト」ノ議會ノ決議ヲ受理シ且使徒以來繼續セシ監督アリシカハ遂ニ

之ト一致シ其輔佐ヲ受ケタリ蓋此「ウヤンセン」派ノ者ハ其監督
 ナ選立スル毎ニ教王ニ報知シテモ敢テ其認識ヲ得サル者ナレハ此派
 ニテハ其認識ノ有無ニ關ハラス之ヲ以テ使徒繼續ノ教會ト認メシナ
 リ此派ノ者ハ天主教ヲ真正ナル教會トシ教王ヲ其頭首ト認ムレハ天
 主教ニテハ決シテ此教會ヲ真正ナル教會ト認メサルナリ此派ハ從來
 種々ノ慣例ヲ改メ最初教會ノ如ク普通信徒ニ監督選舉權議員選舉權
 ナ與ヘ又「マス」ノ葡萄酒ヲ飲マシムル等ノコアリ其教徒ハ現今ゼルマ
 ニ「スウイツル」ラン「ダウス」トリア等ノ諸國ニ弘行シ約莫五六萬人許
 リアレヒ特別進歩スル形狀アラサルナリ

第二節「ギリシヤ」教會

此教會ハ古昔東教會ノ習慣ニ從ヒ最初七議會ノ決議ヲ受理スレハ其
 後西教會ニテ開キタル議會ノ決議ヲ否シ教王ニ服從セス自ラ聖正教

公共教會ト稱シ現今三派アリ即チ(一)「トルキ」ノ教會即チ「コンスタン」
 「ブル」ノ師父ニ直隸スル者(二)「ギリシヤ」ノ國教(三)「ロシヤ」ノ國教

一 來歴 此教會ノ西教會ト分離セシ理由ヲ釋スルニ甚ク較著ニ爲
 リシヨハ第九世紀ノ中葉以後ノコナレヒ既ニ第四世紀頃ヨリ兩教會
 ノ間互ニ誤解相嫉妬等ノコ起リ特ニ第八世紀頃ニハ肖像ヲ用キル
 コトニ就キ烈シキ爭論アリシカ第九世紀ニ及ヒ「コンスタン」
 「ブル」ノ師父「フサウ」スナル者カ聖靈ハ唯父神ヨリ造ハサルハ者ニテ父子兩神
 ヲ出ルニアラサル教義ヲ主張セシ爲メ「ロマ」教王ヨリ是レヲ口實ト
 シテ放逐セラレシカハ「ギリシヤ」帝ハ之ヲ憤リ又「フサウ」スニ命シ教王
 ナ放逐セシメタリ是レ兩教會分離ノ發端ナリ抑モ此教會ハ初メ地勢
 樞要ニシテ信徒許多アリ其布教地ハ遠ク南部「イタリヤ」及ヒ「アラ」
 「リア」マテ延及シ特ニ其内ニハ使徒等ノ建設セル教會モ無キニアラズ

且第十世紀頃ニ彼ノ廣漠ナルロシア帝國カ公然基督教ヲ受ケ此教會ニ加入セシ以來ハ北部亞細亞中央亞細亞マテ其布教地ト爲リ實ニ非常ノ勢力及ヒ富饒アリシカ不幸ニシテ其後彼ノ回々教ナル者起リ其布教地内ニ侵入シ之ヲ奪掠スルニ及ヒ宏壯美麗ナル會堂モ其所有ニ歸シ信徒モ多シ其誘導又ハ強迫ニ由テ之ニ轉教シ或ヒハ殺害セラレタリ第十二世紀頃彼ノ教狂ナル十字軍ノ者カ此教會ヲ保護スルトテ其布教地ニ侵入セシ故此教會ニテハ其目的ヲ疑ヒ力ヲ盡テ之ニ抵抗セシカ此十字軍ハ實ニ東教會ニテ鳴謝スヘキ理由ナキ耳ナラス甚々腐敗セル道德ノ糞穢ヲ殘サレタリ此教會ハ千四百五十三年コンスタンテノブルカトルキ人ノ爲メ陷落スルニ及ヒ其國教タルヲ廢セラレ且初メ暫時ノ間ハ僅カノ自由ヲ許サレタレ其後四百年許リノ間非常ノ束縛ヲ受ケ殆ント囚虜ノ如キ形狀ト爲リタレハ唯コンスタン

テノブルノ教會カ漸ク其精神ヲ消耗シ全ク外形ヲ虛文ノミニ止リシ耳ナラス其他古昔ノ盛大ナル教會モ漸ク衰微シ今日ニ於テハロシア教會ヲ除ク外僅カギリシヤトルキエシプト等ノ諸國ニ散布點綴スルニ過キカルナリ
 羅馬教王ハ古昔ヨリ東教會ヲ以テ其權下ニ服屬セシメント起圖シタレト更ラニ其望ヲ達スル能ハス僅カニ南部イタリヤ及ヒアウストリアアルメニア並ニ印度ナル聖トマス教會ノ或者等ノミチ服屬セシメタリ蓋此等諸教會ノ者モ唯其外形ノミ其權下ニ服屬スル者ニテ其風俗等種々ノ事ニ至リテハ東教會ニ服從セシ時ニ異ナラサルナリ又此東教會ハ新教ニテモ之ト一致セント欲シ改革頃ニ彼ノラフンクトンハコンスタンテノブルヨリ來レル或執事ニ托シ書簡ヲ其師父ニ贈リシヨアリ其後ツビシケン學校ノ教諭二人ハ自ラコンスタンテノブル

ニ至リ此教會ノ首領等ト商議セシコアリ又イソングランド國教ノ者ハ
今世紀ニ至リテ此教會ト聯合セシコヲ謀リシニ遂ニ成就セサリシナ
リ且此教會ノ者ハ屢々セルマニニ遊ヒ新教ノ形狀ヲ目撃スレト其歸
國スルニ及ヒテハ大概新教ヲ抗撃スルナリ

三 形狀

(一)トルキ
ハ其國教ノ頭首タル耳ナラヌアソテオケニルサレムアレキサンデル
等ノ師父ノ上ニ立テ甚ク勢力アリタレト其後此國ノ滅ルニ及ヒ全ク
蘇爾丹ノ權下ニ屬シ其廢立ノ權サヘ皆蘇爾丹ニ歸セシカハ此職ハ怡
モ賣買品ノ如ク賄賂ヲ以テ之ヲ得ルニ至リ且其颯風ハ此教會一般ニ
波及セリ蓋ニソスタノアルノ師父ハ其後尙ホ重大ノ權力ヲ占メ
國內處々ニ散在スル諸教會ノ頭首ト爲リ其法律習慣ヲ以テ之ヲ制馭

シ且其俗務ニマテ干涉シ蘇爾丹ニハ若干ノ金錢ヲ納メ間接ノ統馭ノ
ニ爲サシメタレハ師父ニテ收納スル金額モ尠カラサリシカモ其他下
等師父等ニ至リテハ僅カ信徒ノ集金ヲ掌ル等ノミニシテ甚ク貧困微
弱ナル者ナリ却説此教會ハ此等師父ノ下尙ホ教會ノ聖務及ヒ聖務ト
俗務ヲ掌ル聖職者許多アリ其他男女ノ修道者モ亦尠カラサルナリ
(二)ロシア
此國教會ハ原トコンスタノアルノ師父ニ直隸シタレ
ト千五百八十二年ニ至リモスコトニ於テ特別ニ次等師父ヲ置キ之ヲ
攝理セシメシカ其後ヒイテル大帝頃次等師父ナイコンナル者アリコ
ンスタノアルノ師父ニ服屬スルヲ屑トセス全ク之ト分離セリ然
ルニヒイテル大帝ハ常ニ此師父等カ自義心虛托アルコト憤懣セシニ
由テ千七百〇〇年頃次等師父アザリアンカ死スルニ及ヒ復之ヲ置カ
ス權リニ或者ナシテ其職ヲ代理セシメ其後二十年ニシテ人民等カ師

英國教外ノ者カ新キニ其人民中ニ傳導スルコト及ビ聖書會社等ヲ建
 テ聖書ヲ販賣スルコトヲ禁セリ
 (三)ギリシヤ 此國教會モ亦古昔ハコンスタンチノブルノ師父ニ直隸
 シタルニ獨立戰爭頃千八百廿一年至千八百廿七年ヨリ漸々其關係ヲ
 解キ千八百三十三年ニ至リ聖職者會議ヲ開キ此教會モ亦ロシアニ倣
 ヒ全ク獨立スルコトニ決セリ却說此教會ハ其國王カブツマルク王子
 ニシテ「ル」ナル教會ノ者ナル故ニロシアノ如ク甚シキ政府ノ干涉ヲ
 受ケス教會政治等ハ凡ヘテ其教會々議ニテ決定スルト雖モ其會議ノ
 議員タル者ハ毎年聖職者五人官吏二人ツ、國王ヨリ選任セラル、ニ
 由テ到底政府ノ機械タルコトヲ免レサルナリ
 三 教會及ビ習慣 此等ノ者ニ就キテハ「ギリシヤ」教會中凡ヘテ一
 ナルハ實ニ特異ナリト云フヘシ且其教義等ハ天主教トモ大抵同一ナ

ルナリ却說其概畧ヲ舉クニ此教會ハ最初七議會ノ決議ヲ受テ三位
 一體及ヒ基督ノ本位等ノ教義ニ就キ大抵天主教ト同一ナレドモ聖靈ヲ
 出ル教義ニ至リテハ天主教ト同シカラサルナリ蓋是レハ當天主教ト
 同シカラサル耳ナラス凡ヘテノ三位一體ノ教義ヲ信スル者ト異ナル
 ナリ此教會ハ「羅馬」教王カ全教會ノ頭首タルコトヲ否メ且「アハクリ」及
 ヒ遺傳即チ先師等ノ支持セル聖書外ノ默示ト稱スル者ヲ以テ信仰ノ
 模範トシ之ヲ聖書ト同一視スルコトハ敢テ天主教ト異ナラス且其諸先
 師中ニテ公特ニ其教會内ナル「シ」ルグレンヨリ「セアン」セン及ヒ「キ
 ソ」トムチ尊重セリ又其七禮典ヲ受クルコトモ大抵天主教ト同一ナレ
 且其方法ニ至リテ稍ヤ同シカラサルナリ例ヘバ「バプテスマ」ヲ施スニ
 ハ受領者ヲ三次水中ニ浸入スルナリ虔信禮ハ小兒ニ至ルマテ「バプテ
 スマ」ヲ施セシ後直チニ之ヲ受ケシムルナリ且天主教及ヒ監督教會ノ

如ク監督イミテ限ヌス教師ニテモ亦之ヲ行スナリ晚餐ハ天主教ノ如ク其麵包及ヒ葡萄酒ヲ以テ基督ノ肉及ヒ血ニ化セリ主稱シ神ニ供マ又之ヲ拜スルコト善トスレドモ普通信徒及ヒ小兒ニモ之ヲ受ケテ且其麵包ハ酵ヲ入リシ物ト用テルナリ却説此麵包等ヲ拜スルコト就キテハ此教會ニ或者之ヲ全ク虚説ナリト稱スレドモ實際然ラサルナリ告解ハ信徒カ教師ニ就キ其罪ヲ耳語スルニ方テ天主教ノ如ク教師者自ニ其罪ヲ赦スルコト云々云々神ニ由テ之ヲ赦スト稱シ且種々ノ懺悔法ヲ以テ效驗アル者ト教ニ認ナリ最期ハ實ニ特異ナル方法ニシテ數人ノ聖職者相集リ大概會堂ニテ之ヲ行ヒ止テ得ルコトニテテサレハ普通信徒ノ家ニテ行ス下テ許サレルナリ赦罪券ニ就キテハ天主教ノ如ク淫ル者之ヲ販賣セサレドモ亦是ヲ以テ理由アル者ニテ之ヲ受ケルハ其生者ト死者ト關ハラス必ス效驗アル者ナリトモ抑モ此教會ニ

テ設ケタル聖職者結婚ノ規則ハ甚ク奇異ナル者ナリ即チ此教會ニテハ男女共ニ生涯結婚セザルヲ以テ有益ノ事ト定ムル故ニ其主教ハ常ニ修道者中ヨリ選任シ敢テ其結婚スルコトヲ許サス司祭ハ未ダ接手續テ受ケザル間ハ結婚スルコトヲ許セドモ既ニ接手續テ受ケシ後ニ至レハ之ヲ許サレザリ是ヲ以テ司祭ハ始メ妻帯セシ者ト雖モ其後之ヲ喪ヘハ又結婚スル能ハサルナリ且將來司祭ニ爲ラント欲スル者ハ決テ寡婦ヲ娶ルコトヲ許サス普通信徒モ四次以上ハ一般ニ結婚スルコトヲ禁スルナリ又此結婚ハ七禮典ノ中ニ加ユレドモ姦淫セシ者ニハ離婚ヲ許スナリ死後靈魂ノ形状ニ就キテハ天主教ノ如ク煉獄ニテ火ヲ以テ聖潔セラレト云ハサレドモ中間所ニテ聖潔セラレト説クナリ祈禱ハ諸聖人特ニ處女マリヤニ就キテ之ヲ行ヒ且死者ノ爲メニモ之ヲ行フナリ諸聖人ノ墳墓及ヒ遺物等ハ甚ク之ヲ貴重スルナリ此教會ハ十字

架ヲ除ク外ハ設令隱起雖モ一切雕刻物ヲ用ヰルコトヲ嚴禁スレ
 庭平面ノ者ハ之ヲ禁ヒサルカ故ニ會堂ハ更ナリ其墓所郭門官衙民舍
 及ヒ旅館等ニ至ルマテ大概十字架及ヒ諸聖人ノ畫像ヲ懸ケ之ニ燈籠
 ヲ吊シ敬禮ヲ行フナリ此教會ニテハ善行功德ヲ尊ニ特ニ斷食ヲ重ス
 ルコト天主教ニモ超越スル故ニ祭典及ヒ斷食ノ定日甚々多少毎年四旬
 齋ノ如キ長遠ナル斷食日四次アリ且水金兩曜日モ亦斷食日ト定ムル
 ナリ以テ一年中儘カノ日支ヲ除ク外大概祭典斷食ノ日ヲササルナリ又
 其禮拜式ノ壯嚴ナルコトハ敢テ天主教ニ讓ラス會堂ニテ一般ニ聖歌ヲ
 誦スル樂器ヲ用ヰサルナリ祈禱ハ唯五旬節ノ時ノニ伏跪スレバ其他
 ハ皆東向シテ立禮スルナリ此教會信徒ハ十字架ヲ切ルコト甚々多ク恰
 モ其習俗ノ如ク爲レリ修道者ハ古昔ヨリ甚々多ク今尙ホ許多ノ男女
 修道院アリ其中ニ居ル者ハ大概ニ聖マシルノ規則ヲ守ルナリ却說此

規則中ニ一ツ注意スルニキ個條アリ即チ修道者タル者ハ男女共ニ應分
 ノ力役ヲ爲シタルニカラスト抑モ此教會ハ其教ノ精力ナキ爲メ信徒
 ハ唯其拜禮式ノニ満足シ眞正ノ更生トハ「バプテスマ」ノニシテ禮
 拜式ヲ守レバ其爲スヘキ義務ヲ盡セル者ト思ヘリ且現今ニ至リテハ
 其奮起シ氣象ナク甚々頑固ナル故ニ神學ヲ進步スルコトモナク改革ヲ
 行フ機會モ至ラズルコトナリ教會ヲ除ク外ハ他入テ轉教セシムルコトモ
 アラサルナリ蓋之カ爲メ彼ノ天主教ノ如ク各教派ノ競争及ヒ十字軍
 又ハ教法詰問ノ如キ猛惡ナル教狂慘憺ナル迫害等モ亦特別ニ起ラサ
 ルナリ

第七章 輓今ノ傳道 (增加)

基督教トハ擴張スヘキ者ニシテ其信徒タル者カ之ヲ外人ニ傳道スルハ福音書中一ノ緊要ナル綱領ナリ故ニ此事ニ就キテハ既ニ舊約聖書中ニ於テモ凡ヘテノ人カ神ニ來ルヘキ勸奨及ヒ世人ハ凡ヘテ神ノ默示ヲ曉知スル下ニ預言アリ特ニ新約聖書ニ至リテハ基督ノ命令セシ偏シ世界ヲ廻リテ凡ヘテノ人ニ福音ヲ宣傳セヨトシ辭(可十六ウ十五)ニ由テ倍々明白ニ爲レリ且又人類ハ必ス救ヲ求メサルヘカヲサレ者ニシテ神モ亦凡ヘテノ人類カ救ヲ受ケ眞理ヲ曉ルニ至ラシトテ望ミ(提前三ウ四)世界ニ傳道スヘキヲ以テ教會ニ托シテシテ教會カ神ノ命令ニ從ヒ其事ニ周旋セハ必ス測知スヘカヲサレ祝ヲ受ケルヘシ然レニ教會ハ始終此命令ニ從ヒテ此祝ヲ受ケルヘキ者ニアラズ即チ歴史上ニ就キテ之ヲ徵スルニ屢々此傳道ノ精神ヲ陸沉セヨトアリ然シ

ト又或時ハ此精神非常ニ發顯セヨトナリ例ヘハ使徒時代ノ如キ此精神甚ク熾シニシテ教會ハ一般ニ傳道會社ノ如キ形狀アリ信徒居住地ノ近傍ニハ機ニ乘シ各其力ヲ及フ限リ傳道シ遠國ニハ特ニ傳道者ヲ派遣シテ之ヲ布教セシメ且心ヲ盡シ之ヲ周旋セシカ其傳道者ハ固ニ僅少ナル人数ナレド然レド其熱心ハ實ニ百般ノ障妨ヲ排斥スヘキ勇氣アリ加之其頃道ヲ開キ新ヲニ改心セシ者モ直チニ熱心ニ且周旋ヲ爲スト從來ノ信徒ニ讓ラズ此頃傳道ノ特質ハ教會一般ニ之ニ傾嚮セシト是レホリ然ルニ中古頃ニ及ヒ傳道ハ殆ソト修道者社會ノ專有物ノ如ク爲リ許多ノ有力ナル傳道者カ歐羅巴其他ノ未タ基督教ヲ知ラサル人民ノ中ニ至リ傳道ヲ爲シ教會ヲ建テシトアレド此等ハ皆教王或ヒハ修道院ノ保護ニ由リシ者ニテ敢テ教會ノ保護ヲ受ケシコアラズ教會モ亦之ヲ周旋スル精神ナカリシナリ然ルニ輓今ノ傳道特ニ

新教ノ傳道ニ至リテハ全ク從來ノ形狀ナ一變ヲ傳道ハ教會ニテ爲サ
 ルヘカヲナル一ノ義務ナルヲ曉知シ信徒一般ニ古昔使徒時代ノ
 形狀ノ如ク力ヲ及フ限リハ各自ニ之ヲ爲シ遠方ニシテ自ラ至ル能ハ
 サル所ハ特ニ傳道者ヲ派遣シ且言語風俗等ノ殊絶セル遠國ニ於テハ
 其傳道者カ自ラ生活ヲ爲ス能ハサルニ由テ間斷ナク之ヲ周旋シ懇切
 ニ待遇スルヲ恰モ其會員又ハ代理人ノ如ク思惟セリ
 傳道ノ一チ大別スルニ内國傳道外國傳道ノ二種アリ尙ホ又或ヒハニ
 ヌヤ人ノ傳道回々教ノ傳道等種々ニ細別スルヲアリ却說其内國傳道
 トハ從來其國ニ存在セル教會ニテ開拓地又ハ新市街等ノ爲メ傳道者
 ナ派遣シ會堂ヲ設立シ遂ニ其教會ヲ獨立セシムルマテ周旋スルヲニ
 テ例ヘハ合衆國又ハアウストラリア等ノ如キ國ニテハ開化地ノ人民
 ハ廣漠ノ未開地ニ傳道スル爲メ甚ク盡力スルナリ蓋此書ハ内國傳道

ニ就キテハ記載スヘキ理由ヲケレハ外國即チ偶像教國ニ傳道セシ概
 畧シテ記載スヘシ
 一 組織 此教會ノ傳道ハ其教會内ナル諸教派ノ力ニ由テ行ハレシ
 カ就中其最モ傳道ニ勢力アリシハ「メソヂニスト」派ノ者ナリ初メ此「メ
 ソヂニスト」派ノ開祖イグナチウス・ロヨラハ傳道者學校ナル者ヲ起シ
 テ其傳道スヘキ諸國ヨリ書生ヲ集メ之ヲ教授セント希望セシカ其後
 教王グレゴリ第十五カ此教派ヨリ出テ法統ヲ嗣クニ及ヒ千六百廿二
 年「プロパガンダ」會社ハ廣大美麗ナル建築ニシテ其社員ハ皆教宰ノ
 者ナリ且此會社中ニハ書記會計等種々ノ事務ヲ掌ル職員モ許多アリ
 又此會社ニ附屬スル傳道者學校ナル者ハ亦頗ル廣大ナル建築ニシテ

傳道諸國ヨリ許多ノ書生ヲ集メテ教授ヲ爲シ又其印刷所ニテハ諸國ノ國語ニテ著述セル種々ノ書類ヲ出版セリ蓋此等ハ皆羅馬府内ニ在レドモ其他天主教諸國ニモ亦此會社ノ支局許多アリ就中パリノ祭司會ト稱スル者ハ其最モ有名ナルモノナリ加之此パリニハ千六百六十二年廣大ナル傳道者學校ヲモ建設セリ蓋此等傳道ニ關スルコトハ凡ソテ羅馬會社ニテ掌管スルコトヲ却說此會社ニテ新クニ傳道地ヲ開カント欲スルモ預メ後年ノ紛議ヲ防禦スル爲メ其傳道ヲ以テ必ス或一教派ノミニ委託シ其管長ヨリ傳道者ヲ派遣セシメ敢テ他ノ教派ニ紊亂セシメサリシナリ又其傳道地爲セシ土地漸々盛大ニ爲レハ新クニ其監督ヲ置キ教主管轄地ト爲シ且或ヒハ此監督ニ教主ノ舊稱ヲ齎シ其傳道國ノ帝王等ニ使セシムルコト恰モ諸國ノ全權公使ニ似タリ天主教徒ハ新教諸國ヲ以テ異教國ト認メ之ニ派遣スル聖職者ヲ傳道者ト

稱シ又其地ヲ傳道地ト稱スルカ故ニ例ヘハインヅラント及ヒ合衆國ノ如キモ其教會ノ傳道地ト稱スルナリ最初此會社ヨリ出タル傳道者ハ大概スペインボルネガールノ者ナレドモ近年ニ至リテハ多クフランス人ナリ此會社ニテ全教會ヨリ收納スル金額ハ千八百八十五年ノ調査ニ據レハ凡ソ百五十拾萬圓ナレドモ其過半ハフランスヨリ出ルナリ且此會社ニテ收納スル金ハ其所屬地ノ租金等許多アリ

三 作動 此教會ハ改革以前ヨリ往々諸方ニ傳道セシコトアレドモ是レハ唯或者等ノ作動ニシテ教會全體ニ就キテハ決シテ其精神アラサリシカ改革後許多ノ信徒ヲ興キ三十年間ノ大戰(本卷第六章ヲ參觀スヘシ)及ヒスペインインヅラヤノ詰問ニ由テ之ヲ挽回セシト謀リタルモ其希望ヲ達スル能ハサルニ及ビ遂ニ偶像教國ニ傳道シ之ヲ以テ其損耗ヲ償ハントノ志起レリ

先是第十三世紀頃シヨノン、マモンテ、コルウノナル者ハ教王ニコラス第
 四ヨリ支那ニ傳道スニキ命令ヲ受テ千三百九十二年即チ蒙古クク
 ライ、カウソ(忽必烈汗)ノ時北京ニ至リ爾來十一年ノ間唯一人ニテ傳道
 セシガ教王クレメソジト第五ヨリ其結果ノ善ナル爲メニ大監督ニ任シ
 且七人ノ傳道者ヲ派遣シ之ヲ輔佐セシメラレタリ却說此人ハ蒙古語
 ナリ以テマヒデアノ詩及ヒ新約聖書ヲ翻譯シ又此七人ノ傳道者ト共ニ力
 マテ盡シ道ヲ傳ヘ大ニ支那人ノ優待ヲ受ケシカ千三百廿八年死セリ却
 說或者カ此時報道セシ説ニ據レハ未信徒ノ改心セシ者三萬人ナリト
 アリ蓋此等改心者ハ千三百六十九年蒙古人カ支那ヨリ驅逐セラレシ
 以來漸々消滅シ全ク磽地ニ落タル種ト爲レリ第十五世紀頃スベイン
 ノルナガル人カ大ニ航海遠征ノ業ヲ勤メ亞非利加ヲ廻リ亞細亞ニ航
 シ亞米利加ニ遠征シ且殖民等ヲ爲スニ方リ傳道者等モ亦多ク之ニ隨

キテ航海セシカ此等ノニ目的ハ遠人ニ福音ヲ傳ヘシトシヨナレ
 大概其同國人ヲ爲メ盡力セシ者ニテ殖民地近傍ノ偶像教徒ニ傳道セ
 シ者ハ實ニ僅少ナルナリ然ルニ第十五世紀ノ季頃「ニコカン」及「フ
 「ラン」ニスカン派ノ傳道者等亞非利加ノ西部ナル「コンゴ」川近傍ノ地ニ
 傳道シ且其教會ヲ建設セシカ此地ノ酋長ハ自ら改心セシ耳ナラス詰
 問ヲ設ケ多クノ土人ヲ改心セシメ故ニ第十六世紀ノ初頃天主教ノ
 者ハ此地教會ノ盛大ナルヲ及ヒ傳道者ノ多數ヲ以テ自負セリ然レモ
 其後漸々衰微シ一旦「シニユイト」派ノ力ニ由テ些ク回復ノ色アリタ
 レモ久シカラスシテ衰微シ「ボルナガ」ル人カ此地ノ貿易ヲ止メルニ及
 ヒ全ク絶滅シ人民ハ又偶像教ノ者ト爲レリ第十六世紀頃「ニコカン」
 「フランシスカン」派ノ傳道者等ハ印度ニ傳道シテ近傍ノ殖民地ニ監
 督ヲ置キテ是レハ大概其移住人ニ傳道セシ者ニテ土人ノ改心セ

シ者公至リテ樹少ナリ
 然ルニ此教會傳道ノ形狀ハ彼ノフランシス、サウエルカ出ルニ及ヒ全
 シ其面目ヲ一新セリ却説此フランシス、サウエルカ千五百〇六年ヲラ
 ノスニ生レバリニ於テ勉強シイグチシウス、ロヨラガ最初ニ同盟セシ
 六人ノ隨一ナルカ天性英敏ニシテ虛想ニ富ミ且未タ學校ニ在ル頃ヨ
 リ其病院ニ於テ怠慢ナク盡力セシ爲メ熱心ト固執トヲ知ラシメタリ此
 人ハポルチガル王カ東方ナル其所轄地ニ殖民スル爲メ傳道者ヲ求ム
 ルニ方リ其募ニ應シ且教王ヨリ大使ノ命ヲ受ケ二人ノ同行者ヲ携ヘ
 急ニ印度ニ向キテ發シ千五百四十二年ゴアニ着スルニ及ヒ最初ニ移
 住人ノ爲メ盡力セシカ其後漸々土人ヲ教化シ遂ニ與印度及ヒ錫蘭等
 諸島ニ至リ許多ノ土人ヲ改心セシメ且ポルチガル人ノ生命ヲ更メシ
 タ凡ソ七年許リ熱心ニ働キシカハ其固執及ヒ成果ヲ爲メ遂ニ印度ノ

使徒ト喚ボシクテ或歴史ニ據レハ此人ヲ嘗テ與印度ニ於テ僅カ一月
 間ニ於テ萬人ノ改心者ニ「バプテスマ」ヲ施セシトアリ蓋此人ノ建タル
 教會ハ實ニ危險ナル者ニテ其間或ヒハ真正ナル信徒モナキニアラサ
 レモ大概ハ唯其名稱ノミニ過キサルナリ却説此人ハ其頃アソシエ
 云ヘル日本ノ薩摩ノ人カ罪ヲ犯シ刑ヲ脱シテ爲メポルチガルノ商船
 ニ乗シゴアニ來ルニ逢ヒ之ニ「バプテスマ」ヲ施シ其名ヲバウロト授ケ
 シカ此バウロト談話スルニ及ヒ日本ニ傳道セントノ志熾ニ起リ遂
 ニ千五百四十九年八月ニ同行者二人及ヒ此バウロトヲ携ヘ始メテ鹿兒
 島ニ來リ此土ニ於テ凡ソ一年許リ日本語ヲ學ビ又バウロトノ通辨ニ據
 リテ講義ヲ爲セシカ或些少ナル障妨ヲ受ケシ爲メ去リテ平戸ニ至リ
 居ルヲ數日ニシテ又山日ニ至リ其後暫シアリテ遂ニ京師ニ上レリ蓋
 是レハ政府ニ請ヒ國內ニ基督教ヲ弘布スル免許ヲ受ケシ爲メナリシ

ト雖モ此頃京師ハ兵馬騷擾ノ際ニシテ軍人朝ニ充テ且其志願ヲ達ス
 ベキ勢アラサレハ憤然トシテ京師ヲ去リ又山口ニ歸前時計及ビ樂器
 ナ其侯伯ニ贈リ其侯伯ヨリ周防國吉敷郡山口縣大道寺事從西域來朝
 之僧爲佛法紹隆可建創彼寺家之由任請望之旨所令裁許之狀如件天文
 廿二年八月廿八日大内介トノ免許狀ヲ受テシテ數月ノ間此地ニ留
 リ同行者ト共ニ種々ノ障妨ヲ忍ビ能ク道ヲ傳ヘタレト遂ニ印度ニ歸
 ラント欲シ豐後ニ至リテ其便船ヲ待ナシカ此頃府内ニ於テモ亦例ノ
 如ク道ヲ傳ヘタリ抑モ此人ハ凡ソ二年許リ日本ニ滯留シ鹿兒島平戶
 山口府内ニ於テ數百人ノ改心者ニ「ハアテスマ」ヲ施シタレト遂ニ此國
 ナ去リシ所以ハ必ス其希望セシ如キ結果ヲ得サリシ爲ナラシ却説此
 人ハ印度ニ歸國セシ後稍ヤ暫シテ又支那ニ傳道セントテ印度ヲ發セ
 シカ支那近傍ニ至リテ死セリ時ニ千五百五十二年ヲ抑モ此人ノ作

働ニ直接ノ好結果ヲ得シハ實ニ僅少ナレト教會全體ノ者カ之カ爲
 亞細亞ノ廣漠ナル傳道地ニ注意スルノ念ヲ喚起シタルハ實ニ偉大
 ナル功績ト云フヘシ且此人ノ鼓舞ニ由テ諸々ノ偶像教國ニ傳道セシ
 許多ノ聖職者ハ大概其土人ノ優待ヲ受テ道ヲ傳ユルノ機會ヲ得タリ
 却説支那傳道ノ「ニ就キ或著述家ノ説ニハ天主教徒ハ支那帝ノ免許
 ナ得テ凡ソ六十年ノ間其國ニ傳道シタレト遂ニ此道ヲ以テ其國內ニ
 普及セシメ能ハカリシハ實ニ怪訝スヘキナリト云ヒシカ是レハ唯
 支那帝國ノ「ニナラス其他諸國ニ於テモ大概聖職者ヲ以テ二心アリ者
 ノ如ク猜疑スルニ由テナリ且此等聖職者ハ諸派互ニ相争フ爲メ基督
 教ノ價格ヲ減スルヲアリ又其傳道地ノ風俗ニ適セシムル爲メ自ラ其
 教法ヲ枉シルニ因テ却テ其勢力ヲ喪フヲアリ例ヘハ北京ニ於テ「
 シニイト」派ノ者等ハ改心者ニ其祖先及ビ孔子「
 以テ神ト共ニ

拜禮シ又其祖先ノ爲メ位牌ヲ建テ許シ印度ニテ或ニ終ニ在リ
 派シ者ハ波羅門教ヲ基督教ニ修正セシト欲シ嘗テ一書著述シ其書
 中ニ耶穌基督ハ波羅門人ナリト記載シ且其著述家モ自ラ我ハ波羅門
 人ニシテ波羅門教ヲ改革スル爲メ此國ニ派遣セラレシ者ナリト云ヒ
 甚ク教會ニ傷害ヲ與ヘタリ因テ教王ハ布告ヲ以テ此等ノ作動ヲ爲ス
 ヲテ擯斥シタレドモ其害ハ既ニ行ハレ且當今ニ至リテモ尙ホ之レニ類
 似スル作動アリ抑モ此教會ハ許多ノ聖職者ヲ偶像教諸國ニ派遣シ廣
 ク世界ニ傳道セシ故ニ未信徒ノ改心スル者許多アリ其教會學校修道
 院モ渺カラサレドモ委シク統計ヲ知ス能ハサルナリ蓋或歴史ニ據レハ
 ボルナガルノ所轄ナル與印度ニ於テハ第十六世紀ノ中葉改心者ノ數
 三十萬人アリ日本ニ於テハ教會ノ最モ盛大ナル頃即チ信長秀吉ノ迫
 害起ル頃六十萬人ノ信徒アリ支那ニ於テハ第十七世紀ノ初頃三十萬

ノ信徒アリト記載セリ蓋其結果ノ最モ較著ナルトハ亞米利加ニシテ
 此地ハメキシコ及ヒ南亞米利加諸國ノ土人及ヒ亞非利加ニシテ此地ニ
 移住セル黒奴ノ中ニハ僅ク偶像教ヲ奉シ又ハ天主教ヨリ偶像教ニ復
 歸セシ者等ナキニアラサレドモ大概天主教ト稱セサルヘカラサル者ナ
 リ且西印度諸島ニ移住セル亞非利加ノ黒奴中ニテ「バアテスマ」ヲ受ケ
 シ者甚ク夥シク又亞細亞ノ南ナルフィリピン諸島及ヒスベインボル
 ナガルノ屬地中ニ居住スル土人モ多ク改心セシ者アリ然レドモ此等ハ
 大概僅クノ教ヲ聞キ「バアテスマ」ヲ受ケシ者ナレハ多クハ道ノ何物ヲ
 ルヲ知ラサルガ是レハ蓋天主教ニテ無學ハ信仰ノ母ト云ヘル辭ニ從
 ヒ傳道ヲ爲セシ故ナリ却說或歴史家ハ此教會ノ傳道ニ就キ委シク統
 計ヲ知ル能ハサルヲ憾ニ此教會ノ傳道ニ就キテハ或ヒハ故意ニ之ヲ
 記載セサルコアリ或ヒハ其成效ヲ誇大ニスルコアリ或ヒハ其未熟ヲ

隠蔽スルコトアリテ實ニ不完全ナル者ナレトモ我儕カ知見スル所ニ據レ
 其結果ハ實ニ僅少ナル者ナリ且其結果ハ作動ノ大ナルニ適ハス徒
 來ノ改心者ヲ除キ第十九世紀ノ改心者耳其計算スレハ甚ク僅クナリ
 者ナリト云ヒシカ實ニ第十七八世紀頃ニハ著シキ結果アリタレトモ今
 世紀ニ至リテハ格別進歩アラサルナリ

第三節「ギリシヤ」教會
 ギリシヤ及ヒトルキ内ニ居住スル此教會ノ者ハ數世紀以前ヨリ既
 ニ傳道ノ精神ヲ喪キ未ク之ヲ回復スル能ハサル耳ナラス其國內ニ於
 テモ異教徒ノ傳道ニ奮勵スル能ハサルナリ蓋是レハ其國人ハ大概回
 々教徒ニシテ「ギリシヤ」教會及ヒ「ロマ」教會ノ者ヲ觀シテ皆之ヲ偶像教
 徒ト稱シ且之ヲ輕蔑スレハナリ「ロシア」教會モ亦其勢力微弱ニシテ
 古昔ヨリ異教徒國ニ傳道セシコト至リテ罕ナリ「ロシア」政府ハ其國人ヲ

其國教ニ入レシト希ヒ他教派ノ者ヲ落膽セシメ又官吏ヲシテ種々其
 事ヲ説諭セシムルナリ且此國ヨリ「サイピリア」地方ノ偶像教徒ヲ改心
 セシメシトテ傳道者ヲ派遣セシコトアリシカ是レハ真正ナル傳道ノ如
 シ或ヒハ學校ヲ設ケ或ヒハ福音ヲ傳ユルコトアレドモ又或ヒハ尙其國教
 ニ入ラハ政府ヨリ多少ノ保護ヲ爲スヘシト云フテ勸奨セシコトアリ蓋
 此傳道ハ實ニ微々タル者ニテ其經費モ一年貳萬圓許リニ過キサルナ
 リ此國ヨリ他國ニ傳道スルコトハ唯日本一國ノミナレトモ此傳道ノ形况
 ハ能ク衆人ノ知ル所ナレハ茲ニ記載スル理由アラサルナリ抑モ此教
 會ノ傳道モ「ロマ」教會ノ如ク其統計ヲ詳知スル能ハサルハ其結果ハ奈
 何ナリヤ其傳道ハ教會ヨリ爲スヤ將ク其國教ヨリ爲スヤ尙國教ヨリ
 傳道スルナラハ政府ニ屬スルコトハ幾分ナリヤ之ヲ窺知スルニ便ナキ
 ナリ

第三節 新教

改革家ハ教會ニ萬國人民ヲ傳道スルニ義務アルヲ知ラザリシヲ一
 較著ナル事實ニシテ實ニ此等ノ者ハ當時其建タル教會内ニ於テハ勢
 カアル傳道者ナレバ偶像教徒ノ中ニ傳道スルコトハ毫モ注意セザリシ
 カ如シ蓋其注意セザリシ理由ハ一ハルイテカ世末ニ就キテノ異說
 即チ世末ノ審判ハ將ニ來ラントスレハトルキ人ニハ神カ教主及ヒ其
 他ノ偽信徒等ニ生活ヲ爲スヲ許ス如シ其隨意ニ任カセテ生活セシム
 ヘシトノ說ヲ爲メ一ハ新教諸教會ハ舊教及ヒ其他諸教派ト生存競争
 ナ爲ス爲メ遠國ノ者ヲ顧慮傳道ヲ爲ス暇アラザリシ爲メナリ其他此
 頃ノ航海ハ凡ヘテポルチガルヌセイソ兩國ニテ專有セシ故ニ天主教
 徒ハ之カ爲メ右ニ記載セシ如シ傳道ノ精神ヲ惹起スルコトヲ得タリ
 新教徒ハ更ニ偶像教國ニ接スル機會ヲ得サレハ之カ爲メ甚ク其期ヲ

後レシナリ蓋是レハ實ニ新教徒ニテ耻ヘキコトナリ
 一 來歴 但新教徒モ第十六世紀頃ヨリ既ニ傳道ヲ爲セシ者アリ即
 チ彼ノスウイデン王ウツサハ嘗テ傳道者ヲ其國ノ北部ナルラップト云ヘ
 ル偶像教徒ノ中ニ派遣セシヨアリ(千五百五十九年)蓋此傳道ハ甚ク微
 々タル者ニテ且久シク好結果ヲ得サリシナリセルマニノビーテルハ
 イリソグナル者ハ嘗テ其他六人ノ者ト契約セル誓ヲ踐ム爲メ千六百
 三十二年ヨリアビシニアニ至リ數年間其地ニ傳道シ且其居留セル土
 地ノ方言ヲ以テ新約聖書ヲ翻譯シタリセルマニノエルノスト、ウツ、ウ
 エルスナル者ハ第十七世紀ノ季頃久シク國內ノ諸島ヲ奔走シ傳道ノ
 コトヲ鼓舞シ又遂ニ南亞米利加ノ北部ニ航シ暫ク其地ニ傳道シ且此等
 ノ爲メ許多ノ財産ヲ費セシカ遂ニ其傳道地ニテ死セリ蓋是レハセル
 マニ南亞米利加共ニ好結果アラザリシナリ又新教徒ニテ始メテ教會

傳道スヘキ義務アルコト主張セシ者ハ彼ソセルマニナル敬虔家ノ
 開祖ニベテリナリ此人ハ第十七世紀頃頗ル勢力アル説キ以テ傳道ノ
 コトヲ獎勵セリ且彼ノ大ライブニツク傳道ノコトニ注意シ支那ヲ以テ適
 當ノ傳道地ナリト稱シ嘗テベルリンナル理科學校ノ規則書ヲ編纂ス
 ルニ方リ其事ヲ記入セリ(千七百〇〇年)蓋教會全體ノ者ハ其後久シク
 ノ間偶像教徒ニ傳道スルコトヲ以テ妄想ナル較計ト思惟セリ
 新教徒ハ第十七世紀頃航海業ノスベインボルチガルヨリホルランド
 及ヒイソングラシドデンマルクニ移ルニ及ヒ始メテ偶像教ノ者ニ接ス
 ル機會ヲ得是レヨリ其傳道ノ精神漸々起レリ却説ホルランド人ハ其
 頃俄カニ東洋諸方ニ散在スルボルチガルノ屬島ヲ凡ヘテ掠奪セシカ
 千六百〇二年其國會ノ免許ヲ得テ建設セル東印度公司ハ偶像教徒ニ
 傳道スルコトヲ以テ其目的ノ一ト爲シ其後許多ノ傳道者ハ急ニ東洋ニ

航セリ蓋此等ノ者ノ作動及ヒ結果ニ就キテ今日ヨリ詳細ニ測知ス
 ル能ハサレド福音主義ニ契合セサル傳道モ尠カラサルコトハ甚ク明晰
 ナリ例ヘハ錫蘭ニテハ其大守カ未信徒ハ其國民タル權利ヲ得ルヘカ
 ラス及ヒ官吏ヲラント希望スル者ハ設令微賤ノ職ト雖モ必スヘルウ
 ンノ信仰個條ニ署名セサルヘカラストノ規則ヲ定メ數千萬ノ土人
 等カ之カ爲メ「バアテスマ」ヲ受領センコトヲ願ヒシニ教會ハ此者等カ僅
 ニ十戒及ヒ主ノ祈禱ノミヲ暗誦スレハ之ヲ授ケルコトヲ拒マカリシナ
 リ因テ第十七世紀ノ季頃ニハ既ニ三四十萬ノ改心者アリ且瓜哇ニ於
 テモ亦同一手段ヲ以テ傳道セシ故ニ其頃大概十萬人許リノ改心者ア
 リ蓋傳道ノ形狀斯クノ如クナレハ或ヒハ熱心ナル傳道者アリテ福音
 ヲ傳ヘシコトナキニアラザレド其教會ハ大概有名無實ノ者ナリ却説ホ
 ルランドハ其頃又ブラジル及ヒ西印度諸島ニモ傳道地ヲ設ケシカ是

レハ其後千六百六十七年イソグラントノ戦争ニ於テホルランドカ
 失敗ヲ爲スニ及ヒ全ク消滅シ且錫蘭瓜哇ノ兩島モ其政府ヨリノ保護
 廢止スルニ及ヒ信徒漸々退會シ遂ニ全教會消滅スルニ至レリ
 新教徒カ福音主義ノ傳道ヲ爲セシハ合衆國ナル原ト殖民地近傍ノ土
 人ニ傳道セシカ嚆矢トス此時イソグラント王チャレンス第一カ或殖民
 會社ノ免許狀ニ土人ヲシテ異神及ヒ救世主ヲ知り且之ニ服従スヘシ
 教導セシトテ希望スルト記載セシカ是レハ實ニ奇異ナル事實ナリ却
 說其移住人等カ一般ニ土人ノ救ヲ得ルコトニ盡力セシカ甚ク冷淡ナル
 者ナレトモ或牧師等ハ其方言ヲ學ヒ稍ヤ盡力セシ故土人等モ漸々改心
 シ現今處々ノ教會ニ殘留セル古記録中ニハ多ク土人ノ姓名ヲ記載セ
 リ特ニ彼ノ有名ナルヲヨソニエリオトナル者ハ嘗テ或大種族ノ方言ヲ
 以テ聖書ノ全部ヲ翻譯シ又數年間諸方ニ傳道セシニ他ノ傳道者モ亦

之ニ倣ヒ傳道スル者數人アリ却說此等聖職者カ實ニ福音主義ヲ從
 道ヲ傳ヘ學校ヲ設ケ又牧師ト爲ス爲メ其土人ニ教育セシニ其結果
 唯其土人中ニ善美ナリシ耳ナラスイソグラント教會ニ波及シ其教會
 ノ者ハ之カ爲メ此土人ニ道ヲ傳ヘキ義務アルヲ悟リ千七百〇三
 年福音傳播會社ナル者ヲ建設セリ蓋此會社カ其後百年許リ其國
 々特別ナル作動ヲ示サリシナリ
 傳道者カ外國ニ盡力シ其結果ニ能ク今日マテ連續スル者ハ
 列王コロンデル之第四カ傳道者チ南印度ニ派遣セシ(千七百〇五年)カ
 嚆矢トス然ルニ此傳道者ハセルマニナル敬虔家者ニテツイゲシ
 ルク及ヒアルツチヤウト云ヘル三人ノ者ナリシカ其後數年ニシテ
 ンマ然王カ此保護ヲ全ク廢止スルニ及ヒセシカハ其敬虔
 家ノ者之ヲ承ケ漸々相踵ギテ多クノ傳道者ヲ派遣シテ此ノイソ

ルンク及ヒシウアルツト云々ニ入シ者甚多有名ナル傳道者トナ
 シリ却説此シウアルツトハ外國人並ニ土人等ヲ爲メ甚ク景慕セラレ特
 ニ其居留地ノ近傍ナル或ラチヤ(酋長)ハ其子ヲ以テ此人ニ處ニ送り其
 教育ヲ受ケシメ此人カ死スルニ及ビ爲メ其墳墓ヲ建設セリ抑モ此
 傳道ハ漸々進歩シ改心セシ者凡ソ四萬人許リアリ第十七世紀頃セル
 マニニ合理論ヲ猖獗シタレハ敢テ滅亡スルナリ其後他ノ傳道者ノ
 カニ由テ今日ニテ連續セリ
 微々タル教會ニテ較著ナル傳道ヲ爲セシハ「モロウアシ」派ノ傳道ヲ以
 テ嚆矢トシ却説此派ノ開祖ツオンツヘンドルフハ固ヨリ外國ニ傳道
 スル志アリシカ千七百卅一年彼ノツイゲンバルクニ遇ヒ其說話ヲ聞
 シニ及ヒ大ニ感激シタルヲツトニ歸リシ後急ニ其教派ノ者ニ商議
 セシニ自ラ西印度及ヒシウアルツト島ニ傳道セシト決心セシ者數人

アリ抑モ此教派ノ者ハ此時ヨリ外國傳道ヲ以テ其根本ナル一ノ主義
 ト爲シ信徒各自ニ其金ヲ擲テ又平均信徒五十人ニ就キ一人ノ者カ外
 國ニ傳道セシコアリ且此傳道者カ外國ニ至ル時ハ常ニ處々ノ移住人
 ト共ニ航海セシカ此等ハ多ク職工等ノ者ナレハ其職業ヲ以テ傳道者
 及ヒ教諭等ヲ補助セシ故ニ傳道者カ教會ヨリ受ケル經費ハ實ニ僅少
 ナリシナリ却説此等傳道者ハ多ク無學ノ者ナレハ熱心ニシテ能ク傳
 道セシ故其結果甚ク善美ナリシカ此教派ノ者カ熱心ニ作動スルトモ
 亦實ニ他ノ教會ニテ模範トスヘキナリ
 今世紀ノ初頃ヨリイソングランド及ヒ合衆國ノ教會ニ其信仰ヲ復興ス
 隨キテ其傳道ノ精神ヲモ亦漸ク發起セシメシカ現今ニ至リテハ教會
 一般ニ其影響ヲ及ホセリ且神ノ偶像教諸國ノ開鎖ヲ開キ其預定セシ
 如ク福音ノ光ヲ射入セシカ是レ亦隨キテ當今傳道ノ端緒ト爲レリ

似テ抑モ新教諸國ノ者ハ航海業務ノ貿易ノ騰貴古昔未ダ發見セザ
 ヲシ國々ニテ渡航シ又封鎖主義ニ諸國ヲ開導シ他ノ國々ニ交通セシ
 ヲシカ之ガ爲メ諸國偶像教者ニ教會ノ前ニ嚮導セラズル且傳道
 者ハ其後公使等ノ往來セシ地方ハ更ニ旅客商賈等ニ未ダ至ラザル
 村落及ビ僻遠未開ノ地方マテ跋渉シ又ハ他ノ商賈等ニ先ダツテ未開
 野蠻ノ國々至リテモ歩カラサレテ教會ニ般ニ傳道ノ緊要ナルトナ
 悟リイソグランドニ傳道教會ヲ始メテ此精神ヲ起セシ以來急ニ合衆國
 傳道者其後歐羅巴大陸ニ波及シ今日至リテハ傳道會社ノ數ハ數十
 個所ニ及ビ數千人ノ傳道者ハ殆ソク世界中ニ航海シテ其地ニ傳道
 二 組織及ビ結果 イソグランドニ傳道者ハ「バプテスマ」派ノ者ハ「モザウ」
 ノ派ノ者ニ亞キ始メテ傳道ノ爲メ結合夫爲メ其後教師ウイリアム・
 「ウイリアム」周旋ニ由テ傳道會社ナル者ヲ建設セリ(千七百九十三年)却說此

ウイリアム・ケリーナル者ハ原ト革履製造者ナレトモ始メ屢々講義ヲ爲
 セシカ其後遂ニ教師ト爲リ甚ク傳道ニ熱心シ此會社ヲ建設セシ後自
 ラ其會社ノ保護ニ由リテ印度ニ航海シ其後相嗣キテ此地ニ渡航セル
 他ノ傳道者等ト共ニカールニ至リシカ東印度公司ノ者ハ甚ク傳道
 者ヲ厭ヒ其地ニ居留スルコトヲ許サ、リシカハ又其地ヨリ僅カ距リ
 ルセラムポルト云ヘル當時デナムル所屬ノ地ニ至リ北印度ノ傳道
 者始メ其土地ノ方言ヲ以テ聖書ヲ翻譯シ種々ノ書籍ヲ出版シ學校ヲ
 開キ傳道ヲ務メ好結果ヲ得ント起圖セリ此人ハ其他隨行ノ或傳道者
 等ト共ニ甚ク有名ナル者ト爲レリ却說此「バプテスマ」派ノ傳道會社建
 設ノ後二年ニシテ「ロンドン」傳道會社ナル者ノ建設アリ是レハ數教派
 共同シテ建設セシ者ニテ其本局ヲ「ロンドン」ニ置キシ故斯クノ如ク稱
 號ヲ唱ヘリ却說此會社カ初メニ傳道セシハ南洋諸島ナリ又彼「アン」

クリカシ教會ノ者ハ千七百九十九年其傳道會社ヲ建設セシカ茲ニ一
 奇事アリ此教會ノ者ハ之ヲ建設シタレト其後久シク教會ニテ自ラ傳
 道セント欲スル者ヲ得サルニ由テセルマニ人ヲ備フテ之ヲ爲サシメ
 タリ却說此會社カ始メニ傳道セシハ亞非利加ナリ合衆國ニテハ千八
 百十年外國傳道會社ナル者ヲ建設セシカ是レハ「ロンドン」傳道會社ト
 同シク數教派共同シテ建設セシ者ニテ其始メニ傳道セシハ印度ナリ
 却說「イングリランド」及ヒ合衆國ナル諸教派ノ者等ハ始メ斯クノ如ク共
 同連合シテ「ロンドン」傳道會社及ヒ外國傳道會社ヲ建設シタレト其後
 各教派ノ資力増加スルモ及ヒ各々獨立ノ會社ヲ建設セシカ「ロンドン」
 傳道會社及ヒ外國傳道會社ハ皆組合教會ノ者ト爲レリ抑モ歐羅巴大
 陸ニテハ一時合理論ノ流行セシ爲メ至少傳道ノ精神ヲ喪非唯「モソウ」
 「アン」派ノ者ノミハ特別之ニ勳カサレサルカ故ニ繼續シテ傳道シタレ

其他「アン」派及ヒセルマニナルハ「レ」者等ハ全ク之ヲ廢止セシ
 カ凡ソ五十年許リ以前ヨリ又々復興シヌウイッラ「ロンドン」ナル「バル」ノ
 者ハ純正ナル教義及ヒ敬虔ヲ發達セシムル爲メ千七百八十年一ノ會
 社ヲ建設シタリ是レハ「歐羅巴」大陸ニテ傳道會社ノ起レル權與ナリ且
 此者等ハ始メテ傳道ニ若目シ千八百十五年傳道者學校ヲ建設シ其後
 七年ニシテ外國ニ傳道者ヲ派遣シ又教會ニテ之ヲ保護スル「」ニ決定
 セリ爾來諸國ニテモ又許多ノ傳道會社ヲ建設シ且信徒モ漸々之ニ注
 意スルニ至レリ却說現今傳道會社ノ總計ハ「大ブリテン」ニ凡ソ二十個
 處「歐羅巴」大陸ニ凡ソ廿五個處「亞米利加」ニ於テ廿五個處アリ且其會
 社ニ募集スル金額ハ千八百八十五年ノ調査ニ據ルニ總計七百五十拾萬
 圓ナリ

此等諸會社ノ作動及ヒ其結果ニ就キテハ詳細ニ記載スル能ハカレト

現今或著述家ノ説ニ此傳道ノ爲メ未ク「バプテスマ」ヲ受ケサル數萬億ノ者カ福音ノ好影響ヲ受ケ且其從來因習セル猛惡ナル風習ヲ脱シ執迷心ヲ去リ學問ヲ修メ新シキ道德ニ依リ廣シ文明ノ基礎ヲ建テシ等其結果ノ宏大ナルヲ決シテ文字ヲ以テ形容スル能ハサルナリ但文字上ニ顯ハレシ者ノミヲ述ブレハ此傳道ノ爲メ既ニ永眠セシ者ヲ除キ唯千八百八十五年ノ教會記録ニ存在スル改心者耳凡ソ六十三萬人アリ尙其家族及ヒ教會ニ關係スル者マテ合計スレハ二百三十萬人許リニ及フヘシ蓋此「バプテスマ」ヲ受ケ教會ニ入リシ者ノ中ニハ多ク有名無實ノ者アリ真正ナル信徒ト云フヘカラス且設令真正ノ信徒ト雖モ信仰冷淡ニシテ教會モ幼稚ナル者ナリ然レモ或傳道ノ報告ヲ觀レハ千億萬ノ人類カ誠實ナル改心ヲ爲シ小兒ノ如キ信仰ヲ保テ熱心ナル祈禱ヲ捧ケ神言ヲ愛シ喜ヒテ其身ヲ奉供スル等何ソ夫ソ福音ニ從フ

「イ」ノ較著ナルヤ又其傳道ノ廣シ及ヒシヲニ就キテハ例ヘハ我儕世界チ一週スルニ到處皆基督信徒ノ居ラサル地ナシ即チ彼ノ「モンウイアン」派ノ者カ傳道セシグリンランド島ヲ發シ南北亞米利加及ヒ西印度諸島ニ至レハ其土人及ヒ亞非利加ヨリ來レル從前ノ土人中ニ偶像教ノ習慣ヲ脱シ基督教ノ中ニ加算セラルヘキ者殆ソ六十萬人アリ又「ソ、フランシスコ」ヲ發シ太平洋ヲ航シ布哇ニ至リ「アウスタレリア」及ヒ「ニウ、ヨールランド」南洋諸島ヲ通過スレハ亦同シキ基督教ノ中ニ加算セラルヘキ者凡ソ三十萬人アリ亞細亞ニ於テハ日本支那印度並ニ印度群島ペルシア小亞細亞等ノ中ニ凡ソ八十萬人アリ「マダガスカ」島及ヒ亞非利加大陸ノ南部ナル「カプフェル」等並ニ「コンゴ」川近傍ノ地ニ凡ソ六十萬人アリ何ソ夫レ斯ク盛大ナルヤ蓋是レハ福音ノ種ヲ播キシ地ニシテ又實ニ全教會カ基督ノ命令セシ世界萬國ノ人民ニ道

ヲ傳ヘユトノ語ヲ聞キシ証據ナリト云ヘリ却説右ニ記載セシ外尙ホ
 茲ニ記載セサルヘカラザル一事アリ即チ當今傳道者等ハ世界ニテ大
 國ト稱スヘキ偶像教國ノ言辭ニテハ皆既ニ聖書ノ全部ヲ翻譯セシカ
 其他諸方ノ偶像教國ノ言辭ヲ以テ聖書ノ全部或ヒハ或部分ヲ翻譯セ
 シ者凡ソ二百五十種アリ蓋此卷尾ニ掲載スル千八百八十五年調製ノ
 傳道ノ統計表及ヒ世界諸教法比較一覽表ヲ諦觀スシハ既ニ傳道ノ爲
 メ顯ハシタル結果及ヒ尙ホ未タ及ハサル處ノ形状一瞥シテ瞭然ナル
 ヘシ願クハ日本基督信徒タル者此偉大ナル作動ニ向キ急ニ其大部ヲ
 占有スルニ至ラントナシ

教會歴史

大尾

...

表覽一遺傳國外教トノタステロア年五十八百八千

傳道費	同生徒	學校	信徒ノ家屬及ヒ賛成者	本年中受洗者	信徒	内國傳道者	外國傳道者	傳道者派遣所	傳道會社	傳道會社本國
四百二十万九千七百二十七圓	四十五万五千	七千六百九十六	百四十万六千九百	三万〇七百	三万七千	五千六百六十二	二千二百六十九	千九百九十八	二十一	大ブリテン
百〇二万四千二百二十七圓	八万八千五百六十	二千三百四十四	三十二万二千六百二十	一万七千六百七十	三十三万三千	三千六百〇四	六百九十七	四百五十二	二十五	歐羅巴諸國
二百三十七万四千四百六十二圓	十二万〇四百	三千七百六十六	五十八万〇六百三十	一万九百二十	十三万四千四百六十	四千二百二十五	七百四十六	五百五十五	二十五	合衆國
七百六十万五千三百十六圓	六十六万三千九百六十	一万三千八百〇六	二百三十一万〇百五十	六万〇二百九十	六十三万二千五百六十	二万五千三百九十一	二千七百十二	二千二百〇五	七十一	總計

表較比法教諸界世

プロテスタント教	一億九千万人	モハメット教	一億七千万人
ユダヤ教	八百万人	偶像教	八億五千六百万人
キリシヤ教	七千八百万人	諸小派	七百万人
諸小派	七百万人	右キリストヲ信スル者合計	三億九千一百万人
右キリストヲ信セサル者合計	十億三千四百万人	右キリストヲ信スル者合計	三億九千一百万人

全世界現今ノ人員凡ソ十四億二千五百万人ニシテ其教法ニ由テ區別スレハ即チ如次
 プロテスタント教 一億九千万人
 ヌダヤ教 八百万人
 キリシヤ教 七千八百万人
 モハメット教 一億七千万人
 諸小派 七百万人
 偶像教 八億五千六百万人
 右キリストヲ信スル者合計 三億九千一百万人
 右キリストヲ信セサル者合計 十億三千四百万人

プロテスタント教	一億九千万人
ユダヤ教	八百万人
キリシヤ教	七千八百万人
諸小派	七百万人

ユダヤ教
 教ドメムハモ

偶像教諸派

名目

インゴルスタト	IngoStadt.	インゴルタム	Hamilton,
インスブルク	Innsbruck.	イン	Halle.
ロレンツ	Lorenzo.	インヂナル	Heidegger.
ロンドン	London.	カルトリ	Harley.
ロレン	Loeka.	インリミン	Helling.
ロコラ	Loyola.	カル	Basle.
ロインリン	Rancklin.	カーテン	Baden.
ロツチルグ	Rotterdam.	カチヤム	Batavia.
ロツル	Rochelle.	カメシロン	Bancroft.
ロツル	Rohort.	カルロカナル	Barclay.
ハールム	Harlem.	カメス	Barneveld.
ハイデルベルグ	Heidelberg.	カー	Barnes.
		カール	Baselme.
			Baur.

名目

名目

バールロフ	Bartholomew.	ホトケノトキ	Hottentot.
バルト	Barth.	ホーネ	Hessuel.
バナムロン	Pamplona.	ボロンブロン	Bolingbroke.
バスクル	Pascal.	ボロミン	Hollonik.
バシム	Padua.	ボナチ	Bonnier.
バシム	Pasau.	ボナルプ	Begermann.
バシム	Parma.	ボナチ	Postal.
バシム	Palatine.	ボナチ	Port. Royal.
バシム	Patison.	ボナチ	Poland.
バシム	Neander.	ボナチ	Malyvic.
バシム	New Zealand.	ボナチ	Helmstedt.
バシム	Horace.	ボナチ	Herfort.
バシム	Hobbes.	ボナチ	Haller.
バシム		ボナチ	Hegel.

バシム	Hengstenberg.	ボナチ	George.
バシム	Herrnhut.	ボナチ	Ridley.
バシム	Britain.	ボナチ	Lucerne.
バシム	Berne.	ボナチ	Wolf.
バシム	Berlin.	ボナチ	Willhaus.
バシム	Berkelay.	ボナチ	Wallenstein.
バシム	Bengel.	ボナチ	Wartberg.
バシム	Bekker.	ボナチ	Wesel.
バシム	Perth.	ボナチ	
バシム	Penn.	ボナチ	
バシム	Tommasius.	ボナチ	
バシム	Toluck.	ボナチ	
バシム	Dollinger.	ボナチ	
バシム	Dorner.	ボナチ	

名目

名目

カルスタット	Cartstadt.	カキギト	Joachim.
カタリン	Catherine.	ヨナス	Johns.
カミサルド	Camisarl.		
カランメル	Cramer.	カカノメ	Fauler.
カミロン	Cameron.	カントク	Dante.
カリキストス	Calixtus.	カキメト	Descartes.
カイゼルベルグ	Kaiserberg.	カキカレン	Darwin.
カッセル	Kassl.		
カルンツタ	Calcutta.	カシカキ	Laelius.
ガリンツ	Gallie.	カキコ	Leslie.
ガインル	Geiler.	カキオク	Lessing.
ガンスヴァルト	Gansvort.	カキヨシキ	Kishleieu.
ガール	Gall.	カキム	Penn.
ガルヂキル	Gardiner.	カキキム	Sorbonne.

名目

ソキウス	Socius.	ナキキム	Napoleon.
ゾワレ	Zwolle.	ナキコム	Nikon.
		ナキキ	Knox.
ツブング	Tubingen.		
ツレヒン	Turrelin.	カカレン	Laurens Coster.
ツウィカウ	Zwickau.	カキキム	Leyden.
ツインツェルン	Zinzendorf.	カキキメ	Latiner.
ツィゲンブルグ	Ziegenburg.	カカキ	Laud.
		カキキキ	Laplace.
ネッレラント	Nettelands.	カキキム	Laynez.
ニヌス	Nisnes.	カキキム	Leipzig.
ナヤロ	Naylor.	カキキム	Leibnitz.
		カキキ	Lapp.
ナント	Nantes.	カキキム	Languedoc.
ナヴァレ	Navarre.	カキコ	Rakow.

名目

ムーネ	Moor.	ムロリキ	Vence.
ムンツホル	Munzer.	ムロムボクムカク	Wenceslaus.
ムンスタール	Munster.	ムロパル	Wessel.
ムリン	Münich.	ムカクムカ	Worms.
ムルメク	Ursula.	ムイテムンケルン	Wittenberg.
ムンケム	Ursula.	ムイトリマ	William.
ムルカイヤム	Ursinus.	ムインチホムカク	Winchester.
ムン、ミルラシ	Von Militz.	ムインケル	Wishart.
ムン、オムタル	Van Oosterzee.	ムイホーカリ	Wisdley.
ムルミロー	Vernigli.	ムホカリ	Wesley.
ムイン	Vinet.	ムホドムンホリム	Westphalia.
ムカルチール	Voltaire.	ムホム	Woyon.
ムンボム	Vincent.	ムカク	Ocean.
ムツカク	Vatican.		

水

オレウマク	Olevianus.	グカトール	Guise.
オギー	Ochino.	グロムカク	Grotius.
オリウヤ	Oliver.	グカク、グカク、グカク	Guido de Bres.
オシアンカ	Osiander.	グロム	Greene.
クンス、ロシタ	Kanz Cotta.	グロムカク	Greenland.
クンラム、カク	Kublai Khan.	グキムカク	Machiavelli.
クド、ウカルト	Cudworth.	グキムン、グキムン	Mayerne or Mentz.
クケル	Quaker.	グキム、グキム	Maximilian.
グランメル	Gutenberg.	グカク	Maurice.
グカホル	Guelfh.	グカク、グカク	Margaret.
グシム、カク	Graphens.	グカク	Maret.
グロム、グム	Gronigen.	グカク、グカク	Marburg.
グラル	Glarus.	グカク、グカク	Maullesler.
グスタウス、ウヤ	Gustavus Vasa.	グカク、グカク	Martensen.

名目

水